

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0250

平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省)

| 事業名 | 船舶運航に要する経費 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | 作成責任者 | | | |
|-------------------------------|--|---|--------|----------------------|--------------------------|-----------------------------|--------|--------------|-----------------|
| 事業開始年度 | 不明 | 事業終了 (予定) 年度 | 終了予定なし | 担当課室 | 資源管理部漁業取締課 増殖推進部漁場資源課 | 漁業取締課長 桑原 智 漁場資源課長 江口 静也 | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | - | | | 関係する 計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 宇宙開発利用、海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係、その他の事項経費 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | ①我が国の資源管理の取り組みに影響を及ぼす違法操業が悪質化・巧妙化するなか、漁業取締活動を通じて漁業秩序を維持することにより、漁業生産力の発展や水産資源の保護培養、海洋生物資源の適切な保存及び管理を図る。 ②漁業調査船による調査を通じて、海洋生物資源・漁場・海洋環境に関する知見を蓄積し、国際機関による管理対象魚種、漁業協定数の維持増大に貢献することで、水産資源の適切な管理と持続的な利用を確保する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | ①我が国周辺水域等において、7隻の官船及び37隻の用船による外国漁船、日本漁船の漁業取締り等を実施する。外国漁船等による違法操業等の指導・取締体制の強化のため、老朽化した既存官船の代船建造を実施する。 ②1隻(平成25年度まで2隻)の漁業調査船により、我が国として緊急的な対応が必要な調査や、漁業協定等に基づいて行われる国際共同調査など、国として国際貢献の立場を明確にする必要のある資源調査等を実施する。 (事務費) | | | | | | | | |
| 実施方法 | 直接実施 | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 12,883 | 12,809 | 14,344 | 16,379 | 20,588 | | |
| | | 補正予算 | - | 4,000 | 6,625 | - | | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | 3,999 | 7,431 | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | ▲ 3,999 | ▲ 7,431 | - | | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | | | |
| | 計 | 12,883 | 12,810 | 17,537 | 23,810 | 20,588 | | | |
| | 執行額 | 12,023 | 12,547 | 17,343 | | | | | |
| | 執行率 (%) | 93% | 98% | 99% | | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%) | 93% | 75% | 83% | | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 船舶運航費 | 3,118 | 4,207 | 老朽化した漁業調査船の代船建造による増。 | | | | | |
| | 船舶借料 | 9,751 | 9,923 | | | | | | |
| | 船舶建造旅費 | 7 | 11 | | | | | | |
| | 船舶建造庁費 | 1 | 2 | | | | | | |
| | 船舶建造費 | 3,448 | 6,390 | | | | | | |
| | その他 | 54 | 55 | | | | | | |
| | 計 | 16,379 | 20,588 | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 31 年度 |
| | ①重点取締水域の取締面積カバー率(※)の達成率100%を目指す。 ※目標値である取締面積カバー率は当該年度の重点取締面積や取締船隻数等によって変動する | ①重点取締水域における取締面積カバー率の達成状況(目標値は、重点取締水域の取締面積カバー率) 目標値/成果実績 ※ 目標値である取締面積カバー率は当該年度の重点取締面積や取締船隻数等によって変動するため、中期目標及び目標年度の設定はできない。 | 成果実績 | % | 39.9 | 39.9 | 39.9 | - | - |
| | | | 目標値 | % | 39.9 | 39.9 | 39.9 | - | 39.9 |
| | | | 達成度 | % | 100 | 100 | 100 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 31 年度 |
|----------------------------|-------------------------------------|------|--------------------------------|-------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------------------------|-----------------|
| | ②調査船調査との関連性の強い国際機関による資源評価対象魚種数の維持増大 | | ②調査船調査との関連性の強い国際機関による資源評価対象魚種数 | 成果実績 | 魚種 | 73 | 74 | 77 | - |
| 目標値 | | | | 魚種 | 71 | 73 | 74 | - | 77 |
| 達成度 | | | | % | 102.8 | 101.4 | 104.1 | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 国際漁業資源の資源管理対象魚種数等(未公表) | | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
| | ①取締日数 | 活動実績 | 日 | 9,378 | 9,385 | 9,440 | - | - | |
| 当初見込み | | 日 | 9,385 | 9,385 | 9,440 | 9,495 | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
| | ②調査日数 | 活動実績 | 日 | 180 | 180 | 180 | - | - | |
| 当初見込み | | 日 | 180 | 180 | 180 | 182 | 180 | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | (用船料+用船燃油料)/用船航海日数 | | 単位当たり コスト | 千円 | 1,215 | 1,198 | 1,248 | 1,295 | |
| | | | 計算式 | 千円/日数 | (8,591,337+ 1,299,917) /8,140 | (8,676,128+ 1,079,249) /8,140 | (9,097,850+ 1,060,701) /8,140 | (9,751,117+794,700) /8,140 | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | 船舶運航費/調査日数 | | 単位当たり コスト | 千円 | 2,122 | 1,993 | 1,964 | 1,719 | |
| | | | 計算式 | 千円/日数 | 381,939/ 180 | 358,794/ 180 | 353,588/ 180 | 312,842/182 | |

| | | | | | | | | | | | |
|--|---|--|--|-------------|------|------|--------------|--------------|------------|--|--|
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | | | |
| | 施策 | ⑩水産資源の回復 | | | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 年度 | | |
| | | ア 資源評価対象魚種のうち中位又は高位水準の魚種が占める割合 | 実績値 | % | 53.8 | 56.3 | 53.8 | - | | | |
| | | | 目標値 | % | 53.8 | 53.8 | 53.8 | - | | | |
| | | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 年度 | | |
| | | (ア)国際機関による資源管理対象魚種及び漁業協定数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 魚種数 | 92 | 93 | 96 | - | | | |
| | | | 目標値 | 魚種数 | 90 | 92 | 93 | - | | | |
| | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 年度 | | | |
| | (ア)国際機関による資源管理対象魚種及び漁業協定数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 協定数 | 53 | 53 | 53 | - | | | | |
| 目標値 | | 協定数 | 53 | 53 | 53 | - | | | | | |
| 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | | | |
| 我が国周辺水域等における、重点取締水域において漁業取締船による取締り等を実施し、巧妙化・悪質化・広域化している外国漁船や日本漁船の違法操業を未然に防止し、適切な資源管理により資源の維持増大を図り、水産物の安定供給の確保に寄与するものである。また、サンマ・ウナギ等の国際水産資源の調査を行うことにより、国際機関や二国間の漁業協力を通じた公海域における資源管理の推進を図るものである。 | | | | | | | | | | | |
| 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | | | |
| (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | | | |
| | 成果実績 | | | | | | | | | | |
| | 目標値 | | | | | | | | | | |
| (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | | | |
| | 成果実績 | | | | | | | | | | |
| | 目標値 | | | | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | | | |
| 事業所管部局による点検・改善 | | | | | | | | | | | |
| 国費投入の必要性 | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 | | | | | | | | |
| | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | ・漁業秩序を維持することにより我が国漁業者の生産活動を維持確保するとともに、外国漁船等による不法な操業から水産資源を守ることは、国の重大な責務であり国民の要請も高い。 ・国民から強い要望のある水産資源の適切な管理と持続的な利用の確保に不可欠な科学的知見を収集するための資源調査を実施するものである。 | | | | | | | | |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | ・外国漁船や県域を越えて操業する漁船の漁業取締りについて、地方自治体、民間等に委ねることは適当でない。 ・国の主導により確実に実施する必要がある漁業資源調査を行うものである。 | | | | | | | | |
| 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | ・漁業秩序の維持には取締活動は必要不可欠である。 ・科学的知見に基づく適切な資源管理を推進するために必要な資源調査等を行うものであり、優先度の高い事業である。 | | | | | | | | | |

| | | | | |
|------------------------------|--|--|--|-----|
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | × | ・一般競争を行い、複数の業者の参加を見込んでいたが、業者の都合により、結果的に一者応札となったものがある。(燃油、ドック) | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | ・漁業取締は我が国EEZ内で操業する外国漁船及び違法操業船に対し犯罪捜査を行う特殊な業務であることから、取締に適した船形や装備品が必要であることその他に、乗組員は漁業関係法令等に精通し、操作関係書類などの作成手順を熟知していることが求められる。更に、取締手法や行動日程のほか、取締能力に直結する船舶に搭載する機器類の整備状況や当該船舶の性能に関する情報を厳重に管理する必要がある。このため秘密随契により契約している。(会計法第29条の3第5項及び予算令第99条第1号) | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 外国漁船及び日本漁船の取締り、並びに漁業協定等に基づく国際共同調査は国の責務として国自らが行う必要があるため、国が負担すべきものである。 | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | - | 算定基準の基礎となる燃油代は、市場価格に左右されるため、比較ができない。更に、調査内容により使用機材等が異なることから、比較は困難である。 | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | 用船会社と直接契約している。 | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 用船料、燃油料、事務管理費等、真に必要なものに限定している。 | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 執行率は99%である。 | |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 繰り越しはなし(繰り越しは補正予算のみ) | | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 不要不急時には、効率的なコース取りや速力を選定するなどして燃油消費削減に努めている。 | | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 目標に対して、100%の達成率となっている。 | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | ・取締り業務は国の直接事務として行う必要があり、他の手段は考えられない。 ・国の主導により確実に実施する必要がある資源調査を行うものであり、民間委託等はなじまない。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 30年度の活動実績は、漁業取締活動については当初見込みの100%、資源調査については100%となっている。 | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | ・整備された海上監視カメラ等の機器類については十分活用されている。 ・資源調査の成果物である調査データについては、我が国の水産施策の基になるほか、国際交渉等の会議の場で適正な科学的議論を主導する上で信憑性の高いデータとして活用されている。 | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | 我が国水産資源の保存及び管理と漁業秩序の維持を目的とした漁業取締りを行っているのは当該事業のみである。 | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | | 事業名 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | 漁業取締船の効率的・効果的な運用、関係府省庁との連携・協力の推進により、漁業取締りの効果的な実施を図ってきたところであり、引き続き漁業取締体制の維持・強化を図りながら、取締業務を遂行することにより、漁業生産力の発展や水産資源の保護培養、海洋生物資源の適切な保存及び管理を図る。漁業資源調査は、水産資源の適切な管理及び持続的な利用の確保のために必要不可欠であり、国民のニーズも高い。資源調査によって得られたデータは、我が国水産施策の策定や国際交渉を行う際に広く活用されており、効率的かつ効果的な調査が行われるよう努めているが、建造から28年が経過し、調査能力の低下や安全・確実な運航に支障が出るおそれがある。 活動実績については、台風等の気象要因等に大きく影響されること、見込みよりも低下する場合もある。 単位当たりコストの算定基準の基礎となる燃油代は、市場価格に左右されることから、また調査内容により使用機材が異なることから単純に単位当たりコストが比較できないため評価は困難であるが、平常時には経済速力で航行し、燃油消費の抑制を図るよう、各船に対し通知を行うなど適正なコスト意識のもとで業務を行っている。 また、物品及び燃油の購入、船舶修繕その他役務工事の契約については一般競争入札を行い、複数の業者の参加を見込んでいたが、業者の都合により、結果的に1者応札となったものがある。 | |
| | 改善の方向性 | | 平成30年度から、北朝鮮漁船の違法操業があった大和堆周辺水域を重点取締水域に加えるなど、今後も重点取締水域が広がることによりカバー率は低下する可能性があるが、継続的な取締りの実施及び取締体制の強化のために必要な予算を確保しつつ、関係機関との連携強化などによる取締りの強化及び効率化を図る。また、資源調査に関しても、引き続き、効率的かつ効果的な調査を実施し、公海域等における資源管理の推進を図り、政策目標である「水産資源の回復」に資するよう努めるものとする。 | |
| 外部有識者の所見 | | | | |
| 外部有識者点検対象外 | | | | |

行政事業レビュー推進チームの所見

抜本的な改善の事業全体

・資金の流れA、B及びGについて、前年度に引き続き一者応札（一者応募）となっている。
 以上のことから、「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」を行うべきであり、本事業は「事業全体の抜本的な改善」とする。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執行等改善

1社応札になったのは、一般競争入札による契約全201件のうち29件（役務14件、物品購入15件）のみであり、引き続き参加できなかった業者から情報収集を行い、公告期間の延長を行うなどの改善策を講じるとともに、必要に応じて応札可能と思われる業者への声かけを行い、一般競争入札において競争性を確保する。

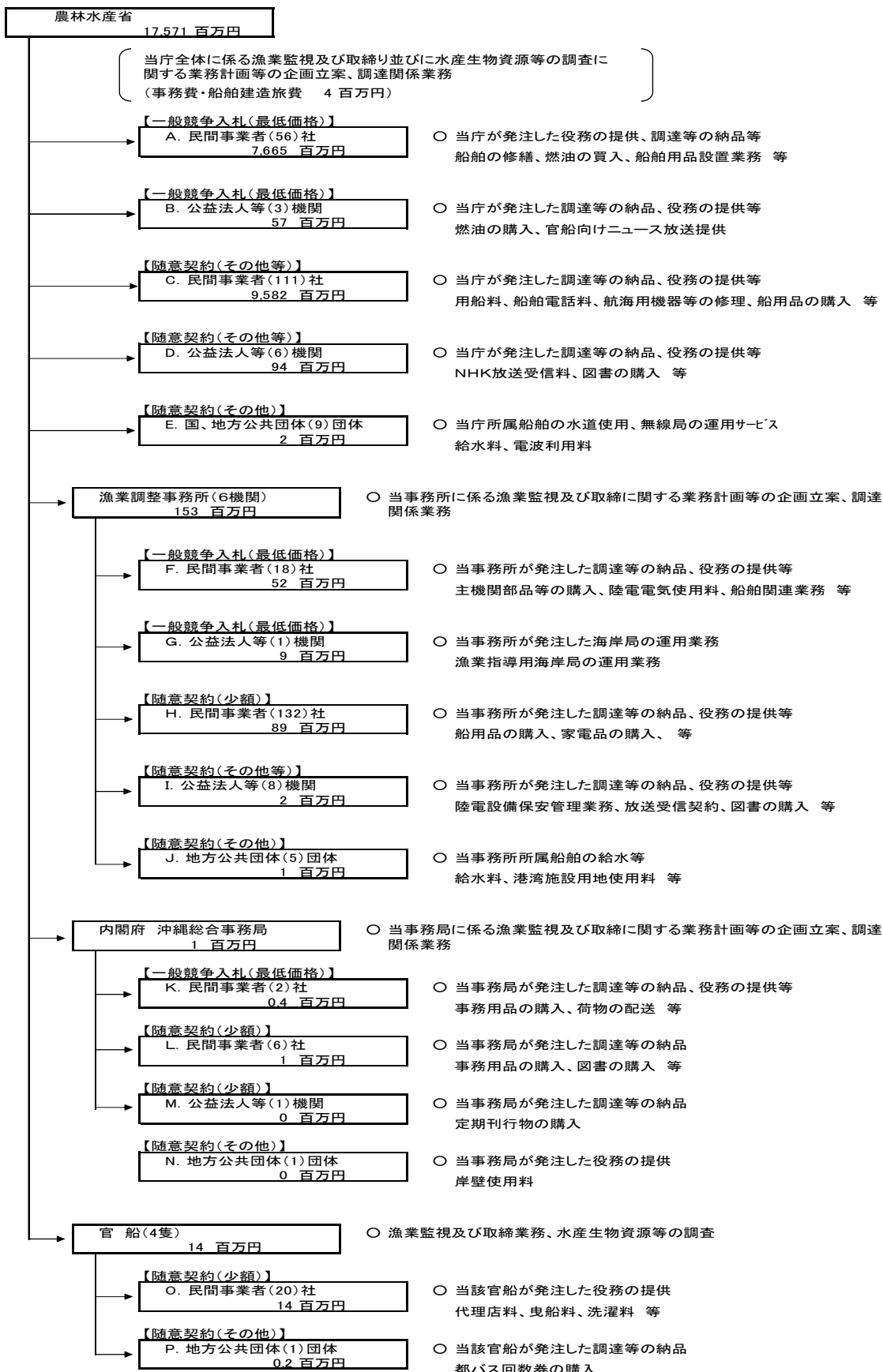
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|-------------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| 平成22年度 | - | 平成23年度 | - | 平成24年度 | 336 | 平成25年度 | 234 |
| 平成26年度 | 218 | 平成27年度 | 242 | 平成28年度 | 253 | 平成29年度 | 252 |
| 平成30年度 | 農林水産省（0254） | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| A.(株)新出光 九州支店 | | | B.兵庫県漁業協同組合連合会 | | |
|-------------------|--------------|-------------|-------------------|----------|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 物品費 | 燃油の購入 | 313 | 物品費 | 燃油の購入 | 35 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 313 | 計 | | 35 |
| C.播洋実業(株) | | | D.(一財)日本鯨類研究所 | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 船舶借料 | 用船料 | 1,153 | 物品費 | 燃油の購入 | 67 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 1,153 | 計 | | 67 |
| E.東京都港湾局東京港管理事務所 | | | F.那の津エンジニアリング株式会社 | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 光熱水料 | 給水料 | 2 | 物品費 | 主機関部品の購入 | 18 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 2 | 計 | | 18 |
| G.一般社団法人長崎県漁業無線協会 | | | H.株式会社マシン商会福岡支店 | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 雑役務費 | 漁業指導用海岸局委託業務 | 9 | 物品費 | 船用品の購入 | 7 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 9 | 計 | | 7 |

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載 チェック

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|------------------|---------------|------------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | (株)新出光 九州支店 | 9290001013666 | 燃油の購入 | 53 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 92.6% | |
| 2 | (株)新出光 九州支店 | 9290001013666 | 燃油の購入 | 44 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 92.8% | |
| 3 | (株)新出光 九州支店 | 9290001013666 | 燃油の購入 | 44 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 95.8% | |
| 4 | (株)新出光 九州支店 | 9290001013666 | 燃油の購入 | 171 | 一般競争契約 (最低価格) | - | - | |
| 5 | サンセイ(株)下関工場 | 3120001055482 | 船舶の修繕 | 153 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 91% | |
| 6 | サンセイ(株)下関工場 | 3120001055482 | 船舶の修繕 | 86 | 一般競争契約 (最低価格) | 3 | 65.1% | |
| 7 | サンセイ(株)下関工場 | 3120001055482 | 船舶の修繕 | 49 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 88.6% | |
| 8 | (株)キュービック・アイ | 7010701002675 | 船舶航跡システムの端末設置及び保守運用業務等 | 261 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 89.9% | |
| 9 | 堀田石油(株) | 6270001003853 | 燃油の購入 | 36 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 90.2% | |
| 10 | 堀田石油(株) | 6270001003853 | 燃油の購入 | 24 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 85.8% | |
| 11 | 堀田石油(株) | 6270001003853 | 燃油の購入 | 19 | 一般競争契約 (最低価格) | 3 | 86.8% | |
| 12 | 堀田石油(株) | 6270001003853 | 燃油の購入 | 144 | 一般競争契約 (最低価格) | - | - | |
| 13 | 郵船商事(株) | 5020001091585 | 燃油の購入 | 45 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 86.6% | |
| 14 | 郵船商事(株) | 5020001091585 | 燃油の購入 | 39 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 93.5% | |
| 15 | 郵船商事(株) | 5020001091585 | 燃油の購入 | 33 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 83.4% | |
| 16 | 郵船商事(株) | 5020001091585 | 燃油の購入 | 88 | 一般競争契約 (最低価格) | - | - | |
| 17 | (株)りゆうせき | 5360001009256 | 燃油の購入 | 36 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 93.1% | |
| 18 | (株)りゆうせき | 5360001009256 | 燃油の購入 | 34 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 92.2% | |
| 19 | (株)りゆうせき | 5360001009256 | 燃油の購入 | 26 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 89.5% | |
| 20 | (株)りゆうせき | 5360001009256 | 燃油の購入 | 102 | 一般競争契約 (最低価格) | - | - | |
| 21 | リーフエナジー(株) | 4010401035862 | 燃油の購入 | 27 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 92.3% | |
| 22 | リーフエナジー(株) | 4010401035862 | 燃油の購入 | 27 | 一般競争契約 (最低価格) | 3 | 86.5% | |
| 23 | リーフエナジー(株) | 4010401035862 | 燃油の購入 | 24 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 93.3% | |
| 24 | リーフエナジー(株) | 4010401035862 | 燃油の購入 | 111 | 一般競争契約 (最低価格) | - | - | |
| 25 | ジャパンマリンユナイテッド(株) | 8020001076641 | 船舶の修繕 | 174 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 75.6% | |
| 26 | 伊藤忠エネクス(株) | 9010401078551 | 燃油の購入 | 51 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 94.8% | |
| 27 | 伊藤忠エネクス(株) | 9010401078551 | 燃油の購入 | 41 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 96.9% | |
| 28 | 伊藤忠エネクス(株) | 9010401078551 | 燃油の購入 | 23 | 一般競争契約 (最低価格) | 3 | 93.6% | |
| 29 | 伊藤忠エネクス(株) | 9010401078551 | 燃油の購入 | 43 | 一般競争契約 (最低価格) | - | - | |

B

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------|---------------|------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | 兵庫県漁業協同組合連合会 | 3140005006389 | 燃油の購入 8件 | 35 | 一般競争契約 (最低価格) | - | - | |
| 2 | 全国漁業協同組合連合会 | 5010005002234 | 代理店料 | 19 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 88.4% | |
| 3 | 一般社団法人共同通信社 | 4010405008740 | 船舶向けニュース提供 | 2 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 100% | |

C

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|------------|---------------|------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 播洋実業(株) | 2040001036599 | 用船料 | 1,153 | 随意契約 (その他) | - | - | 業務の特殊性を考慮し、秘密随契約としている。(会計法第29条の3第5項及び予決令第99条第1項第1号) |
| 2 | 東日本船舶(株) | 4370501000391 | 用船料 | 839 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 3 | (株)泰州 | 1310001002475 | 用船料 | 829 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 4 | (株)洗洋 | 9010401009820 | 用船料 | 773 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 5 | (株)ケーエスジェー | 9010401055906 | 用船料 | 739 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 6 | 東光船舶(株) | 7040001069553 | 用船料 | 669 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 7 | 東洋船舶(株) | 3310001002564 | 用船料 | 513 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 8 | 大岡船舶(株) | 6010001085067 | 用船料 | 471 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 9 | 七洋船舶(株) | 6021001043468 | 用船料 | 451 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 10 | (株)荒津船舶 | 5011801014026 | 用船料 | 425 | 随意契約 (その他) | - | - | |

D

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------------|---------------|---------------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | (一財)日本鯨類研究所 | 2010005003623 | 燃油の購入 外1件 | 67 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 2 | (社)海洋水産システム協会 | 7010005011877 | 建造に関する仕様書作成支援業務 外1件 | 23 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 3 | 日本放送協会 | 8011005000968 | NHK放送受信料 | 2 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 4 | 海技大学校 | 8000020130001 | 受講料 | 0.6 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 5 | 一般社団法人 漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | 海況・気象情報サービス利用料 | 0.2 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 6 | 全国漁業調査取締船事業協同組合 | 4010405002776 | 岸壁水道料及び電気料 | 0.2 | 随意契約 (その他) | - | - | |

E

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|-------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 東京都港湾局東京港管理事務所 | 8000020130001 | 給水料 | 2 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 2 | 関東総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0.1 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 3 | 九州総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0.1 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 4 | 東北総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 5 | 北海道総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 6 | 近畿総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 7 | 中国総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 8 | 東海総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 9 | 北陸総合通信局 | 2000012020001 | 電波利用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | - | |

F

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|---------------------|---------------|--------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | 那の津エンジニアリング株式会社 | 1290001017724 | 主機関部品の購入 | 9 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 99.8% | |
| 2 | 那の津エンジニアリング株式会社 | 1290001017724 | 主機関部品の購入 | 6 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 99.9% | |
| 3 | 那の津エンジニアリング株式会社 | 1290001017724 | 主機関部品の購入 | 3 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 99.9% | |
| 4 | 関西電力株式会社 | 3120001059632 | 陸電設備電気使用料 | 7 | 一般競争契約 (最低価格) | 4 | 70.7% | |
| 5 | サンセイ株式会社下関工場 | 3120001055482 | 船底外板清掃塗装及びその他工事 | 5 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 77.2% | |
| 6 | 株式会社山本船具店 | 8140001011487 | ウォータージェット推進装置部品の購入 | 2 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 96.1% | |
| 7 | 日新興業株式会社 | 1120001057571 | 空調装置(日新興業)用凝縮器の購入 | 2 | 一般競争契約 (最低価格) | 3 | 93% | |
| 8 | 反田商事株式会社 | 2010001022560 | 海洋生物付着防止剤購入 | 2 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 92.3% | |
| 9 | 出光リテール販売株式会社九州カンパニー | 2010001126403 | 潤滑油購入 | 2 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 94.3% | |
| 10 | 株式会社エビス事務器 | 6290001011937 | トナーカートリッジ等購入代 | 2 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 90.5% | |

G

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------------|---------------|--------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | 一般社団法人長崎県漁業無線協会 | 6310005000611 | 漁業指導用海岸局委託業務 | 9 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 96.7% | |

H

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|--|--------------------------|---------------|--------------|--------------|--------------|----------------|------|---|
| 1 | 株式会社マシ商会福岡支店 | 9290801005714 | 船用品の購入 外21件 | 7 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 2 | 株式会社山本船具店 | 8140001011487 | 船用品の購入 外5件 | 7 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 3 | まるか商事(株) | 2270001003857 | 船用品の購入 外13件 | 7 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 4 | 富永物産株式会社姫路事業所 | 6010001052075 | 主機関部品の購入 外4件 | 4 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 5 | 株式会社ポートリリーフエンジニアリング下関営業所 | 5011501012973 | 発電機部品の購入 | 3 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 6 | JRCS株式会社 | 5250001006140 | 船舶関係業務 外6件 | 3 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 7 | 日本無線株式会社九州支社 | 3012401012867 | 船舶関係業務 外14件 | 3 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 8 | 東京測器株式会社 | 5010001034256 | 船舶関係業務 外5件 | 3 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 9 | (株)昭和船具店 | 4270001003797 | 船舶関係業務 外10件 | 3 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 10 | (株)きさらぎ | 2270001004038 | 船用品の購入 外21件 | 2 | 随意契約 (少額) | - | - | |
| 支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 | | | | | | | チェック | <input checked="" type="checkbox"/> |

国庫債務負担行為等による契約先上位10者リスト

| | ブロック名 | 契約先 | 法人番号 | 業務概要 | 契約額 (百万円) | 契約方式 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (契約額10億円以上) |
|---|-------|------------------|---------------|------------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | A | ジャパンマリンユナイテッド(株) | 8020001076641 | 漁業取締船建造 | 6,404 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 80.9% | |
| 2 | A | 三井E&S造船株式会社 | 9010001183776 | 漁業取締船建造 | 4,444 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 99.9% | 業務の都合(岸壁の確保不可)により一社応札となったため、改善は困難と考える。 |
| 3 | A | コーンズテクノロジー(株) | 1010401098920 | 長距離音響 | 63 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 94.1% | |
| 4 | B | 一般社団法人海洋水産システム協会 | 7010005011877 | 漁業取締船建造に係る図面考査及び技術支援業務 | 39 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 92.8% | |
| 5 | A | 古野電気株式会社 | 5140001070263 | 無線装置の製造 | 16 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 21.3% | |
| 6 | A | 湘南工作販売(株) | 5010801005613 | 電光式 | 15 | 一般競争契約 (最低価格) | 3 | 45.3% | |

| I.鳥取県かにかご漁業組合 | | | J.福岡市水道事業管理者 | | |
|-----------------|----------|--------------|--------------|---------|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 雑役務費 | 保管倉庫賃貸借料 | 0.8 | 光熱水料 | 給水料 | 0.6 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0.8 | 計 | | 0.6 |
| K.沖縄ゼロックス(株) | | | L.株)丸仁 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 物品費 | 事務用品の購入 | 0.2 | 物品費 | 事務用品の購入 | 0.3 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0.2 | 計 | | 0.3 |
| M.一般財団法人 日本水路協会 | | | N.沖縄県 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 物品費 | 定期刊行物の購入 | 0 | 雑役務費 | 岸壁使用料 | 0 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| O.芝浦通船株式会社 | | | P.東京都交通局 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 雑役務費 | 曳船料 | 3 | 物品費 | 都バス回数券代 | 0.2 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 3 | 計 | | 0.2 |

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 鳥取県かにかご漁業組合 | - | 倉庫賃借料 | 0.8 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 2 | 日本放送協会 | 8011005000968 | NHK放送受信料 | 0.4 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 3 | 一般財団法人九州電気保安協会福岡支部 | 2290005013264 | 陸電設備保安管理業務手数料 | 0.3 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 4 | 一般社団法人仙崎漁業無線協会 | 3250005004737 | 漁業無線局使用料 | 0.2 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 5 | 一般財団法人日本水路協会 | 7010805001912 | 海図の購入 | 0 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 6 | 一般社団法人 神戸清港会 | 7140005001477 | 神戸清港会美化分担金 | 0 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 7 | 一般財団法人 情報通信振興会 | 3013305001741 | 追録の購入 | 0 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 8 | 一般社団法人海洋水産システム協会 | 7010005011877 | 図書の購入 | 0 | 随意契約 (少額) | - | -- | |

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|-----------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 福岡市水道事業管理者 | 3000020401307 | 給水料 | 0.6 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 2 | 米子市水道事業管理者 | 8000020312029 | 給水料 | 0.4 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 3 | 神戸市水道局 神戸市水道事業管理者 | 9000020281000 | 給水料 | 0.1 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 4 | 福岡市会計管理者 | 3000020401307 | 港湾施設用地使用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | -- | |
| 5 | 兵庫県東播磨県民局長 | 8000020280003 | 港湾施設用地使用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | -- | |

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------|---------------|---------|--------------|------------------|----------------|-----|---|
| 1 | 沖縄ゼロックス(株) | 6360001007085 | 事務用品の購入 | 0.2 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | | |
| 2 | 株)丸仁 | 8360001009195 | 事務用品の購入 | 0.2 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | | |

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------------|---------------|---------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | 株)丸仁 | 8360001009195 | 事務用品の購入 | 0.3 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 2 | (株)三虎 | 6360001009461 | 事務用品の購入 | 0.2 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 3 | コニカミノルタジャパン株式会社 | 9013401005070 | 事務用品の購入 | 0 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 4 | 日本無線株式会社 沖縄営業所 | 3012401012867 | 事務用品の購入 | 0 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 5 | 株式会社沖縄ヤマダ電機(那覇本店営業所) | 1070001011212 | 事務用品の購入 | 0 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 6 | 株式会社 リプロプラス | 5012801018891 | 事務用品の購入 | 0 | 随意契約 (少額) | - | -- | |

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|----------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | 一般財団法人 日本水路協会 | 7010805001912 | 定期刊行物の購入 | 0 | 随意契約 (少額) | - | -- | |

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----|---------------|-------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 沖縄県 | 1000020470007 | 岸壁使用料 | 0 | 随意契約 (その他) | - | -- | |

O

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|---------------------|---------------|----------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | 芝浦通船株式会社 | 6010401013461 | 曳船料 外34件 | 3 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 2 | 株式会社 グロウェル商会 | 1290001012857 | 代理店料 外9件 | 3 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 3 | 菊池クリーニング店 | - | 洗濯料 外17件 | 2 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 4 | 東京シップサービス株式会社 | 3010401020642 | 綱取料 外43件 | 1 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 5 | 函館海運株式会社 | 2440001001604 | 代理店料 外2件 | 0.8 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 6 | 共栄運輸株式会社 | 8440001000559 | 代理店料 外1件 | 0.6 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 7 | ナラサキスタックス(株)石狩新港営業所 | 2430001053522 | 代理店料 外2件 | 0.6 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 8 | 富士運輸(株) | 9110001004773 | 代理店料 外1件 | 0.5 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 9 | 株式会社ユニエックスエーゼンシー | 1010701025062 | 代理店料 | 0.4 | 随意契約 (少額) | - | -- | |
| 10 | 入交海運株式会社 | 4490001000211 | 代理店料 | 0.4 | 随意契約 (少額) | - | -- | |

P

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------|---------------|---------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 東京都交通局 | 8000020130001 | 都バス回数券代 | 0.2 | 随意契約 (その他) | - | -- | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0251

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|--|--------|----------------|------------------------|------|--------|-----------------|-----------------|
| 事業名 | 漁場油濁被害対策費 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 昭和49年度 | 事業終了(予定)年度 | 終了予定なし | 担当課室 | 増殖推進部漁場資源課 | | | 漁場資源課長 江口 静也 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | - | | | 関係する 計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | <p>本事業は、船舶、工場及び海上流出した油等による漁場油濁であって、その原因者が判明しないものにかかる被害漁業者の迅速な救済と漁場の保全を図り、その上で漁業経営の安定に資することを最終目標としている。そのため以下3点の課題を解消するために本事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初動対応の遅れによる事故発生後の油濁被害の拡大防止 ・油濁被害による漁業被害の速やかな復旧 ・油汚染防止に関する基本的知識を有した指導者の養成 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | <p>① 漁業者等が行う油濁の拡大防止及び汚染漁場の清掃に要する経費の支弁を行う。(補助:定額)</p> <p>② 漁業被害額及び防除費等の審査認定を行う。(補助:定額)</p> <p>③ 実技指導を含めた油防除の指導者養成を行うための講習会の開催、及び漁場油濁事故発生に際し専門家の派遣を行う。(補助:定額)</p> | | | | | | | | |
| 実施方法 | 補助 | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 29 | 25 | 25 | 25 | 25 | | |
| | 執行額 | 23 | 20 | 21 | | | | | |
| | 執行率(%) | 79% | 80% | 84% | | | | | |
| 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | 79% | 80% | 84% | | | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 水産資源回復対策事業費 補助金 | 25 | 25 | | | | | | |
| | (漁場油濁被害対策費) | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | 25 | 25 | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 33 年度 |
| | ①②③原因者不明の油濁事故の認定された漁業被害の回復率100% | 審査認定事業において認定された案件のうち、防除清掃活動により原状復旧が完了した案件の割合。 (計算式:(防除清掃活動により原状復旧が完了した案件数)÷(審査認定事業における認定案件数)) | 成果実績 | % | 100 | - | 100 | - | - |
| | | | 目標値 | % | 100 | - | 100 | - | 100 |
| | | | 達成度 | % | 100 | - | 100 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |

| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
|------------------------|---|--|-----------|-------------|-------------|-------|------------|--------------|---------------|
| | | ①②③漁場油濁事故の発生は予測困難で当初の見込みが立たないことから、漁場油濁事故発生に際し防除清掃活動に支弁した件数及び漁場油濁事故発生に際し専門家を派遣した件数。 | 活動実績 | 件数 | 2 | 3 | 1 | - | - |
| | 当初見込み | 件数 | 2 | 4 | 4 | 3 | 3 | | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
| | | ③指導者養成事業(講習会)開催件数 | 活動実績 | 件数 | 32 | 20 | 32 | - | - |
| | 当初見込み | 件数 | 26 | 32 | 20 | 20 | 20 | | |
| 単位当たりコスト | | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | | ②中央漁場油濁被害等認定審査会に要した費用 ／認定件数 (漁業油濁被害事故の発生は予測困難であることから見込みを立てるのは困難) | 単位当たりコスト | 千円 | 284 | - | 897 | - | |
| | 計算式 | 千円/件数 | 567/2 | - | 897/1 | - | | | |
| 単位当たりコスト | | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | | ③専門家の派遣費用／派遣件数 | 単位当たりコスト | 千円 | - | 949 | - | - | |
| | 計算式 | 千円/件数 | - | 2,847/3 | - | - | | | |
| 単位当たりコスト | | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | | ③指導者養成の講習会等費用／開催件数 | 単位当たりコスト | 千円 | 586 | 650 | 455 | - | |
| | 計算式 | 千円/件数 | 18,739/32 | 13,008/20 | 14,573/32 | - | | | |
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5. 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ㊸水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 34 年度 |
| | | 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量 | 実績値 | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | 1,739 |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | 漁場油濁事故に際し迅速な事故対応の確保は漁業被害を最小にとどめ、もって栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量の確保に資する。 | | | | | | | | |
| | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 |
| | | 成果実績 | | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | |
| | 達成度 | % | | | | | | | |
| (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | 成果実績 | | | | | | | | |
| | 目標値 | | | | | | | | |
| | 達成度 | % | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|---|--|---|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 昭和47年当時、高度経済成長に伴う石油輸送や海上交通の増大により、原因者不明の油濁事故に対処するため、衆・参両院交通対策特別委員会や水産部会赤潮油濁対策小委員会等の議論を経て、最終的には農林・通産・運輸の事務次官による「了解事項」を取り交わし、昭和50年度から原因者不明の油濁事故に対して被害者救済のため、公費(国、都道府県)及び民間事業者が費用負担し、油濁被害対策として実施してきた経緯があり、事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映した事業となっている。 近年においても、海上保安庁の発表によると、油による海洋汚染の確認件数は、平成30年283件(平成29年286件)、そのうち原因者不明については平成30年80件(平成29年112件)で前年より32件減少しているものの、継続して確認していることから、漁場油濁被害が生じた場合の速やかな対応が求められている。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 事業実施主体は、昭和50年に被害漁業者を救済するために設立された法人であり、公費(国、都道府県)及び民間事業者が費用負担し拠出した基金の管理及び防除清掃費の支弁は第三者による公正・中立な立場での審査認定、専門家派遣等油濁被害防止対策事業に至る一連の事業を一体的に行っており、公募によらず支出先を選定している。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 原因者が不明の漁場油濁被害について、被害漁業者が行った漁場油濁の拡大防止及び汚染漁場の清掃を支弁する事業であり、被害漁業者の迅速な救済と漁場の保全を図り、漁業経営の安定に資する、必要かつ適切な事業である。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | - | 事業実施主体は、昭和50年に被害漁業者を救済するために設立された法人であり、公費及び民間事業者が費用負担し拠出した基金の管理及び防除清掃費の支弁は第三者による公正・中立な立場での審査認定、専門家派遣等油濁被害防止対策事業に至る一連の事業を一体的に行っており、公募によらず支出先を選定している。 |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 無 | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 原因者が不明の漁場油濁被害について、被害漁業者が行った漁場油濁の拡大防止及び汚染漁場の清掃を支弁する事業であり、被害漁業者の迅速な救済と漁場の保全を図り、漁業経営の安定に資する、必要かつ適切な事業である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | - | 防除・清掃事業、審査認定事業及び油濁被害防止対策事業(専門家派遣)について、漁場油濁事故の発生を予測するのは困難であり、事故の発生回数、事故の発生場所等の他律的要因によって単位あたりのコストが増減するため比較できない。 油濁被害防止対策事業(指導者養成講習会)は、漁協等の要望を受け開催し、講習会の内容は基礎知識の講義、水槽実験及び地域の漁業の実態や地形、潮流等の状況に応じた実技指導等を行っており内容が変り比較できないが、平成30年度は、効率的な予算の執行に努めたことにより前年に比べてコストを低く抑えることができています。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | (中間段階の支出はない) |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 費用・使途については不必要な項目がなく限定されている。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 平成30年度において、原因者不明の漁場油濁事故は1件発生したが、防除・清掃事業にかかる経費が少額であったことから、不用額として国庫に返納したため執行率が84%となった。 油濁被害防止対策事業(指導者養成講習会、専門家派遣)については、確実に実施している。 |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越はない。 | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | HPに各種手引書等を掲載したり、会議でプロジェクターを利用したりすることにより印刷製本費、通信運搬費等のコスト削減や効率化に向け工夫が行われている。 | |

| | | | | |
|--|---|------|---|-------------|
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 成果目標は、防除・清掃事業の実施により汚染漁場の現状回復を図ることとしており、平成30年度に発生した原因者不明の漁場油濁被害の1件について、いずれも原状回復する結果となった。 | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 昭和47年当時、高度経済成長に伴う石油輸送や海上交通の増大により、原因者不明の油濁事故に対処するため、衆・参両院交通対策特別委員会や水産部会赤潮油濁対策小委員会等の論議を経て事業が実施されており、費用は国、都道府県、民間団体の拠出金によって実施しており、現在の手段・方法等が最善である。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 防除清掃活動事業及び審査認定事業は、対象となる漁場油濁事故が1件発生し、申請者に対し支弁を行ったものの、専門家派遣事業は、専門家の派遣が必要な漁場油濁被害及び専門家の派遣要請がなかったことから、結果的に全体として当初見込み回数を下回った。 漁場油濁事故の初動対応における現場の指導者を養成するための実技指導を含めた講習会の開催は、見込み以上に実施されており、受講者の反応は好評である。 | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 漁場油濁被害救済制度と申請の手引書、漁業者向け油防除マニュアル等作成し、関係者に配布及びHPへ掲載し、有効に活用されている。 | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | ○ | 国土交通省の事業は、外国船舶からの大量の油等防除措置を講じた場合の事業であって、船主から費用徴収できない場合の地方公共団体への補助である。当該事業は、原因者不明の油濁被害による漁業被害拡大防止のため措置する事業であり、それぞれ役割分担が分かれている。 | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | | 事業名 |
| | 国土交通省 | - | | 外国船舶油等防除対策費 |
| | | | | |
| | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | <ul style="list-style-type: none"> 平成30年度において、原因者不明の漁場油濁事故は1件発生したが、防除・清掃事業にかかる経費が少額であったことから、不用額として国庫に返納したため執行率が84%となった。 平成30年度において、原因者不明の漁場油濁事故による漁業被害に対する防除・清掃活動への支弁事業が1件あったものの、油濁被害の拡大を防止するための専門家派遣は、専門家の派遣が必要な漁場油濁被害及び専門家の派遣要請がなかったことから、活動目標の当初見込み回数を下回った。 | |
| | 改善の方向性 | | <ul style="list-style-type: none"> 漁場油濁事故の発生は予測できるものではなく、万が一の事故に備えて一定の費用を確保していなければならない。当該年度に事故発生が少なかった場合には、防除・清掃事業について不用額が生じるものである。 「漁場油濁事故発生に際し防除清掃活動に支弁した件数及び漁場油濁事故発生に際し専門家を派遣した件数」の当初見込み回数は、平成25～29年度の実績の平均値としているが、漁場油濁事故の発生は予測困難で当初の見込みが立たないことから、当該油濁事故が発生した際、適切に対応を行う。 | |
| 外部有識者の所見 | | | | |
| 油濁からの回復をアウトカムとするのは理解できるので、追加的に当該回復が効率的になされたということを確認できるような指標も検討して欲しい。 | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | |
| 一部の事業内容改善 | <ul style="list-style-type: none"> 外部有識者から成果指標の追加を検討することの指摘があった。 以上のことから、「適切な指標の設定」を行うべきであり、本事業は「事業内容の一部改善」とする。 | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | | |
| 執行等改善 | 原因者不明の漁場油濁事故による被害は、海域や漁業種類等により大きく異なるため、回復が効率的になされたことを確認できる一律的な指標を設定することは困難である。 他方、審査認定事業において漁業者が行った防除・清掃作業に要した費用について、適切であるか審査・認定しており、引き続き、効率的な漁場の回復に努める。 | | | |
| 備考 | | | | |

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| 平成22年度 | 0437 | 平成23年度 | 0312 | 平成24年度 | 0300 | 平成25年度 | 0235 |
| 平成26年度 | 0219 | 平成27年度 | 0243 | 平成28年度 | 0254 | 平成29年度 | 0253 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0255) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

農林水産省 21百万円

↓
補助

A.(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構 21百万円

- | | |
|--------------|---------|
| ①防除・清掃事業 | 0.06百万円 |
| ②審査認定事業費 | 5百万円 |
| ③油濁被害防止対策事業費 | 16百万円 |

- ① 漁業者等が行う油濁の拡大防止及び汚染漁場の清掃に要する経費の支弁を行う。
- ② 漁業被害額及び防除費等の審査認定を行う。
- ③ 実技指導を含めた油防除の指導者養成を行うための講習会の開催、及び要請に応じ専門家の派遣を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をやっているかについて補足する)
(単位:百万円)

| | A.(公財)海と渚環境美化・油濁対策機構 | | | B. | | |
|--|----------------------|---------------------------------------|-------------|----|-----|-------------|
| | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載) | 技術者賃金 | 指導者養成講習会に要する専門技術者及び専門技術者補助に要する費用 | 8 | | | |
| | 技術者賃金 | 審査認定事業に要する専門技術者及び専門技術者補助に要する費用 | 5 | | | |
| | 旅費 | ・調査旅費等 ・その他業務に係る移動費・乗車賃 | 2 | | | |
| | 通信運搬費 | ・講習会実施に係る資機材輸送費 ・油濁情報発送料 | 1 | | | |
| | 技術者賃金 | 指導者養成・油濁情報編集等に要する専門技術者及び専門技術者補助に要する費用 | 1 | | | |
| | 印刷製本費 | ・専門図書等購入 ・油濁情報印刷製本費 | 1 | | | |
| | 技術者賃金 | 専門家派遣事業検討委員会に要する専門技術者及び専門技術者補助に要する費用 | 1 | | | |
| | 謝金 | ・審査委員及び専門家委員謝金 ・油濁情報原稿料、講習会講師謝金 | 1 | | | |
| | 賃金 | 指導者養成講習会、油濁情報及びホームページ等の編集補助に係る臨時雇用賃金 | 1 | | | |
| | 借損料 | ・指導者養成事業における用船料、会場借料、PC等のリース料等 | 0 | | | |
| | 計 | | 21 | 計 | | 0 |

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------------|---------------|----------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 公益財団法人海と渚環境美化・油濁対策機構 | 5010005000139 | 漁場油濁被害の防止のための指導者養成事業等を行った。 | 21 | 補助金等交付 | - | - | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0252

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|-------------|--------|---------------------------------------|------------------------|------|--------|----------------|----------------|
| 事業名 | さけ・ます漁業協力事業費補助金 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 昭和53年度 | 事業終了(予定)年度 | 終了予定なし | 担当課室 | 資源管理部管理調整課 | | | 管理調整課長 廣野 淳 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | — | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | ロシア系さけ・ますの再生産及び保存に協力することにより、日口間の漁業協力関係の円滑化を図り、我が国さけ・ます漁業の安定的な継続を図る。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 毎年3月頃に開催される日口漁業合同委員会の結果に基づき、我が国漁業者が漁獲するロシア系さけ・ますの再生産及び保存への協力の一環として、日本側からロシア側に対して行う、機械及び設備(以下「機械等」という。)の供与を実施するために必要な経費の一部を助成する。 具体的には、当該機械等の購入に必要な資金の造成に係る経費のうち、機械等供与分(補助率:3/4)及び当該事業の実施に必要な翻訳料、通訳料等の事務的経費(補助率:定額)を助成する。 | | | | | | | | |
| 実施方法 | 補助 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 105 | 105 | 105 | 105 | 119 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | 計 | | 105 | 105 | 105 | 105 | 119 | | |
| | 執行額 | | 104 | 103 | 104 | | | | |
| | 執行率(%) | | 99% | 98% | 99% | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | | 99% | 98% | 99% | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | さけ・ます漁業協力事業費補助金 | 105 | 119 | 協力の規模は毎年開催される日口漁業合同委員会の結果に基づき決定されるため。 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | 105 | 119 | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 |
| | 毎年の日口交渉において1隻当たりの漁獲可能量40トンの確保 | 1隻当たりの漁獲可能量 | 成果実績 | トン | 46 | 45 | 44 | - | - |
| | | | 目標値 | トン | 40 | 40 | 40 | - | - |
| | | | 達成度 | % | 115 | 113 | 110 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |

| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
|--|---|-----------------------|--------|-------------|------------|-------------|--------------|--------------|---------------|
| | 活動実績 | 当初心見込み | | | | | | | |
| ロシア系さけますの再生産・保存のため、ロシアの極東地域において、ふ化放流を実施した施設の数(平成30年度実績集計中) | 活動実績 | | 箇所 | 38 | 38 | - | - | - | |
| | 当初心見込み | | 箇所 | 38 | 38 | 38 | - | - | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | 国庫補助金/施設数 (平成30年度実績集計中) | 単位当たりコスト | | | | | 千円 | 2,756 | 2,756 |
| | | 計算式 | 千円/施設数 | 104,744/38 | 104,744/38 | 105,030 /38 | - | | |
| 政策評価 政策評価・新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5. 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑳ 水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 30 年度 |
| | | 国際機関による資源管理対象魚種 | 実績値 | 魚種 | 92 | 93 | 96 | - | - |
| | | | 目標値 | 魚種 | 90 | 92 | 93 | - | |
| | | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 30 年度 |
| | | 国際機関による漁業協定数 | 実績値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | | - |
| | | | 目標値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | | |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・当該施策目標は、我が国水産資源の持続的利用の確保、我が国水産物の自給率を維持・強化するため、国際機関や二国間の漁業協力等を通じた国際的な資源管理の推進を図ることを目標としている。 ・ロシア系さけ・ますを主な漁獲対象としている我が国漁業者が、我が国水域においてロシア系さけ・ますを漁獲するためには、母川国主義に基づき、協定に基づく政府間合意で保存管理について協力費を支払うことになっているところ。 ・当該経費は日ロ漁業協定に基づくものであり、協定維持のために、ロシア系さけ・ますの保存・再生産のための協力を行うものである。 | | | | | | | | |
| 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | |
| (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | 成果実績 | | | | | | | | |
| | 目標値 | | | | | | | | |
| (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | 成果実績 | | | | | | | | |
| | 目標値 | | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| 項目 | | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|--|--|--|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | ロシア系さけ・ますの再生産及び保存を図ることにより、日口間の漁業協力関係の円滑化を図り、我が国さけ・ます漁業の安定的な継続及び我が国国民への水産資源の安定供給に資するものであり、国民のニーズに合うものである。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 日口政府間合意に基づく国際協力であるため、国の事業として実施すべきである。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 毎年の日口交渉における適当な漁獲可能量及び操業の維持に資する事業であり、優先度は高い。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | - | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 無 | 特定:太平洋小型さけ・ます漁業協会(我が国水域でロシア系さけ・ますを漁獲する漁業者で構成) |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 国際交渉の場で定められた漁獲割当量をもとに操業した漁業者であるため、負担関係は妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | - | 日口漁業交渉において協力金の額を決定している。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 中間段階の支出はない。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 国際交渉で決められた機材等の供与に必要な経費であるため、不必要な項目はない。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 執行率は99%である。(平成30年度実績) |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越額はない。 | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 毎年の日口交渉において、協力金の減少について交渉を行っているところ。 | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 1隻あたりの漁獲可能量40トンの目標に対し、44トンの漁獲可能量を確保した。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 国際交渉で定められた協力金を支払うという事業であるため、他の実行方法はない。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 30年度実績は集計中(秋頃に開催される日口科学者会議にて確認予定)であるが、29年度の活動実績は見込みに見合ったものとなっている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 日口漁業交渉及び日口科学者会議の場において、さけ・ます資源状態、ふ化場からの放流数等により確認を行った |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | - |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | ロシア系さけ・ますの再生産及び保存を図ることにより、日口間の漁業協力関係の円滑化を図るとともに、我が国さけ・ます漁業の安定的な継続及び我が国国民への水産資源の安定供給に資するものであり、国民のニーズに合うものである。 | |
| | 改善の方向性 | 引き続き適正なコスト意識の下、適切な事業の執行に努める。 | |
| 外部有識者の所見 | | | |
| 外部有識者点検対象外 | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | |
| 現状通り | 本事業は、引き続き、効率的な事業の実施に努めること。 | | |

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

本事業は、引き続き、効率的な事業の実施に努めてまいりたい。

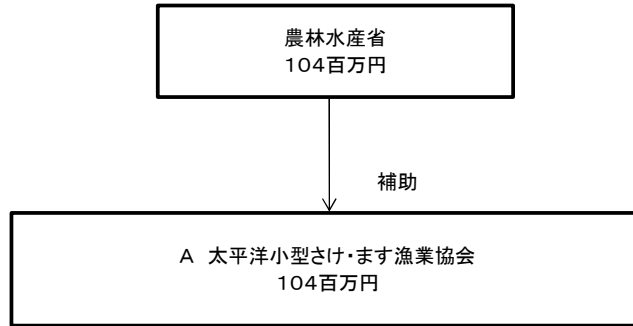
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| 平成22年度 | 0438 | 平成23年度 | 0313 | 平成24年度 | 0301 | 平成25年度 | 0236 |
| 平成26年度 | 0220 | 平成27年度 | 0244 | 平成28年度 | 0255 | 平成29年度 | 0254 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0256) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位：百万円)



〔 ロシアと機材等の納入契約を締結した上で、我が国漁業者から本件協元に要する経費を徴収し、日口漁業協力資金の造成を行う。 〕

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

| A.太平洋小型さけ・ます漁業協会 | | | B. | | |
|-------------------|---|-------------|----|----|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 日口漁業協力資金の造成に必要な経費 | ロシア連邦のさけ・ますの再生産に要する機材等の購入に係る経費 | 102 | | | |
| 日口漁業協力資金の造成に必要な経費 | ロシア連邦のさけ・ますの再生産に要する協力の実施に必要な事務的経費(翻訳料、通訳料等) | 2 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 104 | 計 | | 0 |

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|------|--|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 太平洋小型さけ・ます漁業協会 | - | ロシアと機材等の納入契約を締結した上で、我が国漁業者から本件協力に要する経費を徴収し、日ロ漁業協力資金の造成を行う。 | 104 | 補助金等交付 | - | - | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0253

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|-----------------|--------|---------------------|-------------------------|-------------|-------------|--------------|-----------------|
| 事業名 | 漁業調整委員会等交付金 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 昭和60年度 | 事業終了(予定)年度 | 終了予定なし | 担当課室 | 資源管理部管理調整課 | | | 管理調整課長 廣野 淳 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | 漁業法第118条、第132条(準用規定) | | | 関係する 計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日 閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 全国的な漁業秩序の維持を図るとともに、水産資源の回復・管理の推進等のためには、漁業法に基づき設置される海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会の活動により、漁業者等との間の漁業調整等が不可欠であり、その円滑な活動のために安定した財政基盤を確保する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 漁業者等を主体とする漁業調整機構として設置されている海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会が、漁業法をはじめとする漁業関係法令に規定する漁業に関する事項を処理するために必要な委員に要する経費、会議費、漁業調整に関する調査及び資料の整備等に要する基礎的経費を定額交付する。なお、本事業は、漁業法第118条及び第132条において準用する第118条に基づき国が都道府県に交付する交付金である。 | | | | | | | | |
| 実施方法 | 交付 | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 183 | 181 | 181 | 181 | 181 | | |
| | 執行額 | | 182 | 180 | 181 | | | | |
| | 執行率(%) | | 99% | 99% | 100% | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | | 99% | 99% | 100% | | | | |
| | 平成31-32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | |
| 漁業調整委員会等交付金 | | 181 | 181 | | | | | | |
| 計 | | 181 | 181 | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 35 年度 |
| | 資源管理計画における管理措置の遵守 | 資源管理計画の管理措置の履行率 | 成果実績 | % | - | - | 84.4 | - | - |
| | | | 目標値 | % | - | - | 95 | - | - |
| | | | 達成度 | % | - | - | 88.8 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 資源管理協議会における調査結果を集計 | | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
| | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会の委員会開催回数 | 活動実績 | 回 | 836 | 864 | 1,114 | - | - | |
| | | 当初見込み | 回 | 700 | 700 | 700 | 700 | 700 | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | 30年度の実績額÷(海区漁業調整委員会数+内水面漁場管理委員会数) (海区64+内水面47=111委員会) 1,633(千円/委員会) | | | 単位当たり コスト 計算式 | 千円/委員会 | 182,419/111 | 179,772/111 | 181,302/111 | 181,302/111 |

| | | | | | | | | | | |
|---------------------|--|------------------------------|------------|----|-------------|-------------|------|------------|--------------|--------------|
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5. 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | | |
| | 施策 | ⑳水産資源の回復 | | | | | | | | |
| | 政策評価 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 35年度 | |
| | | 資源評価対象魚種のうち中位又は高位水準の魚種が占める割合 | 実績値 | % | 53.8 | 56.3 | 53.8 | | | |
| | | | 目標値 | % | 53.8 | 53.8 | 53.8 | | | |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | |
| | 漁業調整委員会等の活動を通じ、各地域での資源回復計画や資源保護の取組が進むことにより、水産資源の回復に寄与する。 | | | | | | | | | |
| | 新経済・財政再生計画改革工程表 2018 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | |
| | | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 |
| | | | 成果実績 | | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | | |
| 達成度 | | | % | | | | | | | |
| (第二階層) KPI | | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | | 成果実績 | | | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | | | | |
| | | 達成度 | % | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | | |

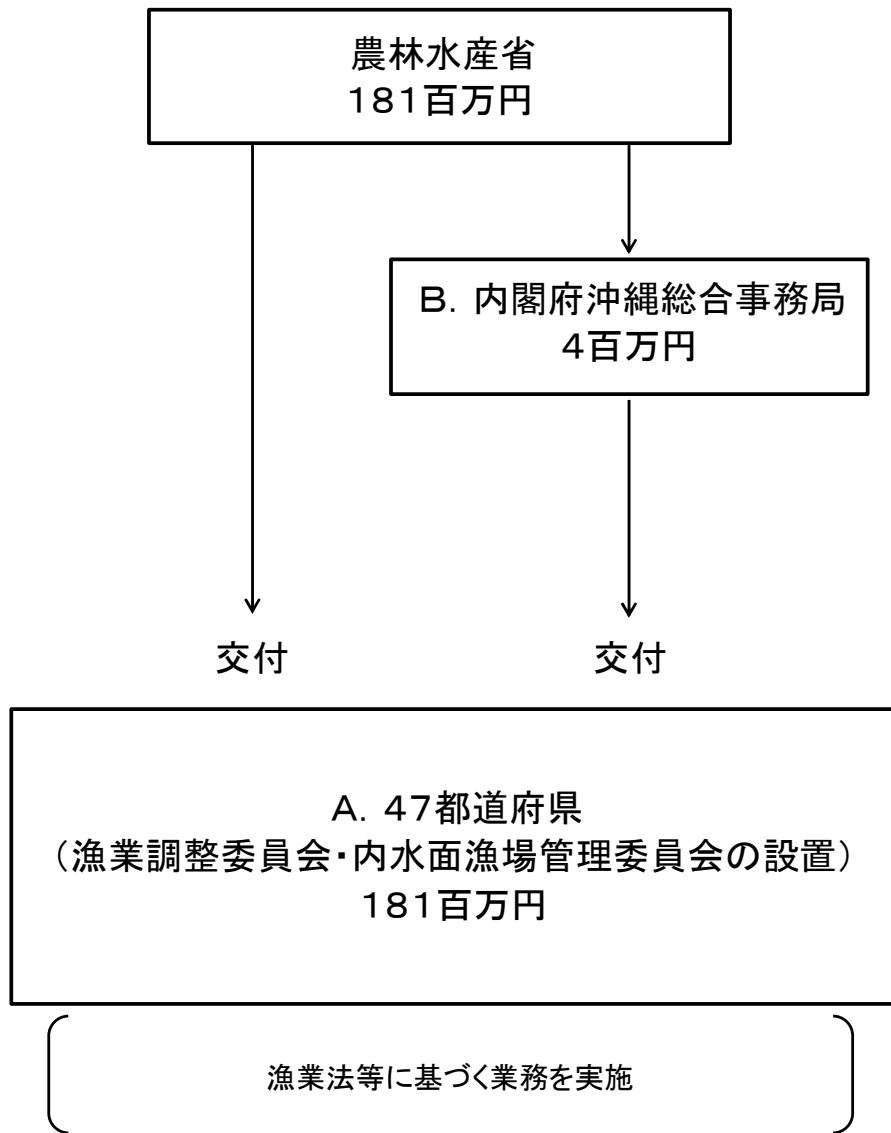
事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|--|---------------------------------------|---|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | ・漁業法に基づく漁業調整機構であり、国民や社会のニーズを的確に反映している。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | ・漁業法第118条(海面)及び第132条(内水面)の規定に基づき、漁業調整委員会等に関する費用の財源に充てるものであり、①全国的な漁業秩序の維持、②水産資源の回復・管理の推進、③水産物の安定供給の確保を図るために、基礎的経費を交付する必要がある。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | ・漁業法により都道府県に交付するとなっている。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | - | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 無 | ・特定:都道府県 |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | ・交付先は漁業法により都道府県とされており、相当額を都道府県が負担しているため、妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | ・委員手当を日額制にするなどコスト低減に努めており単位あたりコストの水準は妥当である。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | ・再委託を行わないなど資金の流れは合理的である。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | ・漁業調整委員会等に要する経費に限られている。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | ・執行率は100%である。 |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | ・繰越額はない。 | |
| 事業の有効性 | その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | ・委員手当を日額制にするなどコスト低減に努めており単位あたりコストの水準は妥当である。 |
| | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | △ | 成果実績は概ね成果目標に見合ったものとなっている。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | ・他の実行手段はない。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 活動実績は見込みに見合ったものとなっている。 |
| 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | ・漁業法で議事録の作成が義務付けられており、漁業の調整等に活用されている。 | |

| | | | | | | | |
|--|---|---|------|--------|------|--------|------|
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | | | | | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| | | | | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | <p>海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会は執行機関として漁業法及び地方自治法の規定により知事の監督に属し、都道府県に置くことになっており、本交付金の支出先は都道府県とすることが合理的かつ効率的である。</p> <p>用途の把握については、交付要綱に基づく実績報告から本交付金の使途が委員に係る報酬と委員会開催に係る経費等適切なものであることを把握している。委員会の開催状況については、例えば、漁業の操業制限や太平洋クロマグロの資源管理手法などを随時必要に応じて開催しており、効率的かつ必要最小限の回数となっている。</p> <p>本交付金は、漁業法第118条(海面)及び第132条(内水面)の規定に基づき、漁業調整委員会等に関する費用の財源に充てるものであり、①全国的な漁業秩序の維持、②水産資源の回復・管理の推進、③水産物の安定供給の確保を図るためには、引き続き漁業調整委員会等の基礎的経費を交付する必要がある。</p> | | | | | |
| | 改善の方向性 | <p>平成31年度の予算配分については、漁業法施行令第28条第1項第1号、第2号及び第3号の規定による法定配分をした上で、平成29年度の委員会開催実績等を勘案し、合理的な配分を行った。</p> | | | | | |
| 外部有識者の所見 | | | | | | | |
| <p>昨年までの事業レビューを踏まえ、アウトカムが見直されているようである。もともと、資源管理計画の管理措置の履行は、種々の要因があり、本事業の成果を直接的に示すものか検討する必要がある。</p> | | | | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | | | | |
| 一部の事業内容改善 | <p>・成果実績について、目標の達成率を下回ったものがある。</p> <p>以上のことから、「支援策の見直し」を行うべきであり、本事業は「事業内容の一部改善」とする。</p> | | | | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | | | | | |
| 執行等改善 | <p>「資源管理計画の管理措置の履行率」については目標値を下回ったものの、88.8%と目標に近い達成度であると考えており、目標最終年度には目標値を達成できるよう引き続き指導をしてみたい。</p> | | | | | | |
| 備考 | | | | | | | |
| 関連する過去のレビューシートの事業番号 | | | | | | | |
| 平成22年度 | 0433 | 平成23年度 | 0308 | 平成24年度 | 0302 | 平成25年度 | 0237 |
| 平成26年度 | 0221 | 平成27年度 | 0245 | 平成28年度 | 0256 | 平成29年度 | 0255 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0257) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を
 しているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| A.北海道 | | | B.内閣府沖縄総合事務局 | | |
|----------|-----------------------------------|-------------|--------------|--------|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 委員報酬・事務費 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会への報酬、委員会開催経費 | 22 | 交付金 | 沖縄県へ交付 | 4 |
| 計 | | 22 | 計 | | 4 |

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|------|---------------|-----------------------------|--------------|-------|----------------|-----|---|
| 1 | 北海道 | 7000020010006 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 22 | その他 | | | |
| 2 | 長崎県 | 4000020420000 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 10 | その他 | | | |
| 3 | 鹿児島県 | 8000020460001 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 8 | その他 | | | |
| 4 | 福岡県 | 6000020400009 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 7 | その他 | | | |
| 5 | 青森県 | 2000020020001 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 6 | その他 | | | |
| 6 | 山口県 | 2000020350001 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 6 | その他 | | | |
| 7 | 熊本県 | 7000020430005 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 5 | その他 | | | |
| 8 | 兵庫県 | 8000020280003 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 5 | その他 | | | |
| 9 | 島根県 | 1000020320005 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 5 | その他 | | | |
| 10 | 佐賀県 | 1000020410004 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 5 | その他 | | | |

B.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------|---------------|-----------------------------|--------------|-------|----------------|-----|---|
| 1 | 内閣府沖縄総合事務局 | 2000012010019 | 海区漁業調整委員会及び内水面漁場管理委員会に要する経費 | 4 | その他 | | | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0254

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|------------------|-----------|------------|--|-------|--------------|-----------------|--|
| 事業名 | 捕鯨対策 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成16年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成32年度 | 担当課室 | 資源管理部国際課捕鯨室 | | | 捕鯨室長 高屋繁樹 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | - | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) 商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律(平成29年法律第76号) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 本事業の最終目的は商業捕鯨の再開である。商業捕鯨再開のためには、鯨類資源の包括的評価を行い、商業捕鯨モトリアム(一時停止)を見直す必要がある。そのために必要な科学的データを収集するために、本事業により南極海及び北西太平洋において鯨類の科学調査等を実施する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | ①鯨類の資源評価のための鯨類目視調査及び流通監視体制確保のためのDNA分析調査等(委託) ②反捕鯨団体の妨害活動が年々過激化する中で、調査を安全に実施するための対策に対する支援等(定額) ③鯨類の捕食が漁業資源に与える影響等を把握するため、我が国沿岸域で実施する鯨類科学調査に必要な経費を補助(定額・1/2) | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負、補助 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 5,064 | 5,062 | 5,062 | 5,072 | 5,072 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 5,064 | 5,062 | 5,062 | 5,072 | 5,072 | | |
| | 執行額 | | 5,063 | 5,010 | 5,062 | | | | |
| | 執行率(%) | | 100% | 99% | 100% | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | | 100% | 99% | 100% | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | |
| | 海洋水産資源開発費補助金 | | 4,720 | 4,720 | | | | | |
| | 漁業資源調査等委託費 | | 352 | 352 | | | | | |
| | その他 | | 0 | 0 | | | | | |
| | 計 | | 5,072 | 5,072 | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 32 年度 | |
| | 商業捕鯨再開に向けた科学的データ収集のために必要な捕獲頭数 | 鯨類捕獲調査計画における捕獲頭数 | 成果実績 捕獲頭数 | 485 | 552 | 637 | - | - | |
| | | | 目標値 捕獲頭数 | 550 | 637 | 637 | - | 637 | |
| | | | 達成度 % | 88.2 | 86.7 | 100 | - | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | 商業捕鯨再開に向けた科学的データ収集のための調査日数 | 活動実績 | 日 | 313 | 369 | 352 | - | - | |
| | | 当初見込み | 日 | 309 | 329 | 387 | 387 | 387 | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | 非致死的研究による生体標本数 *非致死的研究の実行可能性の検証を行っているところであること、調査計画では生体標本の数を目的としていないことから、年度ごとの見込みを立てることは困難 | 活動実績 | 検体 | 80 | 127 | 71 | - | - | |
| | | 当初見込み | 検体 | - | - | - | - | - | |

| | | | | | | | | |
|--------------|----------|--------------|----------|------|------|------|----------|----------|
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | 執行額／調査日数 | 単位当たり コスト | 百万円 | 16 | 14 | 14 | 13 | |
| | | 計算式 | 執行額/調査日数 | | 16.2 | 13.6 | 14.4 | 5072/387 |

| | | | | | | | | | |
|-------------------------|---|------------------------------------|-----|----|-------------|------|------|------------|--------------|
| 政策評価、 新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産物の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ㊸ 水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 年度 |
| | | 漁業協定数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | | |
| | | | 目標値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | | |
| | | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 年度 |
| | | 国際機関による資源管理対象魚種数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 魚種 | 92 | 93 | 96 | | |
| | | | 目標値 | 魚種 | 90 | 92 | 93 | | |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | 我が国周辺国との間の民間レベルでの資源管理の推進や、持続的漁業の推進を支持する各国関係者との連携強化を支持するものであり、国際的な水産資源の管理の推進に寄与する。 鯨類の資源評価に必要な科学的データを収集するため、南極海及び北西太平洋において鯨類の科学的調査等を実施するものであり、鯨類の国際的な資源管理の推進に寄与するものである。 | | | | | | | | |
| 新経済・財政再生計画改革工程表 2018 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 |
| | | 成果実績 | | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | | | |
| | (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 |
| | | 成果実績 | | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | |

| 事業所管部局による点検・改善 | | | |
|----------------|--|----|--|
| 国費投入の必要性 | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
| | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 平成26年4月16日衆議院決議及び同年4月17日参議院決議において、国が鯨類科学調査を継続的に実施できるような措置するものとされている。 商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律において、国は、鯨類科学調査を安定的かつ継続的に実施するための施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有するとされている。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 平成26年4月16日衆議院決議及び同年4月17日参議院決議において、国が鯨類科学調査を継続的に実施できるような措置するものとされている。 商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律において、国は、鯨類科学調査を安定的かつ継続的に実施するための施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有するとされている。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 平成26年4月16日衆議院決議及び同年4月18日参議院決議において、国が鯨類科学調査を継続的に実施できるような措置するものとされている。 商業捕鯨の実施等のための鯨類科学調査の実施に関する法律において、国は、鯨類科学調査を安定的かつ継続的に実施するための施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有するとされている。 |

| | | | | |
|--|---|---|---|----------------------|
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | ○ | 企画競争を実施した結果2者からの応募があった。 | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、 一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 無 | | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 本事業は、商業捕鯨の再開に必要な科学的データの収集のための調査であり、平成26年4月16日衆議院決議及び同4月17日参議院決議においても、国が調査継続に当たり、安定的な財政支援を措置するものとされており、妥当である。 | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 必要最低限な予算となっており、コスト等の水準は妥当である。 | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 中間段階での支出はない | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 商業捕鯨の再開に必要な科学的データ収集のための調査に必要な費用目・使途であり、事業目的に照らして必要なものに限定されている。 | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 執行率は、100%となっている。 | |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越はない。 | | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 必要最低限な予算となっているが、事務的な経費については、常にコスト削減に取り組んでいる。 | | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 成果目標を達成している。 | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 必要最低限な予算となっており、低コストでの実施となっている。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | - | 活動指標の1つである非致命的調査による生体標本数は、現在実行可能性の検証を行っているため、見込みを立てることは困難である。 もう1つの活動指標である商業捕鯨再開に向けた科学的データ収集のための調査日数については、平成30年度は、調査が円滑に進んだため、見込みより早く捕獲頭数の上限に達し、調査を終了した。そのため、当初見込みより少ない調査日数となっているが、目標である科学的データの収集は全量達成出来ている。 | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 鯨類科学調査で得られた科学的データについては、国際捕鯨委員会等の国際会議の場で活用されている。 | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | ○ | 予算上重複がないように配慮しつつ、外務省との取決めに従い分担。 | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | | 事業名 |
| | 外務省 | 0078 | | 鯨類の持続可能な利用に関するセミナー開催 |
| | | | | |
| | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | 前年度の結果を踏まえ、調査の時期、場所を修正したことや、天候や海況が良く終日調査を実施できた日数が多かったことから、成果目標を達成することができたと考えられる。 | | |
| | 改善の方向性 | 令和元年7月より商業捕鯨が再開されることから、本事業で得られた科学的データ等を十分に活用し、捕獲頭数の設定など捕鯨業の適切な管理を進めるほか、引き続き鯨類の科学的知見が得られるよう、取り組んでいく。 | | |
| 外部有識者の所見 | | | | |
| 必要な捕獲数がアウトカム指標になることはない。この事業を行うことによって、課題が解消を示しているか、という基準で考えれば、違う指標となるはずである。例えば、国民の捕鯨に対する理解が進む、などはどうか。(そのかわり、アンケートが必要になる)少なくとも、捕獲頭数を目標とすると諸外国からの風当たりも強くなるので。 | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | |
| 一部の内容改善 | 外部有識者から、成果目標について事業の成果を直接的に測れるものになっていないとの指摘があった。 以上のことから、「適切な成果目標の設定」を行うべきであり、本事業は「事業内容の一部改善」とする。 | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | | |
| 執行等改善 | 令和元年7月からの商業捕鯨再開を踏まえ、事業内容を抜本的に見直したことから、令和2年度より成果指標を変更する予定である。 なお、令和2年度の概算要求においては、安定的な捕鯨業の実施と国際的な資源管理の推進を目標とすることとしている。 | | | |

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| 平成22年度 | 0420 | 平成23年度 | 0297 | 平成24年度 | 0305 | 平成25年度 | 0240 |
| 平成26年度 | 0222 | 平成27年度 | 0246 | 平成28年度 | 0257 | 平成29年度 | 0256 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0258) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

鯨資源調査等対策推進費(委託費)

農林水産省
346百万円

委託【随意契約(企画競争)】

A.(一財)日本鯨類研究所
346百万円

①調査船による鯨類の目視調査を行うとともに、資源評価・総合評価を実施
②日本各地の市場等から鯨製品を購入し、DNAを抽出し分析を行う。

日本沿岸域鯨類調査事業費(補助金)

農林水産省
506百万円

補助

C.一般社団法人 地域捕鯨推進協会
506百万円

小型捕鯨船により日本沿岸域で鯨類捕獲調査を行う。

委託【随意契約(その他)】

D.(一財)日本鯨類研究所(他3機関)
52百万円

捕獲された鯨類の調査・分析及び調査海域の餌環境調査を行う。

船舶運航費及び借料

農林水産省
229百万円

請負【随意契約(その他)】

E. 法人A他3者
229百万円

南極海に水産庁監視船を派遣し、監視業務等を実施する。

鯨類捕獲調査円滑化等事業費(補助金)

農林水産省
3,527百万円

補助

B.(一財)日本鯨類研究所
3,527百万円

北西太平洋及び南極海で実施する鯨類科学調査等を実施及び必要な安全対策を実施する

農林水産省
454百万円

【補助】454百万円

F.特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構
鯨類資源持続的利用支援調査事業
平成30年度 期首残高 0円

【収入】 補助金454百万円
【支出】 助成金支出 454百万円
平成30年度 期末残高 0円

【助成金(事業費)交付】
454百万円

G.(一財)日本鯨類研究所

(一財)日本鯨類研究所が実施する北西太平洋及び南極海における鯨類科学調査について、安定的かつ継続的な実施体制の構築を支援する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

| 費目・使途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で表情が分かるように記載) | A.(一財)日本鯨類研究所 | | | B.(一財)日本鯨類研究所 | | |
|--|----------------|------------------------------|-------------|---------------------------|-------------------|-------------|
| | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| | 用船料 | 目視調査に必要な調査船の用船料 | 220 | 用船料 | 調査船の用船料 | 1,742 |
| | 燃油費等 | 目視調査に必要な調査船の燃油費 | 47 | 調査機材費 | 調査船の機材費 | 648 |
| | 消耗品費 | 目視調査の解析・分析、DNA検査に必要な消耗品、薬品費等 | 39 | 燃油費 | 調査船の燃油費 | 454 |
| | リース料 | 調査に必要な解析ソフト、分析機等のリース料 | 6 | 通信・運搬費 | 多目的船の通信費用(動画含む) | 17 |
| | 旅費 | 目視調査、DNA検査に必要な国内旅費 | 3 | 旅費 | 調査等に必要の旅費 | 92 |
| | その他 | 通信・運搬費、調査資材費、調査員賃金、サンプル購入費等 | 31 | 解析費 | 調査データの解析費 | 39 |
| | 計 | | 346 | その他 | 管理費、消耗品費、租税公課、雑費等 | 535 |
| | 計 | | | 計 | | 3,527 |
| | C.(一社)地域捕鯨推進協会 | | | D.(一財)日本鯨類研究所 | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | |
| 用船料 | 調査に必要な船舶の用船料 | 291 | 調査活動費 | 生物調査費、目視調査費、環境調査費 | 37 | |
| 賃金 | 作業員の賃金 | 75 | 旅費 | 事業実施に要した旅費 | 5 | |
| 委託費 | 分析等の委託費 | 52 | 管理費 | 事業実施に必要な管理費 | 5 | |
| 廃棄物処理費 | 廃棄物処理に係る経費 | 24 | その他 | 調査資材費、発送代、消耗品費、通信運搬費等 | 5 | |
| 陸揚運送輸送費 | 調査個体の運搬費 | 11 | | | | |
| 調査資機材費 | 調査に必要な資機材費 | 2 | | | | |
| 通信運搬費 | 調査に必要な通信運搬費 | 14 | | | | |
| その他 | 旅費、消耗品費等 | 37 | | | | |
| 計 | | 506 | 計 | | 52 | |
| | E.法人A | | | F. 特定非営利活動法人水産業・漁村活性化推進機構 | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | |
| 用船料 | 監視船の用船費 | 167 | 事業費 | 鯨類資源持続的利用支援調査事業 | 454 | |
| 計 | | 167 | 計 | | 454 | |
| | G.(一財)日本鯨類研究所 | | | H. | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | |
| 交付金 | 鯨類科学調査に係る用船料等 | 454 | | | | |
| 計 | | 454 | 計 | | 0 | |

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------|---------------|----------|--------------|------------|----------------|------|---|
| 1 | (一財)日本鯨類研究所 | 2010005003623 | 鯨類の目視調査 | 334 | 随意契約(企画競争) | 2 | 100% | — |
| 2 | (一財)日本鯨類研究所 | 2010005003623 | 鯨類のDNA調査 | 12 | 随意契約(その他) | 1 | — | — |

B

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------|---------------|---------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一財)日本鯨類研究所 | 2010005003623 | 年々過激化する反捕鯨団体の妨害活動に対する予防対策 | 3,076 | 補助金等交付 | — | — | — |

C

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------|---------------|---------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一社)地域捕鯨推進協会 | 7290005006040 | 沿岸域における鯨類科学調査 | 506 | 補助金等交付 | 1 | - | |

D

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | (一財)日本鯨類研究所 | 2010005003623 | 捕獲鯨類の調査・分析 | 52 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 2 | 国立大学法人東京海洋大学 | 5010405003971 | 調査海域における餌環境調査 | 19 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 3 | 宮城県水産技術総合センター | 8000020040002 | 調査海域における餌環境調査 | 5 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 4 | 国立研究開発法人水産総合研究センター | 1020005004051 | 捕獲鯨類の調査・分析 | 8 | 随意契約 (その他) | - | - | |

E

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------|---------------|---------------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 法人A | - | 調査船団の安全を確保するための監視業務 | 167 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 2 | (一財)日本鯨類研究所 | 2010005003623 | 水産庁監視船の燃油費 | 62 | 随意契約 (その他) | - | - | |

F

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------------|---------------|---|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 特定非営利法人水産業・漁村活性化推進機構 | 1010005014068 | (一財)日本鯨類研究所が実施する北西太平洋及び南極海における鯨類科学調査について、安定的かつ継続的な実施体制の構築を支援する。 | 454 | 補助金等交付 | - | - | |

G

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------|---------------|----------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一財)日本鯨類研究所 | 2010005003623 | 北西太平洋及び南極海における鯨類科学調査を実施する。 | 454 | 補助金等交付 | - | - | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0255

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|---|--------|---|---|-----------------|--------------|----------------|---|
| 事業名 | 漁業資源調査に要する経費 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | 作成責任者 | | | |
| 事業開始年度 | 平成18年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成35年度 | 担当課室 | 増殖推進部漁場資源課 | 漁場資源課長 江口 静也 | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | - | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月 閣議決定) 生物多様性国家戦略2012-2020(平成24年9月 閣議決定) 農林水産省生物多様性戦略(平成24年2月 農林水産省) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 我が国周辺水域の主要魚種(マイワシ、マサバ等)及び公海等で漁獲される国際漁業資源(サケ、カツオ・マグロ等)について、調査・解析等を実施し、適切な資源管理に必要な科学的知見を提供することにより、水産物の安定供給を図る。そのためには、資源量の把握が課題となっており本事業を遂行する必要がある。また、資源評価の精度向上及び対象魚種拡大のため、現在行われている資源調査・評価に加え、より充実した海洋環境や沿岸資源情報を把握するためには本事業を実施する必要がある。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | ①我が国周辺水域の主要魚種(マイワシ、マサバ等)について、調査・評価等を実施する(委託)とともに、海洋環境の変動等による水産資源への影響を調査し資源変動メカニズム及び中・長期的な資源動向を究明する取組や、漁場形成及び漁獲状況等をリアルタイムに把握する取組等を支援【補助率:定額、1/2】。 ②公海等で漁獲される国際漁業資源(サケ、カツオ・マグロ等)について、調査・評価等を実施する(委託)とともに、海洋環境の変動等による水産資源への影響を調査し資源変動メカニズム及び中・長期的な資源動向を究明する取組や、漁場形成及び漁獲状況等をリアルタイムに把握する取組等を支援。【補助率:定額】 ③太平洋から沿岸までの様々な情報を集積し資源評価の充実を図るためのデータベース構築に向けたフィージビリティスタディを実施(委託)。 | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負、補助 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | 予算の状況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | - | - | 458 | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | 458 | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | ▲ 458 | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 2,793 | 3,125 | 3,389 | 5,909 | 7,400 | | |
| | 執行額 | 2,688 | 3,042 | 3,305 | - | - | | | |
| | 執行率(%) | 96% | 97% | 98% | - | - | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | 96% | 97% | 86% | - | - | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 漁業資源調査等委託費 | 4,825 | 6,748 | 「新しい日本のための優先課題推進枠」7,400 「水産政策の改革について(農林水産省・地域の活力創造プランH30.6)」の中で、「資源管理については、国際的にみて遜色のない科学的・効果的な評価方法及び管理方法とする。」と示されたところである。そのため、資源調査を抜本的に拡充し、多くの水産資源について国際水準の資源評価・管理を実施する必要があることから要求額が増加したものである。 | | | | | |
| | 海洋水産資源開発費補助金 | 626 | 652 | | | | | | |
| | 計 | 5,451 | 7,400 | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | |
| | 資源量を把握している系群の比率の維持増大(過去直近3か年の最大値より増または同数) | 資源量を把握している系群の漁獲量比率(資源量が計算可能な系群の漁獲量÷資源評価の対象となっている系群の漁獲量) | 成果実績 | % | 93 | 93 | - | - | - |
| | | 目標値 | % | 92 | 93 | 93 | - | - | |
| | | 達成度 | % | 101 | 100 | - | - | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 国立研究開発法人水産研究・教育機構が実施する我が国周辺水域資源調査(30年度実績については令和元年9月頃把握予定) | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | |
| | 本事業と関連性の強い国際機関による資源評価対象魚種数の維持増大 | 本事業と関連性の強い国際機関による資源評価対象魚種数 | 成果実績 | 魚種 | 73 | 74 | 77 | - | - |
| | | 目標値 | 魚種 | 71 | 73 | 74 | - | - | |
| | | 達成度 | % | 102 | 101 | 104.1 | - | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |

| | | | | | | | | |
|------------------------|---|----------|------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
| | 資源量が計算可能な系群の漁獲量(30年度実績については令和元年9月頃把握予定) | 活動実績 | 千トン | 2,113 | 2,158 | - | - | - |
| | | 当初見込み | - | - | - | - | - | - |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
| | 国際機関の管理対象種に対する本事業資源調査データ反映数 | 活動実績 | 魚種数 | 51 | 51 | 54 | - | - |
| | | 当初見込み | 魚種数 | 51 | 51 | 51 | 54 | 54 |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | 我が国周辺水産資源調査・評価推進事業 (我が国周辺水産資源・評価推進事業費/資源評価系群数) | 単位当たりコスト | 千円 | 18,321 | 19,010 | 18,045 | - | |
| | | 計算式 | 事業費/資源評価系群数 | 1,538,938/84 | 1,596,842/84 | 1,515,812/84 | - | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | 国際水産資源調査・評価推進事業 (国際水産資源調査・評価推進事業費/国際機関の管理対象種に対する本事業資源調査データ反映魚種数) | 単位当たりコスト | 千円 | 22,527 | 28,344 | 26,731 | - | |
| | | 計算式 | 事業費/資源調査データ反映魚種数 | 1,148,892/51 | 1,445,564/51 | 1,443,469/54 | - | |

| | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------|-----|------|------|------|------------|--------------|--------------|
| 政策評価、 新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑩ 水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 - 年度 |
| | | 資源評価対象種のうち中位又は高位水準の魚種が占める割合 | 実績値 | % | 53.8 | 56.3 | 53.8 | - | - |
| | | | 目標値 | % | 53.8 | 53.8 | 53.8 | - | - |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | 資源評価対象種には「資源量が計算可能な系群」と「資源量が計算できていない系群」が存在しているが、資源の状態がより明らかなのは前者である。「資源量が計算可能な系群」を増加させることで、より正確な科学的根拠に基づいた資源管理施策に取り組むことができ、ひいては「中位又は高位水準の魚種の比率」の増加につなげることができる。ただし、系群によっては漁獲量に数十万トンの差があるため、漁獲量による重み付けを考慮してアウトカムは系群数比率ではなく漁獲量比率にて判断することとしている。 | | | | | | | | |
| | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑩ 水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 年度 |
| 国際機関による資源管理対象魚種数 | | 実績値 | 魚種数 | 92 | 93 | 96 | | | |
| | | 目標値 | 魚種数 | 90 | 92 | 93 | | | |
| 定量的指標 | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 年度 | |
| 漁業協定数 | 実績値 | 協定数 | 53 | 53 | 53 | | | | |
| | 目標値 | 協定数 | 53 | 53 | 53 | | | | |
| 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | |
| 国際的な水産資源を適切かつ詳細に調査・評価することにより、国際機関による資源管理対象魚種数及び漁業協定数の維持増大に寄与する。 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---|---------------------|------------|----|--------------------|----|-------|------|------|------|--------|--|
| 新 経 済 ・ 財 政 再 生 計 画 改 革 工 程 表 2 0 1 8 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 成果実績 目標値 達成度 | 単位 | 計画開始時 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 | 目標最終年度 | |
| | | - | - | | | - | - | - | | | |
| | | 年度 | 年度 | | | 年度 | 年度 | | | | |
| | (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 成果実績 目標値 達成度 | 単位 | 計画開始時 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 | 目標最終年度 | |
| | | - | - | | | - | - | - | | | |
| | | 年度 | 年度 | | | 年度 | 年度 | | | | |
| | 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | |
| | - | | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|---|---|--|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 本事業は、我が国が科学的知見に基づく適切な資源管理を実施し、水産物を安定供給するための基礎となることから、広く国民のニーズがあつたに反映している。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 国として定めるTAC等の資源管理施策並びに国際交渉の基礎となる資源評価を行う事業であること、また関係自治体の連携による広域的な調査実施を主導する必要があることから、国の事業として実施することが妥当である。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 国が定めるTAC等の資源管理施策並びに国際交渉の基礎となることから、継続して資源評価を行わなければならない、優先度が高い事業である。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | × | 委託事業については、平成18年度から平成24年度までは、随意契約(企画競争)を行っていたが、業務内容が専門的かつ多岐にわたり、人員確保や実施体制構築が難しいこともあり、水産総合研究センターを中心とした共同提案機関の1者応札が続いた。25年度からは、この共同提案機関と競争性のない契約を行っている。 |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となつたものはないか。 | 有 | |
| | 競争性のない随意契約となつたものはないか。 | 有 | 補助事業についても、委託事業と同様の理由により公募によらず支出先を選定している。ただし、漁獲情報等をリアルタイムに把握する取組や、さけます類の資源状況の把握、生物特性の把握ならびに漁獲効率等の検証等を行う取組については公募を行った。結果として、1者応札となつた。 |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 水産物の安定供給のための諸施策を通じ、広く国民全体が受益者となることから、資源調査は国費負担により実施することが妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 単位当たりのコストは、概ね1.8千万円～2.8千万円程度の間で推移しており、極端な上昇はないことから、コストの水準は妥当であると考えられる。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 中間段階での支出はない |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 費目・使途については、精査したところ、事業実施に真に必要な使途に限定され支出されていた。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 調査船調査に係る燃油予算額は、燃油の価格上昇を見込んで計上していたが、H30年度の燃油価格上昇は最終的に見込みよりも緩やかなものとなつたため、その差額が執行残となつたこと、また、荒天等で調査航海の短縮・中止等もあり当初予定よりも燃油の使用量が少なかったこと等による。 |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 当初予算において繰越しはなし(補正予算において、調査機材の入手難等の理由により繰り越したものである)。 | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 魚種別に分けていた検討会議の集約による会議費等の削減、安売り航空チケット購入による旅費の削減、作業の効率化による人件費等の圧縮などコスト削減、効率化に向けた工夫を行っている。 | |

| | | | |
|---------|--|--|--|
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 成果実績については、一部集計中ではあるが、得られた成果は国際交渉等の会議の場で、適正な科学的議論を主導する上で必要不可欠なものとして利用されており、成果目標に見合ったものになっている。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 事業実施に当たり特にコストがかかる調査船調査について、事業実施者の保有する大型調査船等を活用することにより、効果的かつ低コストで実施できている。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 一部集計中ではあるが、国際交渉の基礎となる資源評価を当初計画通りに実施しているとともに、その精度向上のための調査結果を適宜公表しており、見込みにあった実績を挙げている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 成果物については、我が国の資源管理施策の基礎になるほか、国際交渉等の会議の場で、適正な科学的議論を主導する上で必要となる。また、成果をとりまとめた冊子の配布やその概要についてホームページで公開するなどして、広く一般向けにも発信している。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は、我が国が科学的知見に基づく適切な資源管理施策を講じるほか、国際交渉等の会議の場で、公正なデータの保有により適切な科学的議論を主導する上で必要となる。また、成果をまとめた冊子の配布やその概要についてホームページで公開するなどして、広く一般向けにも発信している。 ・水産物の安定供給の確保を図るための基礎となることから、広く国民のニーズがあり、優先度が高いといえる。 ・国立開発法人水産研究・教育機構、都道府県、大学及び民間を構成員とする共同実施機関を特定した契約により実施しているが、引き続き調査・解析データが途絶えることのないよう、確実に実施可能な事業者を選定している。なお、漁場形成の偏りや漁獲情報等をリアルタイムに把握する取り組みや、さけ・ます類の資源状況の把握、生物特性の把握ならびに漁獲効率等の検証等を行う取組に対する事業については、相手方を特定せず、公募を行っている。 | |
| | 改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・委託事業については、平成18年度から平成24年度までは、随意契約(企画競争)を行っていたが、業務内容が専門的かつ多岐にわたり、人員確保や実施体制構築が難しいこともあり、水産総合研究センターを中心とした共同提案機関の1者応札が続いた。25年度からは、この共同提案機関と競争性のない契約を行っており、引き続き事業実施者を特定した契約として実施していく予定である。また、平成30年度から開始した新たな資源評価体制構築に向けた技術開発にかかるとしては一般競争入札により契約を行ったところ、専門性の高さや体制構築が困難といった同じ理由により1者応札になったところであり、次年度の契約に向けて、より企画内容を重視する随意契約(企画競争)への切り替えを検討・実施した。 ・補助事業についても、委託事業と同様の理由により公募によらず支出先を選定している。ただし、漁獲情報等をリアルタイムに把握する取組や、さけ・ます類の資源状況の把握、生物特性の把握ならびに漁獲効率等の検証等を行う取組については公募を行った。結果として、1者応札となった。また、海洋環境等に起因する稚仔魚の生残率や産卵場変動のメカニズムを解明する取組については、平成28年度に新規事業(5年周期の事業の切り替え)となったことを契機に公募を行った。しかしながら、応募してきた機関は、当該共同提案機関1者のみであった。 ・事業の競争性・透明性を一層向上させるために、公示期間を長く設定することや仕様書を分かりやすくするなどの対策を講じる。 ・31年度からの事業の統合を踏まえ、アウトプットについては見直しを行うこととする。 | |

外部有識者の所見

外部有識者点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

抜 事
改 業
善 の
的 全
な 体

・資金の流れB、C、E及びFについて、前年度に引き続き1者応札(1者応募)となっている。
以上のことから、「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」を行うべきであり、本事業は「事業全体の抜本的な改善」とする。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執 行
善 等
改

・漁獲情報等をリアルタイムに把握する取組やさけ・ます類の資源状況の把握、生物特性の把握ならびに漁獲効率の検証等を行う取組について、公募により事業者の選定を実施したところであるが、結果として1者応札となった。支出先の選定における競争性・透明性を一層向上させるために、公示期間を長く設定することや公募要領を分かりやすくするなどの対策を講じる。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| 平成22年度 | 0410.0417 | 平成23年度 | 0289 | 平成24年度 | 0308 | 平成25年度 | 0241 |
| 平成26年度 | 0223 | 平成27年度 | 0247 | 平成28年度 | 0258 | 平成29年度 | 0257 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0259) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

| 農林水産省 3,305百万円 (当初予算) | | 国際漁業資源評価調査・情報提供委託事業共同研究機関 (補正予算) 委託【随意契約(その他)】 | | | | |
|---|--|--|--|---|--|---|
| 委託【随意契約(その他)】 | 補助金等交付 | 補助金等交付 | 委託【随意契約(その他)】 | 補助金等交付 | 補助金等交付 | 委託【総合評価入札】 |
| A【我が国周辺水産資源調査・評価等推進委託事業共同実施機関】 1,485百万円 【参画機関】 (研)水産研究・教育機構(※代表機関) 831百万円 (一社)漁業情報サービスセンター 103百万円 (地独)北海道立総合研究機構 58百万円 鹿児島県水産技術開発センター 30百万円 山口県 27百万円 (地独)青森県産業技術センター 24百万円 石川県 21百万円 三重県 21百万円 長崎県総合水産試験場 21百万円 福島県 20百万円 兵庫県立農林水産技術総合センター 18百万円 山形県水産試験場長 16百万円 他29機関 295百万円 計41機関 1,485百万円 | B【我が国周辺水産資源調査・評価等推進事業のうち資源量推定等高精度化推進事業(補助)共同実施機関】 69百万円 【参画機関】 (研)水産研究・教育機構(※代表機関) 59百万円 (独)茨城工業高等専門学校 3百万円 (地独)北海道立総合研究機構 3百万円 (大)九州大学 1百万円 (大)北海道大学 1百万円 (大)東京大学大気海洋研究所 0.8百万円 (大)東北大学 0.8百万円 計7機関 69百万円 | C【我が国周辺水産資源調査・評価等推進事業のうち人工衛星・漁船活用型漁場形成情報等収集分析事業】 30百万円 (一社)漁業情報サービスセンター 30百万円 | D【国際漁業資源評価調査・情報提供委託事業共同研究機関】 909百万円 【参画機関】 (研)水産研究・教育機構(※代表機関) 665百万円 日本エヌ・ユー・エス(株) 100百万円 (地独)青森県産業技術センター 22百万円 宮崎県水産試験場 14百万円 (学)三重大学 12百万円 島根県 10百万円 長崎県総合水産試験場 9百万円 沖縄県 8百万円 (一社)漁業情報サービスセンター 8百万円 和歌山県 7百万円 (地独)北海道立総合研究機構 6百万円 他21機関 48百万円 計32機関 909百万円 | E【国際水産資源調査・評価推進事業のうち国際水産資源変動メカニズム等解析事業共同研究機関】 335百万円 【参画機関】 (研)水産研究・教育機構(※代表機関) 297百万円 (特非)エバーラスティング・ネイチャー 19百万円 (大)東京海洋大学 6百万円 (大)総合研究大学院大学 4百万円 (大)北海道大学 4百万円 (大)東京大学大気海洋研究所 2百万円 (一社)漁業情報サービスセンター 1百万円 (学)名城大学 1百万円 (学)東海大学 0.9百万円 (有)シルフィード 0.4百万円 (地独)北海道立総合研究機構 0.3百万円 太地町立くじらの博物館 0.1百万円 計12機関 335百万円 | F【国際水産資源調査・評価推進事業のうちさけ・ます類分布回遊動向調査事業共同研究機関】 200百万円 (一社)海洋水産システム協会(代表機関) 196.5百万円 (研)水産研究・教育機構 3.5百万円 | G【資源・漁獲情報ネットワーク構築委託事業共同実施機関】 277百万円 【参画機関】 (研)水産研究・教育機構(※代表機関) 172百万円 宮崎県水産試験場 26百万円 (一社)漁業情報サービスセンター 15百万円 三重県 14百万円 愛知県 9百万円 (大)京都大学 6百万円 千葉県 5百万円 秋田県水産振興センター 4百万円 新潟県 4百万円 神奈川県水産技術センター 3百万円 愛媛県農林水産研究所 3百万円 大分県農林水産研究指導センター 3百万円 他9機関 13百万円 計21機関 277百万円 |
| 我が国周辺水域の漁業資源評価を実施 ①我が国周辺水域の主要魚種について、調査船調査、市場調査等の資源調査を実施して、得られたデータを基に資源評価を実施。 ②①で得られた情報を基に主要浮魚資源の長期漁況等の予報を実施。 上記に係る取り組みを共同実施機関が分担して実施。また、代表機関は自ら調査・研究を分担実施するとともに、同機関内の進行管理・成果のとりまとめを担当。 | 我が国周辺水域の漁業資源評価の精度向上のための取り組みを支援 海洋環境等による水産資源の変動機構の解明のための調査・研究を行い、水産資源の適切な管理に資する資源評価の精度の向上を図る。 上記に係る取り組みを共同実施機関が分担して実施。また、代表機関は自ら調査・研究を分担実施するとともに、同機関内の進行管理・成果のとりまとめを担当。 | 我が国周辺水域の漁業資源評価の精度向上のための取り組みを支援 漁場形成の偏りや卓越年級群の発生等をリアルタイムに把握することにより、水産資源の適切な管理に資する資源評価の精度の向上を図る。 上記に係る取り組みを共同実施機関が分担して実施。また、代表機関は自ら調査・研究を分担実施するとともに、同機関内の進行管理・成果のとりまとめを担当。 | 国際漁業資源の資源評価を実施 各種国際資源の適切な分析及び評価のための調査船調査、市場調査を行う他、諸外国と資源状況に関する情報交換等を実施。 上記に係る取り組みを共同実施機関が分担して実施。また、代表機関は自ら調査・研究を分担実施するとともに、同機関内の進行管理・成果のとりまとめを担当。 | 国際漁業資源の資源評価の精度向上のための取り組みを支援 海洋環境の変動、漁業環境の変化による水産資源への影響を調査し、資源変動メカニズム及び中長期的な資源動向の究明に向けた取り組みや適正な管理手法導入に向けた調査を実施。 上記に係る取り組みを共同実施機関が分担して実施。また、代表機関は自ら調査・研究を分担実施するとともに、同機関内の進行管理・成果のとりまとめを担当。 | 国際漁業資源の資源評価の精度向上のための取り組みを支援 国際漁業資源であるさけ・ます類について、資源評価精度向上に資する調査研究の推進のため、漁獲効率等の検証を行うとともに、資源状況の把握ならびに生物特性の把握等を実施。 上記に係る取り組みを共同実施機関が分担して実施。また、代表機関は自ら調査・研究を分担実施するとともに、同機関内の進行管理・成果のとりまとめを担当。 | 漁船からの漁獲情報等や海洋環境変化等の情報を資源評価に取入れる取り組みを実施 漁船からの漁獲情報の迅速な情報収集体制の構築と、海洋環境変化情報を収集し、資源評価の精度向上に向けた取り組みを実施。 上記に係る取り組みを共同実施機関が分担して実施。また、代表機関は自ら調査・研究を分担実施するとともに、同機関内の進行管理・成果のとりまとめを担当。 |

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

| A.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | | B.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | |
|---------------------|-------------------------------|--------------|---------------------|---|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 燃油費 | 資源調査に使用する機関保有船・用船の燃油費 | 185 | 賃金 | 資源評価の高精度化に必要な研究・調査補助員の賃金 | 24 |
| 用船料 | 資源調査に使用する用船の用船料 | 158 | 消耗品費 | 資源評価の高精度化に必要な研究・調査に使用する消耗品等 | 13 |
| 賃金 | 資源調査・評価の実施に必要な研究・調査補助員の賃金 | 150 | 役務費 | 資源評価の高精度化に必要な研究・調査に使用する測定機器の保守等 | 10 |
| 役務費 | 資源調査・評価の実施に必要な測定機器の保守等 | 122 | 旅費 | 資源評価の高精度化に必要な研究・調査職員の旅費 | 7 |
| 旅費 | 資源調査・評価の実施に必要な研究・調査職員の旅費 | 67 | その他 | 水道光熱費、印刷製本費、外部有識者への謝金等 | 5 |
| 再委託費 | 耳石、プランクトン、胃内容物等の分析に必要な再委託費 | 57 | | | |
| 消耗品費 | 資源調査・評価の実施に必要な消耗品等 | 49 | | | |
| 印刷製本費 | 会議資料、報告書等の作成に必要な印刷製本費 | 3 | | | |
| 備品費 | 資源量分布調査、人工衛星情報処理等に必要な備品 | 3 | | | |
| その他 | 水道光熱費、外部有識者への諸謝金等 | 37 | | | |
| 計 | | 831 | 計 | | 59 |
| C.(一社)漁業情報サービスセンター | | | D.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 賃金 | 資源情報を収集するための調査員賃金、データ入力に要する賃金 | 16 | 賃金 | 資源調査・評価等の実施に必要な研究・調査補助員の賃金 | 168 |
| 役務費 | 機器借料、保守管理、システム維持費等 | 8.3 | 燃油費 | 資源調査に使用する機関保有船・用船の燃油費 | 141 |
| 謝金 | データ収集漁船への謝金 | 2.1 | 消耗品費 | 資源調査・評価等の実施に必要な標本採取・測定分析用品 | 98 |
| 航空機借料 | 魚群航空観測のための航空機借料 | 1.7 | 旅費 | 外部有識者旅費、国際会議出席費、外国人科学者招聘費等資源調査・評価に必要な旅費 | 88 |
| 通信運搬費 | 情報収集のための通信費 | 0.7 | 用船料 | 資源調査に使用する漁船等の用船経費 | 88 |
| 旅費 | 情報収集のための旅費 | 0.5 | 役務費 | 資源調査・評価等実施に必要な測定機器、保守管理等 | 29 |
| 消耗品費 | 事業実施に必要な消耗品 | 0.4 | 再委託費 | 調査で得られた試料分析及びデータ処理等にかかる再委託費 | 29 |
| 事務所借料 | 拠点事務所の借料 | 0.2 | 備品費 | 資源調査・分析に必要な備品 | 6 |
| その他 | 拠点事務所等の水道光熱費等 | 0.2 | その他 | 印刷製本費、水道光熱費、外部有識者への諸謝金等 | 18 |
| | | | | | |
| 計 | | 30.1 | 計 | | 665 |
| E.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | | F.(一社)海洋水産システム協会 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 役務費 | 資源評価精度向上のために必要な測定機器保守管理等 | 114 | 役務費 | 操業経費等 | 91 |
| 賃金 | 資源評価精度向上のための調査に係る研究・調査補助員賃金 | 55 | 設備備品・消耗品費 | 燃油費、漁具費、艀装工事費等 | 76.8 |
| 消耗品費 | 資源評価精度向上のために必要な標本採取・測定分析用品 | 35 | 入漁経費 | 入漁料 | 23.6 |
| 旅費 | 資源評価精度向上のための調査に必要な研究・調査職員旅費 | 16 | 人件費 | 人件費、補助員賃金 | 2.3 |
| 備品費 | 資源調査・分析に必要な備品 | 14 | 旅費 | 事務局旅費、委員等旅費 | 1.6 |
| その他 | 印刷製本費、水道光熱費、外部有識者への諸謝金 | 63 | その他 | 印刷費、謝金等 | 1.2 |
| | | | | | |
| 計 | | 297 | 計 | | 196.5 |

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

| G.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | | H. | | |
|---------------------|-----------------------------|--------------|----|-----|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 消耗品費 | 資源評価精度向上のために必要な標本採取・測定分析用品等 | 46 | | | |
| 役員費 | 資源評価精度向上のために必要な測定機器保守管理等 | 29 | | | |
| 再委託費 | プランクトン、環境DNA等の分析に必要な再委託費 | 28 | | | |
| 備品費 | 資源調査・分析に必要な備品 | 27 | | | |
| 賃金 | 資源評価精度向上のための調査に係る研究・調査補助員賃金 | 18 | | | |
| 旅費 | 資源評価精度向上のための調査に必要な研究・調査職員旅費 | 11 | | | |
| その他 | 水道光熱費等 | 13 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 172 | 計 | | 0 |

支出先上位10者リスト

A.我が国周辺水産資源調査・評価等推進委託事業共同実施機関

| | 支 出 先 | 法 人 番 号 | 業 務 概 要 | 支 出 額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|------------------|---------------|---|----------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | (研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 調査船調査、市場調査等の資源調査を実施して、得られたデータを基に資源評価及び長期漁海況予報等を実施 | 831 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 2 | (一社)漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | データベースの構築及び分布回遊状況調査を実施 | 103 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 3 | (地独)北海道立総合研究機構 | 6430005006258 | 資源調査・評価を実施 | 58 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 4 | 鹿児島県水産技術開発センター | 8000020460001 | 資源調査・評価を実施 | 30 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 5 | 山口県 | 2000020350001 | 資源調査・評価を実施 | 27 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 6 | (地独)青森県産業技術センター | 5420005005492 | 資源調査・評価を実施 | 24 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 7 | 石川県 | 2000020170003 | 資源調査・評価を実施 | 21 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 8 | 三重県 | 5000020240001 | 資源調査・評価を実施 | 21 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 9 | 長崎県総合水産試験場 | 4000020420000 | 資源調査・評価を実施 | 21 | 随意契約 (その他) | - | - | |
| 10 | 福島県 | 7000020070009 | 資源調査・評価を実施 | 20 | 随意契約 (その他) | - | - | |

B.資源量推定等高精度化推進事業共同実施機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------------|---------------|--|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | マイワシ・マアジ・マサバ・スケトウダラ・スルメイカ・ブリ・トラフグについて、海洋環境等による水産資源の変動機構の解明のための調査・研究を実施 | 59 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 2 | (独)国立高等専門学校機構茨城工業高等専門学校 | 8010105000820 | マイワシの耳石分析による分布・回遊の調査・研究を実施 | 3 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 3 | (地独)北海道立総合研究機構 | 6430005006258 | スケトウダラの産卵場形成の調査・研究を実施 | 3 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 4 | (大)九州大学 | 3290005003743 | ブリ・スルメイカの稚魚に影響を与える海洋環境データの調査・研究を実施 | 1 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 5 | (大)北海道大学 | 6430005004014 | スケトウダラの餌料環境及び胃内容物の調査・研究を実施 | 1 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 6 | (大)東京大学大気海洋研究所 | 5010005007398 | マアジの輸送・来遊過程の調査・研究を実施 | 0.8 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 7 | (大)東北大学 | 7370005002147 | マイワシ・マサバに影響を与える海洋環境変動機構の調査・研究を実施 | 0.8 | 補助金等交付 | 1 | - | |

C.(一社)漁業情報サービスセンター

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------------|---------------|---|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一社)漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | 漁場形成の偏りや卓越年級群の発生等をリアルタイムに把握することにより、水産資源の適切な管理に資する資源評価の精度の向上を図る。 | 30 | 補助金等交付 | 1 | - | |

D.国際漁業資源評価調査・情報提供委託事業共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|------------------|---------------|--------------------------|--------------|-----------|----------------|-----|---|
| 1 | (研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 国際漁業資源(全般)の資源調査・評価・とりまとめ | 665 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 2 | 日本エヌ・ユー・エス(株) | 8011101057185 | カツオマグロ類漁獲調査 | 100 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 3 | (地独)青森県産業技術センター | 5420005005492 | カツオマグロ類、アカイカ等の漁獲調査 | 22 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 4 | 宮崎県水産試験場 | 4000020450006 | カツオマグロ類漁獲調査 | 14 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 5 | (大)三重大学 | 2190005003044 | カツオマグロ類漁獲調査 | 12 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 6 | 島根県 | 1000020320005 | カツオマグロ類漁獲調査 | 10 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 7 | 長崎県総合水産試験場 | 4000020420000 | カツオマグロ類漁獲調査 | 9 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 8 | 沖縄県 | 1000020470007 | カツオマグロ類漁獲調査 | 8 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 9 | (一社)漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | カツオマグロ、サンマ等の漁業情報の収集、提供等 | 8 | 随意契約(その他) | - | - | |
| 10 | 和歌山県 | 4000020300004 | カツオマグロ類漁獲調査 | 7 | 随意契約(その他) | - | - | |

E.国際水産資源変動メカニズム等解析事業共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|---------------------|---------------|------------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 国際資源の資源評価の精度を高めるための調査・研究 | 297 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 2 | (特非)エバーラストィング・ネイチャー | 4020005004387 | 海亀類繁殖地に関する調査 | 19 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 3 | (大)東京海洋大学 | 5010405003971 | 太平洋クロマグロの部位を利用した生息場所の識別技術の開発 | 6 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 4 | (大)総合研究大学院大学 | 8021005008267 | 仮想現実クロマグロ資源(オペレーティングモデル)の構築 | 4 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 5 | (大)北海道大学 | 6430005004014 | 海鳥類の食性・分布特性の解明 | 4 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 6 | (大)東京大学大気海洋研究所 | 5010005007398 | サンマ回遊モデルの開発 | 2 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 7 | (一社)漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | 資源の中短期予報技術を用いた初期予測技術の開発 | 1 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 8 | (学)名城大学 | 7180005002298 | アホウドリ類の栄養状態調査 | 1 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 9 | (学)東海大学 | 1011005000371 | 小型鯨類の詳細な食性分析 | 0.9 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 10 | (有)シルフィード | 8200002007478 | 小型鯨類の生物調査、標識放流 | 0.4 | 補助金等交付 | 1 | - | |

F.(一社)海洋水産システム協会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|--|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一社)海洋水産システム協会 | 7010005011877 | さけ・ます類について、曳網漁法による試験操業を実施し漁獲効率等に関する検証を行うとともに、資源状況の把握ならびに生物特性の把握等を行う。 | 196.5 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 2 | (研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | さけ・ます類について、曳網漁法による試験操業を実施し漁獲効率等に関する検証を行うとともに、資源状況の把握ならびに生物特性の把握等を行う。 | 3.5 | 補助金等交付 | 1 | - | |

G.資源・漁獲情報ネットワーク構築委託事業共同実施機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|-----------------------|---------------|--|--------------|------------------|----------------|-----|---|
| 1 | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発及び各海域に おいて取得するデータを集 約するための方法及び内 容の検討 | 172 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 2 | 宮崎県水産試験場 | 4000020450006 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発等 | 26 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 3 | (一社)漁業情報 サービスセンター | 4010005005675 | 各海域において取得する データを集約するための方 法及び内容の検討 | 15 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 4 | 三重県 | 5000020240001 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発等 | 14 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 5 | 愛知県 | 1000020230006 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発等 | 9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 6 | (大)京都大学 | 3130005005532 | 海洋環境データ等のリアル タイム取得システム開発等 | 6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 7 | 千葉県 | 4000020120006 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発等 | 5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 8 | 秋田県水産振興セン ター | 1000020050008 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発等 | 4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 9 | 新潟県 | 5000020150002 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発等 | 4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |
| 10 | 神奈川県水産技術 センター | 1000020140007 | 漁獲情報及び海洋環境 データ等のリアルタイム取 得技術開発等 | 3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | - | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0256

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|------------------|--------|-----------------------------------|---|--------|--------|-----------------|----------------|-----|--------|-----|
| 事業名 | 内水面漁業対策 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | | | | |
| 事業開始年度 | 平成19年度 | 事業終了 (予定)年度 | 平成34年度 | 担当課室 | 増殖推進部栽培養殖課 | | | 栽培養殖課長 藤田 仁司 | | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | 内水面漁業の振興に関する法律(平成26年6月27日法律第103号)第9条 | | | 関係する 計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) 内水面漁業の振興に関する基本方針(平成29年7月25日農林水産省告示) | | | | | | | |
| 主要政策・施策 | 科学技術・イノベーション | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 河川・湖沼においては、①カワウ・外来魚による水産資源の食害、②内水面水産資源の生息場所の減少、③ウナギの養殖用種苗となる天然ウナギの稚魚の減少、といった問題に直面しており、これらを解決するための技術開発・実証試験や漁業関係者の取組を促進することで、内水面水産資源の漁獲量やウナギ生産量を維持・回復し、国民への安定供給を図る。 | | | | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。 別添可) | 1. 健全な内水面生態系復元等推進事業 カワウ・外来魚の食害防止に向けた駆除技術開発を行うとともに、内水面漁業関係者が取り組む広域的な観点に立ったカワウ・外来魚の駆除対策等を支援する。(補助率:委託、定額・1/2以内) 2. 鯉供給安定化事業 ウナギの生息状況、シラスウナギの来遊調査等を行うとともに、内水面漁業者によるウナギの生息場所の増加につながる石倉・簡易魚道の設置等を支援する。(補助率:委託、定額・1/2・3/4以内) 3. ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証事業 ウナギ種苗の大量生産技術開発の成果を順次活用し、効率化・省力化を図ることにより、商業ベースでのウナギ種苗の大量生産の実用化を加速させるシステムの実証試験を実施する。(委託) | | | | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負、補助 | | | | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 28年度 | 703 | 29年度 | 710 | 30年度 | 710 | 31年度 | 815 | 32年度要求 | 850 |
| | | 補正予算 | | ▲16 | | - | | - | | - | | |
| | | 前年度から繰越し | | - | | - | | - | | - | | - |
| | | 翌年度へ繰越し | | - | | - | | - | | - | | - |
| | | 予備費等 | | - | | - | | - | | - | | - |
| | | 計 | | 687 | | 710 | | 710 | | 815 | | 850 |
| | 執行額 | | 654 | | 705 | | 695 | | | | | |
| | 執行率(%) | | 95% | | 99% | | 98% | | | | | |
| 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | | 95% | | 99% | | 98% | | | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | | | | |
| | 水産資源回復対策調査等委託費 | 471 | 483 | カワウ駆除対策や放流した親ウナギの生態調査等について事業内容を拡充 | | | | | | | | |
| | 水産資源回復対策事業費補助金 | 344 | 367 | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | 計 | 815 | 850 | | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 -年度 | 目標最終年度 34年度 | | | |
| | 平成34年度までに、全国の被害を与えるカワウを2万羽とする。 | 全国の被害を与えるカワウの個体数 | 成果実績 | 羽 | 36,363 | 38,582 | - | - | - | | | |
| | | | 目標値 | 羽 | 20,000 | 20,000 | 20,000 | - | 20,000 | | | |
| | | | 達成度 | % | 55 | 52 | - | - | - | | | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ (平成30年度の成果実績値については、令和元年度末に把握予定) | | | | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 34 年度 | |
|-----------------------------|--|----------------------|------------|--------------------|--------------------|--------------------|-------------------|-----------------|----------------|
| | 平成34年度までに、本事業により設置した石倉増殖礁(モニタリング用に限る)内で生息が確認されたウナギの数を324尾とする。 | 成果実績 | | 尾 | 68 | 144 | 73 | - | - |
| | 目標値 | 尾 | 108 | 144 | 180 | - | 324 | | |
| | 達成度 | % | 63 | 100 | 41 | - | - | | |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | ①カワウの駆除数(1.7万羽) | 活動実績 | | 羽 | 15,114 | 14,219 | 12,178 | - | - |
| | | 当初見込み | 羽 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | 17,000 | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | ②石倉・簡易魚道設置基数(120基) | 活動実績 | | 基 | 110 | 80 | 386 | - | - |
| | | 当初見込み | 基 | 120 | 120 | 120 | 120 | 120 | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | ①カワウの駆除数(1.7万羽) 広域連携カワウ被害防止対策費/駆除羽数 | 単位当たり コスト | | 円/羽 | 7,288 | 8,011 | 9,128 | 7,596 | |
| | | 計算式 | 左記のとおり | 110,151,498/15,114 | 113,906,258/14,219 | 111,165,058/12,178 | 129,129,000/17000 | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | ②石倉・簡易魚道設置基数(120基) 石倉・魚道設置事業費/設置基数 | 単位当たり コスト | | 円/基 | 95,000 | 114,053 | 33,672 | 15,000 | |
| | | 計算式 | 左記のとおり | 10,450,000/110 | 9,124,243/80 | 12,997,395/386 | 18,000,000/120 | | |
| 政策評価、 新経済・財政再生 計画との関係 | 政策 | 5水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑳水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 34 年度 | |
| | | 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量 | 実績値 | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | 1,739 |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | 外来魚の駆除手法の開発、地域間の広域的な連携による推進体制の下でのカワウ・外来魚の生息状況調査、被害防止対策等の取組の支援、並びにウナギ種苗の商業化に向けた大量生産システムの実証化、ウナギ資源の生息状況調査、ウナギの河川における環境収容力を推定する手法の開発、ウナギの効果的な放流手法の検討及びウナギ資源の増殖の取組の支援を実施することにより、主な内水面漁業・養殖業対象種の生産量やウナギ生産量を維持・回復し、主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量の確保、生物多様性保全に寄与する。 | | | | | | | | |
| | 新経済・財政再生 計画改革 工程表 | 取組事項 | 分野: | - | - | - | - | - | |
| | | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 |
| | | | 成果実績 | - | - | - | - | - | - |
| 目標値 | | | - | - | - | - | - | - | |
| 達成度 | | % | - | - | - | - | - | | |
| (第二階層) KPI | | KPI (第二階層) | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | |
| | 成果実績 | - | - | - | - | - | - | | |
| | 目標値 | - | - | - | - | - | - | | |
| 達成度 | % | - | - | - | - | - | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

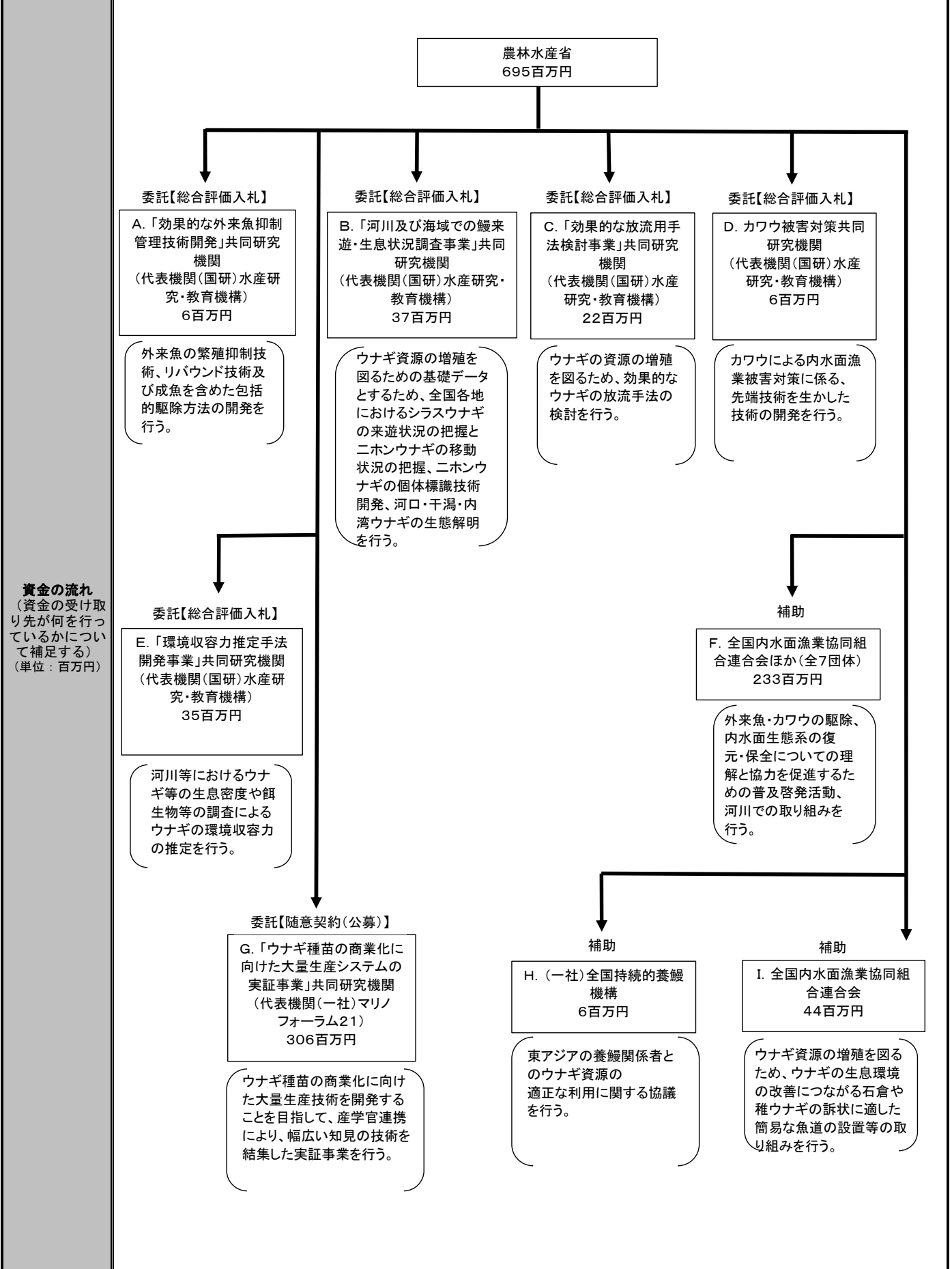
| 項目 | | 評価 | 評価に関する説明 | |
|------------------------------|--|---|--|-----|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | ・内水面は水産物の供給の場であるとともに、国民が自然とふれあう場として重要である。ウナギ、アユ等の内水面資源は、我が国の食文化として広く国民に根付いているものであり、その持続的利用のための事業については、国民の関心も高く、ニーズがある。 | |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | ・生産量減少の要因として、生息環境の変化、カワウ・外来魚による食害が指摘されており、このような広域的な問題は国として対応する必要がある。また、ウナギについては、国際的には資源管理に向けた関係国・地域との協議を行うとともに、国内においてはシラスウナギ採捕、親ウナギ漁業及びウナギ養殖業に係る資源管理を国がリーダーシップをとって進める必要がある。 | |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | ・ウナギは内水面養殖生産量の5割以上を占めており、政策目標達成のために重要な位置付けとなっている。また、ウナギを含む内水面資源の減少は緊急に取り組むべき課題であり、持続的利用に向けて早急に取り組むべき事業である。 | |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | × | ・継続事業A～Dが、共同研究機関の1者応募となった。応募しやすい仕様書となるよう意見招請を行うとともに、総合評価入札による一般競争入札を実施して相手先を選定することにより、競争性・透明性の一層の向上を図ったものの、結果として共同研究機関による1者応募となった。なお、平成30年度新規事業Eについては共同研究機関の1者応募となった。また、継続事業Gについては、公募を行った上で随意契約を行う手法に移行済み。 | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応募又は一者応募となったものはないか。 | 有 | | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | ・受益者負担について、カワウ・外来魚の被害は漁業者の責に帰さない中で、受益者である漁業者がカワウの追い払いや外来魚駆除等の対策費の1/2を負担している。 | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | ・カワウについては駆除数の減少に伴い、昨年と比較して単位あたりコストが増加した。 ・石倉増殖礁の設置については、設置数の増加により昨年度と比較して単位あたりコストが減少した。 | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | ・不必要な団体を経由するものではなく、妥当なものとなっている。 | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | ・各事業目的の達成に必要な最低限の費目としている。 | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | ・不用率は少なく適切に執行している。 | |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | ・繰越は発生していない。 | | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | ・事業の効率性を検証し、より効果的な駆除手法の導入を図る等によりコスト削減や効率化を図っている。 | | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | △ | ・平成30年度の全国の被害を与えるカワウの個体数実績については集計中であるが、平成29年度の全国の被害を与えるカワウの個体数については、天候などの環境要因や銃器類の使用制限等の影響により、カワウ駆除数が低迷となったこと等により前年度より少なくなった。また、石倉増殖礁内で生息が確認されたウナギの尾数については、平成30年7月豪雨によって石倉増殖礁が土砂に埋没したことや、シラスウナギの来遊量が前年度より少なかったこと等により前年度より少なくなった。 | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | - | ・代替の手段・方法等はない。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | △ | ・カワウ駆除についての活動実績が見込みを下回っているのは、天候などの環境要因や銃器類の使用制限等の影響によるものである。 | |
| 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | ・委託事業で作成したパンフレット等については、漁業現場等で活用されるよう漁協へ送付するとともに、HPで公表するなど、広く周知している。 | | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | | 事業名 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | |
|--------------------------------|--|--|
| 点検・改善結果 | 点検結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・ウナギ漁獲量の減少及びカワウ・外来魚の食害等による在来種資源の減少は、内水面漁業者のみならず広く一般消費者の関心も高いことから、本事業は広く国民にニーズがあり、優先度の高い事業である。 ・本事業は、内水面漁業が直面するカワウ・外来魚の食害の防止やウナギ資源の生息環境の改善といった緊急に取り組むべき課題に対処するための予算であり、予算減額の中で真に必要な費目・用途を精査し実施しているところである。 ・「支出先の選定における競争性・透明性の一層の向上」のため、入札に当たり業界への事業内容の周知などを行った。なお、Gについては、高度な専門性を有し、複数年継続して調査を行うものであることから、平成30年度は公募を行った上で、応募のあった者と随意契約する方式をとった。A～Eについては、平成30年度事業の公募に当たり、応募しやすい仕様書を作ることができるよう意見招請を行うとともに、総合評価入札による一般競争入札を実施して相手先を選定することにより、競争性・透明性の一層の向上を図った結果、共同研究機関による1者応札となった。 ・単位当たりコストについては、事業の効率性を検証し、より効果的な駆除手法の導入を図る等により改善を図っている。 ・活動実績のうち、石倉・簡易魚道設置数については目標を達成できるよう、これまでの効果検証に係る知見や専門家等の意見を関係者間で共有し、より効果的な事業の実施を推進している。また、カワウ駆除については目標達成のため、従来の散弾銃による駆除のみでなく、エアライフルを用いた高効率駆除手法であるシャープシューティングの実施により改善を図っている。 ・事業成果の検証を着実にを行うため、引き続きカワウ・外来魚駆除に関する調査報告書の作成を行い、活動指標であるカワウ駆除の成果に対する評価を行う体制が構築されている。 |
| | 改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・支出先の選定における競争性・透明性の一層の向上のため、平成30年度の委託事業A～Eについては、より広く周知を図るとともに、総合評価入札による一般競争入札を実施して相手先を選定することとした。 |
| 外部有識者の所見 | | |
| 外部有識者点検対象外 | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | |
| 抜本事業の全面的な体改 | <ul style="list-style-type: none"> ・成果実績について、目標値を下回ったものがある。 ・活動実績について、当初の見込みを下回ったものがある。 ・資金の流れA、B及びCについて、前年度に引き続き1者応札（1者応募）となっている。 <p>以上のことから、「支援策の見直し」及び「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」を行うべきであり、本事業は「事業全体の抜本的な改善」とする。</p> | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | |
| 執行等改善 | <ul style="list-style-type: none"> 一部の実績を除き、前年度に引き続き1者応札となっていることについては、令和2年度予算において、より応募しやすい仕様書となるよう意見招請を行うとともに、広く周知に努め、かつ、総合評価入札による一般競争入札を実施し競争性・透明性の向上を図る。 成果実績が当初見込みを下回っている石倉増殖礁内で生息が確認されたウナギの尾数に関しては、平成30年7月豪雨によって石倉増殖礁が土砂に埋没したことや、シラスウナギの来遊量が前年度より少なかったこと等により前年度より少なくなった。 成果実績が目標値を下回っている全国の被害を与えるカワウの個体数に関しては、天候などの環境要因や銃器類の使用制限等の影響により、カワウ駆除数が低迷となったこと等により前年度より少なくなった。 活動実績が当初見込みを下回っているカワウ駆除数に関しては、予算的な制約、天候不良、捕獲を行う者（猟友会等）の高齢化による確保の困難性等が原因と考えられることから、令和元年度から、研修会の開催、生息調査におけるドローン等の活用、環境部局との連携強化による駆除活動が更に効率的に行われるよう実施主体に働きかけを行っており、その状況を踏まえて来年度以降の取組の改善を図ることとしている。 | |
| 備考 | | |
| | | |

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|------|--------|------|--------|------|
| 平成22年度 | 0427 | 平成23年度 | 0303 | 平成24年度 | 0303 | 平成25年度 | 0239 |
| 平成26年度 | 0225 | 平成27年度 | 0250 | 平成28年度 | 0259 | 平成29年度 | 0258 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0260) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取
り先が何を行っ
ているかについ
て補足する)
(単位: 百万円)

費目・用途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と用途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| A.北海道大学 | | | B.(国研)水産研究・教育機構 | | |
|-----------------|---------------------|-------------|--------------------|--------------------------------------|-------------|
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 消耗品費 | 現地調査等に必要な漁具類、試薬類 | 1.3 | 旅費 | 調査、打合せ等にかかる旅費 | 2.2 |
| その他 | 旅費、雑役務費、光熱水費等 | 0.2 | 消耗品費 | 調査実施に係る試薬類等に係る経費 | 5.9 |
| | | | 雑役務費 | 試料の分析等に係る経費 | 5.8 |
| | | | 賃金 | 調査実施に係る賃金 | 4.3 |
| | | | その他 | 会議費等 | 2.1 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 1.5 | 計 | | 20.3 |
| C.日本養鰻漁業協同組合連合会 | | | D.全国内水面漁業協同組合連合会 | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 旅費 | 調査、打合せ等にかかる旅費 | 0.9 | 旅費 | 実証事業に係る旅費 | 0.3 |
| 賃金 | 調査実施に係る賃金 | 0.2 | 賃金 | 現地調査に係る作業賃金 | 0.2 |
| 消耗品費 | 調査実施に係る放流用種苗等に係る経費 | 7.7 | 消耗品費 | 現地調査に必要な事務用具等にかかる経費 | 0.1 |
| 雑役務費 | 試料の分析等に係る経費 | 2.1 | その他 | 謝金、会議費、人件費、印刷製本費等 | 1.6 |
| その他 | 会議費等 | 0.1 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 11 | 計 | | 2.3 |
| E.(国研)水産研究・教育機構 | | | F.近畿北陸ブロック内水面推進協議会 | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 旅費 | 調査、打合せ等にかかる旅費 | 3.9 | 賃金 | 事業実施に係る賃金 | 42.5 |
| 賃金 | 調査実施に係る賃金 | 2.6 | 船舶借料 | 事業実施に係る船舶等のリース・レンタルに係る経費 | 12.7 |
| 消耗品費 | 調査実施に係る漁具、試薬類等に係る経費 | 3.4 | 消耗品費 | 事務用品や内水面漁業被害対策用の道具(花火、防鳥テープ等)購入に係る経費 | 10.5 |
| 雑役務費 | 試料の分析等に係る経費 | 0.6 | 外来魚処理費 | 外来魚駆除処理に係る人件費及び買取費 | 5.4 |
| 諸経費 | 光熱水費等 | 0.8 | 旅費 | 事業実施に係る旅費 | 3 |
| その他 | 会議費等 | 0.6 | 謝金 | 会議等における講師への謝礼 | 0.8 |
| | | | 委託費 | カワウ対策事業実施の際の獵友会への委託料 | 0.8 |
| | | | その他 | 設備備品費、漁具費、印刷製本費、会議費等 | 4.9 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 11.9 | 計 | | 80.6 |
| G.(国研)水産研究・教育機構 | | | H.(一社)全日本持続的養鰻機構 | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 旅費 | 試験、打合せ等にかかる旅費 | 9.9 | 旅費 | 民間協議実施に係る旅費 | 5.3 |
| 賃金 | 仔魚、親魚飼育にかかる作業賃料 | 68.1 | 役務費 | 通訳等 | 1 |
| 消耗品費 | 加温用重油、飼料原料等 | 68.2 | | | |
| 借損料 | レンタカー代、酸素発生器等 | 1.7 | | | |
| 雑役務費 | 栄養成分分析、遺伝子解析等 | 5.6 | | | |
| 備品費 | 水槽、流量計、粘度計等 | 3.3 | | | |
| 通信運搬費 | ウナギ卵、仔魚輸送等 | 0.7 | | | |
| 諸経費 | 光熱水料 | 21.8 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 179.3 | 計 | | 6.3 |

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|---|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 北海道大学 | 6430005004014 | 外来魚の冬季における繁殖抑制技術、リバウンド対策及び成魚の包括的駆除方法の開発を行う。 | 1.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | 滋賀県 | 7000020250007 | 外来魚の冬季における繁殖抑制技術、リバウンド対策及び成魚の包括的駆除方法の開発を行う。 | 1.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | 長野県 | 1000020200000 | 外来魚の冬季における繁殖抑制技術、リバウンド対策及び成魚の包括的駆除方法の開発を行う。 | 1.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 4 | 栃木県 | 5000020090000 | 外来魚の冬季における繁殖抑制技術、リバウンド対策及び成魚の包括的駆除方法の開発を行う。 | 1.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 5 | 全国内水面漁業協同組合連合会 | 7010405001858 | 外来魚の冬季における繁殖抑制技術、リバウンド対策及び成魚の包括的駆除方法の開発を行う。 | 0.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 6 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 外来魚の冬季における繁殖抑制技術、リバウンド対策及び成魚の包括的駆除方法の開発を行う。 | 0.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

B

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|------------------|---------------|--|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 20.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | 中央大学 | 4010105000221 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | 愛媛県 | 1000020380008 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 4 | 和歌山県 | 4000020300004 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 5 | 熊本県 | 7000020430005 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 6 | (一財)宮崎県内水面振興センター | 7350005001456 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 7 | (地独)青森県産業技術センター | 5420005005492 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 8 | 大分県 | 1000020440001 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 9 | 鹿児島県 | 8000020460001 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 10 | 千葉県 | 4000020120006 | 全国的なウナギ及びシラスウナギの分布状況及び生態の把握に必要な調査及び解析を行う | 0.1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

C

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|-----------------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 日本養鰻漁業協同組合連合会 | 8080005000823 | 有効なウナギ放流方法の開発のための調査及び解析を行う。 | 11 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | 中央大学 | 4010105000221 | 有効なウナギ放流方法の開発のための調査及び解析を行う。 | 9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 有効なウナギ放流方法の開発のための調査及び解析を行う。 | 1.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

D

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|--|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 全国内水面漁業協同組合連合会 | 7010405001858 | カワウによる内水面漁業被害対策にかかる、先端技術を活用した技術の開発を行う。 | 2.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | 長岡科学技術大学 | 7110005012080 | カワウによる内水面漁業被害対策にかかる、先端技術を活用した技術の開発を行う。 | 2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | カワウによる内水面漁業被害対策にかかる、先端技術を活用した技術の開発を行う。 | 2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

E

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|---------------|---------------|---|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 11.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | 高知県 | 5000020390003 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 3.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | 鹿児島県 | 8000020460001 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 4 | 愛媛県 | 1000020380008 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 2.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 5 | 岐阜県 | 4000020210005 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 6 | 長野県 | 1000020200000 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 7 | 山口県 | 2000020350001 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 8 | 和歌山県 | 4000020300004 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 9 | 宮崎県 | 4000020450006 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 10 | 栃木県 | 5000020090000 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 11 | 長崎大学 | 3310005001777 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 12 | 群馬県 | 7000020100005 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 13 | 滋賀県 | 7000020250007 | 河川等におけるウナギ等の生息密度や餌生物等の調査によるウナギの環境収容力の推定を行う。 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

F

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------------------------|---------------|--|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 近畿北陸ブロック内 水面漁業推進協議会 | - | 外来魚・カワウの駆除、内 水面生態系の復元・保全に ついての理解と協力を推進 するための普及啓発活動、 漁業関係者による河川に おける淡水魚の産卵場や 魚道の清掃・整備を行う。 | 80.6 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 2 | 中央ブロック内水面 漁業推進協議会 | - | 外来魚・カワウの駆除、内 水面生態系の復元・保全に ついての理解と協力を推進 するための普及啓発活動、 漁業関係者による河川に おける淡水魚の産卵場や 魚道の清掃・整備を行う。 | 38.9 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 3 | 四国・九州ブロック内 水面漁業推進協議会 | - | 外来魚・カワウの駆除、内 水面生態系の復元・保全に ついての理解と協力を推進 するための普及啓発活動、 漁業関係者による河川に おける淡水魚の産卵場や 魚道の清掃・整備を行う。 | 29.2 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 4 | 東北北海道ブロック 内水面漁業推進協 議会 | - | 外来魚・カワウの駆除、内 水面生態系の復元・保全に ついての理解と協力を推進 するための普及啓発活動、 漁業関係者による河川に おける淡水魚の産卵場や 魚道の清掃・整備を行う。 | 26.9 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 5 | 中国ブロック内水面 漁業推進協議会 | - | 外来魚・カワウの駆除、内 水面生態系の復元・保全に ついての理解と協力を推進 するための普及啓発活動、 漁業関係者による河川に おける淡水魚の産卵場や 魚道の清掃・整備を行う。 | 24.5 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 6 | 全国内水面漁業協 同組合連合会 | 7010405001858 | 外来魚・カワウの駆除、内 水面生態系の復元・保全に ついての理解と協力を推進 するための普及啓発活動、 漁業関係者による河川に おける淡水魚の産卵場や 魚道の清掃・整備を行う。 | 17.7 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 7 | 東海ブロック内水面 漁業推進協議会 | - | 外来魚・カワウの駆除、内 水面生態系の復元・保全に ついての理解と協力を推進 するための普及啓発活動、 漁業関係者による河川に おける淡水魚の産卵場や 魚道の清掃・整備を行う。 | 14.7 | 補助金等交付 | 1 | -- | |

G

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|----------------|---------------|--|--------------|--------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 179.4 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 2 | ヤンマー(株) | 7120001071567 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 45.5 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 3 | (一社)マリノフォーラム21 | 6010505002105 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 20.9 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 4 | アーク・リソース(株) | 1330001000361 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 11.1 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 5 | 宮崎大学 | 1350005001593 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 9.5 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 6 | 不二製油(株) | 8120001088461 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 8.7 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 7 | 北海道大学 | 6430005004014 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 7.6 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 8 | 近畿大学 | 2122005000036 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 7 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 9 | 静岡県水産技術研究所 | 7000020220001 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 5.1 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 10 | 宮崎県水産試験場 | 4000020450006 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 5 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 11 | 愛知県 | 1000020230006 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 4.5 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 12 | 鹿児島大学 | 6340005001879 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 1.5 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 13 | 鹿児島県 | 8000020460001 | ウナギ種苗の商業化に向けた大量生産技術開発のため、必要な実証試験・研究開発等を行う。 | 0.8 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |

H

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|--|----------------|---------------|--------------------------------------|--------------|--------|----------------|------|---|
| 1 | (一社)全日本持続的養鰻機構 | 4080005006717 | 東アジアの養鰻関係者とのウナギ資源の適正な利用に関する協議等を支援する。 | 6.3 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 | | | | | | | チェック | <input checked="" type="checkbox"/> |

| 費目・用途 （「資金の流れ」に おいてブロックご とに最大の金額 が支出されている 者について記載 する。費目と用途 の双方で実情が 分かるように記 載） | I.全国内水面漁業協同組合連合会 | | | J. | | |
|--|---------------------|------|-------------|----|----|-------------|
| | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 賞金 | 事業実施に係る賞金 | 11.2 | | | | |
| 設備備品費 | 石倉増殖礁費用 | 13 | | | | |
| 旅費 | 事業実施に係る旅費 | 3.3 | | | | |
| 謝金 | 事業実施に係る謝金 | 0.6 | | | | |
| 消耗品費 | 事業実施に係る漁具等 | 2.4 | | | | |
| 委託費 | モニタリング現地指導、結果とりまとめ | 2 | | | | |
| その他 | 重機借り上げ費用、会議費、印刷製本費等 | 11.4 | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 計 | | 43.9 | 計 | | | 0 |

別紙3

1

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------------------|---------------|--|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 全国内水面漁業協 同組合連合会連合 会 | 7010405001858 | ウナギの生息環境の改善 につながる石倉や稚ウナギ の遡上に適した簡易な魚道 の設置等の取組を行う。 | 44 | 補助金等交付 | 1 | - | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0257

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|------------|--|----------------|---|------|--------|-------------------|-----------------|
| 事業名 | 有明海のアサリ等の生産性向上実証事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成20年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成34年度 | 担当課室 | 増殖推進部研究指導課 | | | 研究指導課課長 高瀬 美和子 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | 有明海および八代海等を再生するための特別措置に関する法律 第18条2 | | | 関係する 計画、通知等 | 有明海及び八代海等の再生に関する基本方針(平成30年9月5日環境大臣・農水大臣等決定) 諫早干拓地中・長期開門調査の取扱に関する農水省判断(平成16年5月11日)及び農林水産大臣談話(平成20年7月)水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 本事業は、有明海の二枚貝等の生息環境の保全・回復と持続的な水産資源の確保、希有な生態系、生物多様性及び水質浄化機能の保全・回復に向けた漁場環境改善手法の開発を行い、有明海の再生を図ることを最終目標としている。そのため、課題となっている以下の2点を解消するために事業を実施する。 ①アサリの成長段階に応じた生産性向上対策、②貧酸素水塊の軽減対策。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 有明海におけるアサリ等の生産性向上実証(委託)事業 本事業は、これまでの実証事業である「各地域の特性に応じた有明海の漁場環境改善の実証事業」の成果のうち、漁業者の要望を踏まえつつ特に効果が認められた、以下に係る実証事業を実施する。 ①高地盤覆砂域の造成等による母貝生息適地の造成。 ②基質入り網袋、カゴを用いた稚貝育成。 ③アサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移殖。 ④カキ礁の造成による貧酸素水塊の軽減。 | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負 | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | 325 | 325 | 325 | 325 | 325 | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 325 | 325 | 325 | 325 | 325 | 325 | |
| | 執行額 | 325 | 325 | 325 | 325 | 325 | 325 | | |
| | 執行率(%) | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | |
| 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | 100% | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 水産資源回復対策調査等委託費 | 325 | 325 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | 325 | 325 | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 29 年度 |
| | 「各地域の特性に応じた有明海の漁場環境改善実証事業」を実施した地区のうち、資源の回復または生息環境の改善効果が確認できた地区の割合をH29事業終了までに100%とする。 | 成果実績 | 「各地域の特性に応じた有明海の漁場環境改善実証事業」を実施した地区のうち、資源の回復または生息環境の改善効果が確認できた地区の割合。(計算式:改善実績÷目標×100(%)) | % | 94 | 100 | - | - | 100 |
| | | 目標値 | | % | 95 | 100 | - | - | 100 |
| | | 達成度 | | % | 98.9 | 100 | - | - | 100 |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 当該事業の実績報告書(平成29年度終了) | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 成果実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 34 年度 | |
|---------------------------|---|--|----------------------|---|---------------|---------------|-------|--------------|-----------------|----------------|
| | | 「有明海のアサリ等の生産性向上実証事業」を実施する地区における実施技術の評価指標を定め、その技術の達成割合をH34事業終了までに100%とする。 | | 実施した地区のうち、有効性が確認できた技術の割合とする。また、最終年度に関しては投資した経費に対する漁獲増加額を1以上とする。(計算式: 漁獲増加額÷投資費用×100(%)) | 件 | - | - | 18 | - | - |
| | | | 件 | - | - | 26 | - | 100 | | |
| | | | % | - | - | 69.2 | - | 100 | | |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 当該事業の実績報告書 | | | | | | | | | |
| 活動指標及び活動実績(アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | | 「各地域の特性に応じた有明海の漁場環境改善実証事業」で取り組んだ技術開発課題数 有明海の再生を図ることを最終目標としている。 | | 課題数 | 4 | 4 | - | - | - | |
| | | | 課題数 | 4 | 4 | - | - | - | | |
| 活動指標及び活動実績(アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | | 「有明海のアサリ等の生産性向上実証事業」で取り組んだ技術開発課題数 | | 課題数 | - | - | 4 | - | - | |
| | | | 課題数 | - | - | 4 | 4 | - | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位当たりコスト | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | | 執行額/「有明海のアサリ等の生産性向上実証事業」で取り組んだ技術開発課題数 | | 千円 | 81 | 81 | 81 | 81 | | |
| | | | 計算式 | 予算額/課題数 | 325/4 | 325/4 | 325/4 | 325/4 | | |
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | | |
| | 施策 | ⑳ 水産資源の回復 | | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 実績値 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 34 年度 |
| | | | 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量 | | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - |
| | | | | | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | 1,739 |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | |
| | 有明海沿岸各地の様々な特性に対応し、関係漁業者等による実施を目的とした漁場環境改善・維持のための技術開発等を実施。開発された技術を普及することにより、漁場環境の改善が期待され、主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量の確保に寄与する。 | | | | | | | | | |
| | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 成果実績 | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 |
| | | | | | - | - | - | - | - | |
| | | | - | | - | - | - | - | | |
| (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 成果実績 | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | |
| | | | | - | - | - | - | - | | |
| | | | | - | - | - | - | - | | |
| | | | 達成度 | % | - | - | - | - | | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 | |
|------------------------------|--|--|--|-----|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 有明・八代海は国民にとって貴重な自然環境及び水産資源の宝庫であり、その環境保全および改善にかかる本事業については、国民や社会のニーズに沿ったものである。 | |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 有明・八代海は国民にとって貴重な自然環境及び水産資源の宝庫であり、その環境保全および改善にかかる本事業については、国民や社会のニーズに沿ったものである。 | |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 有明・八代海は国民にとって貴重な自然環境及び水産資源の宝庫であり、その環境保全および改善にかかる本事業については、国民や社会のニーズに沿ったものである。 | |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | × | 公募で広く技術提案の募集を行い、最も優れた技術提案を行った民間団体等に委託する総合評価落札方式を採用しているが、平成30年度の応募者は1者のみであった。 | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 本事業は平成23年に改正・延長された有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律及び同法に基づく基本方針、さらには、中・長期開門調査の取扱いに関する農水省判断(H16.5)及び農水大臣談話(H20.7)に基づくものであり、国が自ら国費で実施すべき事業である。 | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 地元漁業者および関係県との十分な打合せを行い事業内容を決定していることからコスト水準は妥当である。 | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 本事業は委託事業であり、団体等は経由せず、委託先に直接支出している。 | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 費目・使途は、本事業の目的である有明海の漁場環境の改善・維持のための技術開発に真に必要なものに限定している。 | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 平成30年度事業の執行率は100%である。 | |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越はない。 | | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 定期的に工程会議を開催し、事業の進捗管理を的確に行うとともに、事業費の消化状況についても定期的に把握し、情報共有を行うことによって、効率化を図っている。 | | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | △ | 平成30年度については、気象状況の影響で一部実施地区に底泥化があり、調整等に時間を要し、成果実績が下回った。 | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 有明海の漁場は、漁業者が日常的に漁場を点検し、定期的に維持・改善を行うことが重要であり、本事業で、漁業者等が漁船や漁具等も活用しつつ行える漁場環境の維持・改善方法を開発し、それを漁業者へ普及を図ることがもっとも効果的で低コストな有明海の漁場環境改善方法である。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 活動実績は見込みに見合ったものとなっている。 | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 毎年度末に漁業者等に対する事業成果等説明会を開催し事業成果の普及を行っている。 | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | | 事業名 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | 本事業は、平成23年に改正・延長された有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律及び同法に基づく基本方針、さらには、諫早湾干拓地潮受堤防排水門の中・長期開門調査の取扱いに関する農水省判断(H16.5)及び農水大臣談話(H20.7)に基づくものであり、国が自ら実施すべき優先度の高い事業である。委託先の選定にあたっては、公募で広く技術提案の募集を行い、最も優れた提案を行った者に委託することとしたが、応募者は1者のみであった。これは、本事業が水産学、生物学、環境学、機械工学や土木工学等の複数の専門知識、現地の漁場の詳細な知見や漁業者との調整能力を必要とすることから1者のみの応募となったと考えられる。 | |
| | 改善の方向性 | | 本事業については、資源の回復傾向や生息環境の改善傾向が確認される等、成果が現れている。今後は、成果の持続性や漁業者がより容易に実施できる手法の改良を行う等、より効率的・効果的な手法の確立を進める。公募による委託先の選定にあたっては、引き続き公示期間の十分な確保や過年度の事業結果の公表等を行い、より一層、競争性の確保に努める。 | |

外部有識者の所見

外部有識者点検対象外

行政事業レビュー推進チームの所見

抜本的な改善の全体

・成果実績について、目標値を下回ったものがある。
 ・資金の流れAについて、前年度に引き続き一者応札(一者応募)となっている。
 以上のことから、「支援方策の見直し」及び「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」を行うべきであり、本事業は「事業全体の抜本的な改善」とする。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

執行等改善

・成果実績が目標値を下回った理由については、平成30年7月の九州地域を襲った大雨によって流木等が有明海に流れ込むなどの被害により、施設の改修が必要となったことによる。
 ・有明海のアサリ等の生産性の向上のため、地域の特性や課題に対応した効率的な漁場環境の維持・改善のための実証事業で、水産学、生物学、環境学、機械工学や土木工学等の複数の専門知識、有明4県の漁場の詳細な知見、漁業者との調整能力を必要とすることから一者のみ応募となったと考えられる。
 改善対策としては、資料招請等でわかりやすい仕様書の作成に努め、入札公募についても複数応募できるように見直し対応して行きたい。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|-----|--------|-----|--------|------|
| 平成22年度 | 426 | 平成23年度 | 302 | 平成24年度 | 311 | 平成25年度 | 243 |
| 平成26年度 | 226 | 平成27年度 | 251 | 平成28年度 | 260 | 平成29年度 | 0259 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0261) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

農林水産省
325百万円

委託【総合評価入札】共同実施機関(JV)

【A】有明海のアサリ等の生産性向上実証事業共同実施機関 325百万円

| | | | | | |
|---|-------------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------------------|------------------------|
| ア (一社)マリノフォーラム21 ※代表機関 74.5百万円 | イ 海洋エンジニアリング(株) 72.7百万円 | ウ 日本シニヤ(株) 72.5百万円 | エ (株)東京久栄 32.5百万円 | オ (株)水圏科学 コンサルタント 40.0百万円 | カ いであ(株) 33.0百万円 |
|---|-------------------------------|--------------------------|-------------------------|------------------------------------|------------------------|

〔 有明海沿岸各地の様々な特性に対応し、かつ、漁業者や地方公共団体が実施できる漁場環境改善・維持技術の開発 〕

【再委託】

【B】
帝人エコサイエンス(株)
0.6百万円
(底質分析業務)

【C】
(株)海洋生態研究所
1.0百万円
(生物分析業務)

【D】
(有)生物生態研究社
0.7百万円
(アサリ初期稚貝分析)

【再委託】

【E】
(株)MAcs
1.0百万円
(画像解析)

【再委託】

【F】
ユーエルクアティクス
(株)
0.1百万円
(データ解析・干潟
調査補助業務)

【再委託】

【G】
水圏リサーチ(株)
0.2百万円
(アサリ着底稚貝分
析)

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| A.(一社)マリノフォーラム21 | | | B.帝人エコサイエンス(株) | | |
|------------------|----------------------------|-------------|------------------|----------------|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 企画立案・現地調整、会議開催、監理を行うための人件費 | 26.9 | 再委託 | 底質分析業務 | 0.6 |
| 技術経費等 | 技術士人件費、雑役務費 | 34.6 | | | |
| 旅費 | 現地調査等にかかる旅費 | 8.7 | | | |
| その他 | 消耗品、借損料等 | 3 | | | |
| 会議費等 | 技術検討委員会の会議費、委員等旅費、印刷費等 | 1.3 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 74.5 | 計 | | 0.6 |
| C.(株)海洋生態研究所 | | | D.(有)生物生態研究社 | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 再委託 | 生物分析業務 | 1 | 再委託 | アサリ初期稚貝分析 | 0.7 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 1 | 計 | | 0.7 |
| E.(株)MAcs | | | F.ユーエルアクアティクス(株) | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 再委託 | 画像解析 | 1 | 再委託 | データ解析・干潟調査補助業務 | 0.1 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 1 | 計 | | 0.1 |
| G.水圏リサーチ(株) | | | H. | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 再委託 | アサリ着底稚貝分析 | 0.2 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0.2 | 計 | | 0 |

支出先上位10者リスト

A.有明海のアサリ等の生産性向上実証事業共同実施機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|--------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (一社)マリノフォーラム21 | 6010505002105 | 有明海における漁場環境改善技術の開発 | 74.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 海洋エンジニアリング(株) | 1010501011824 | 有明海における漁場環境改善技術の開発 | 72.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 日本ミクニヤ(株) | 5020001088425 | 有明海における漁場環境改善技術の開発 | 72.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 東京久栄(株) | 9010001061230 | 有明海における漁場環境改善技術の開発 | 32.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | (株)水圏科学コンサルタント | 9010801005824 | 有明海における漁場環境改善技術の開発 | 40 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | いであ(株) | 7010901005494 | 有明海における漁場環境改善技術の開発 | 33 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

B.帝人エコサイエンス(株)

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|--------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | B.帝人エコサイエンス(株) | 1010401044536 | 底質分析業務 | 0.6 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

C.(株)海洋生態研究所

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------|---------------|--------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | (株)海洋生態研究所 | 2120901023283 | 生物分析業務 | 1 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

D.(有)生物生態研究社

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------|---------------|-----------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | (有)生物生態研究社 | 3180302026879 | アサリ初期稚貝分析 | 0.7 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

E.(株)Macs

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------|---------------|------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | (株)Macs | 6020001044716 | 画像解析 | 1 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

F.ユーエルアクアティクス(株)

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|----------------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | ユーエルアクアティクス(株) | 4120001110641 | データ解析・干潟調査補助業務 | 0.1 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

G.水圏リサーチ(株)

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------|---------------|-----------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | 水圏リサーチ(株) | 8240001017524 | アサリ着底稚貝分析 | 0.2 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0258

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|------------|--------|----------------|------------------------|-------|--------|-----------------|-----------------|
| 事業名 | 養殖対策 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成22年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成34年度 | 担当課室 | 増殖推進部栽培養殖課 | | | 栽培養殖課長 藤田 仁司 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | 水産基本法(平成13年法律第89号)第16条 | | | 関係する 計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策、科学技術・イノベーション | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 魚類養殖では、飼餌料代がコスト全体の6~7割を占める上、近年、輸入魚粉を主原料とする養殖用配合飼料や国産生餌の価格が高水準かつ不安定で、養殖業者の経営を圧迫しているため、飼餌料コストの低減に資する技術開発等を実施する。また、養殖経営の安定を図るためには、養殖生産効率の底上げなど、収益性を重視した養殖生産体制の導入を図る必要があることから、生産性の向上に資する技術開発等を実施する。さらに、様々な技術と幅広い関係業界により成り立っている真珠産業の振興を総合的に図るため、真珠の振興に関する法律を踏まえ、幅広い関係業界や研究機関による連携の強化等を推進する。上記対策により、養殖水産物の安定的な供給を確保する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。 別添可) | ① 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発。〔委託費〕 ② 養殖コストの抑制技術及び新たな養殖手法の開発。〔委託費〕 ③ クロマグロ養殖における高機能・高効率飼料の開発。〔委託費〕 ④ 真珠養殖業等の国際競争力の強化のため、関係機関の連携強化に向けた枠組み構築のための支援等。〔補助率 定額〕 ⑤ 養殖飼料の供給・調達が最適化される仕組みを整備するための支援等。〔補助率 定額〕 ⑥ 海産物の共同増養殖プロジェクトの事業化に向けた取組に対する調査研究及び支援等。〔委託費、補助率 定額〕 | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負、補助 | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 322 | 236 | 413 | 582 | 502 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | 168 | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | 79 | - | ▲ 168 | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | 計 | | 401 | 236 | 245 | 750 | 502 | | |
| | 執行額 | | 371 | 235 | 234 | - | | | |
| | 執行率 (%) | | 93% | 100% | 96% | - | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合 (%) | | 115% | 100% | 57% | - | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 水産資源回復対策調査等委託費 | 359 | 359 | 事業内容の見直し、コスト削減 | | | | | |
| | 水産資源回復対策事業費補助金 | 211 | 133 | | | | | | |
| | 水産資源回復対策地方公共団体事業費補助金 | 12 | 10 | | | | | | |
| | 計 | | 582 | 502 | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 34 年度 |
| | ① のり類の養殖生産量を平成34年度に338千トンとする。 | のり類養殖生産量 | 成果実績 | 千トン | 305 | 300 | 284 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 334 | 334 | 335 | - | 338 |
| | | | 達成度 | % | 91 | 90 | 85 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 海面漁業生産統計 | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 34 年度 |
| | ② 海面養殖業の生産量を平成34年度に1,123千トンとする。 | 海面養殖生産量 | 成果実績 | 千トン | 1,024 | 1,006 | 1,003 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 1,116 | 1,117 | 1,118 | - | 1,123 |
| | | | 達成度 | % | 92 | 90 | 90 | - | - |

| | | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|--|----------|----------|-----------|---------|--------------|---------------|-----------------|--|
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 海面漁業生産統計 | | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 34 年度 | |
| | ③ 平成34年度までに魚類養殖の生産コストを10%削減できる技術を開発する。 | 魚類養殖生産コスト削減率 (計算式:各コスト要素の削減率×各コスト要素が生産コストに占める割合の合計) | 成果実績 | % | - | 7 | 10 | - | - | |
| | | | 目標値 | % | - | 10 | 10 | - | 10 | |
| | | | 達成度 | % | - | 70 | 100 | - | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 29 年度 | 目標最終年度 30 年度 | |
| | ④ メタボローム解析結果を用いて改良した飼料によるクロマグロ稚魚の生残率30%を平成30年度までに確保する。 | クロマグロ稚魚の生残率 (計算式:実験終了時の生残尾数÷実験開始時の尾数) | 成果実績 | % | - | 10 | 36 | 10 | 36 | |
| | | | 目標値 | % | - | 30 | 30 | 30 | 30 | |
| | | | 達成度 | % | - | 33 | 120 | 33 | 120 | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 39 年度 | |
| | ⑤ 国内真珠生産額を平成39年度に200億円とする。 | 国内真珠生産額 | 成果実績 | 億円 | 166 | 154 | | - | - | |
| | | | 目標値 | 億円 | 146 | 151 | 156 | - | 200 | |
| | | | 達成度 | % | 114 | 102 | | - | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 農林水産統計(漁業算出額) (30年度実績については令和2年3月頃把握予定) | | | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | | |
| | ①沿岸海域の栄養塩管理技術の開発を実施する調査海域数 | 活動実績 | 海面 | 4 | 4 | 4 | - | - | | |
| 当初見込み | | 海面 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | | |
| | ②養殖コストの抑制技術及び新たな養殖手法を開発するために取り組んだ課題数 | 活動実績 | 課題 | 6 | 5 | 5 | - | - | | |
| 当初見込み | | 課題 | 6 | 5 | 5 | 5 | 5 | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | | |
| | ③優良なクロマグロ養殖用餌料を形成するために取り組んだ技術開発課題数 | 活動実績 | 課題 | 2 | 2 | 2 | - | - | | |
| 当初見込み | | 課題 | 2 | 2 | 2 | - | - | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | | |
| | ④真珠産業連携強化のための協議会の開催数 | 活動実績 | - | - | 2 | 2 | - | - | | |
| 当初見込み | | - | - | 2 | 2 | 2 | 2 | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | |
| | ①執行額/事業の1海面 | 単位当たり コスト | 千円/海面 | 7,045 | 7,314 | 8,967 | - | | | |
| 計算式 | | 千円/海面 | 28,180/4 | 29,257/4 | 35,866/4 | - | | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | |
| | ②執行額/事業の1課題 | 単位当たり コスト | 千円/課題 | 13,333 | 14,997 | 21,472 | - | | | |
| 計算式 | | 千円/課題 | 80,000/6 | 74,983/5 | 107,358/5 | - | | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | |
| | ③執行額/事業の1課題 | 単位当たり コスト | 千円/課題 | 27,650 | 26,199.5 | 25,934 | - | | | |
| 計算式 | | 千円/課題 | 55,300/2 | 52,399/2 | 51,868/2 | - | | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | |
| | ④執行額/協議会等の開催数 | 単位当たり コスト | 千円/実施数 | - | 10,272 | 7,341 | 8,361 | | | |
| 計算式 | | 執行額/実施数 | - | 20,544/2 | 14,682/2 | 16722/2 | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------------|---|----------------------|------|-------------|---------------|-------|------------|--------------|----------------|
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑩水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 34 年度 |
| | | 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量 | 実績値 | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | 1,739 |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | <p>・水産資源や漁獲量が減少する中、消費者ニーズの高い水産動植物を安定的に供給している養殖業等の生産を増大させることが水産資源の回復・管理に繋がる。</p> <p>・収入の増加や抜本的なコストの抑制を実現する新たな養殖手法、環境変化に適応したノリの養殖技術及びクロマグロ増養殖の実現に必要な技術の開発、真珠産業の関係者の連携強化の推進を実施することにより、養殖業の生産量の確保に寄与する。</p> | | | | | | | | |
| | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 |
| | | - | 成果実績 | - | - | - | - | - | - |
| 目標値 | | | - | - | - | - | - | - | |
| 達成度 | | | % | - | - | - | - | - | |
| (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | - | 成果実績 | - | - | - | - | - | - | |
| | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | |
| | | 達成度 | % | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | |

| 事業所管部局による点検・改善 | | | |
|------------------------------|---|--|---|
| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 本事業は、養殖業をより一層推進し、水産物の安定的な生産を図るものであり、かつ、消費者の安全や品質への要求に的確に答えていくものであることから、国民の広いニーズがある。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 養殖業の推進に必要な技術の開発や実証事業は、実際の事業と同規模で実施する必要があるが、経営リスクが高く、民間等では進まないことから、国が実施する必要がある。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 国が主導的な役割を果たす必要がある優先度の高い事業である。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | △ | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | ①、②については、1者応募となったが、高度な専門性が必要とされることや、複数年連続して行うという事業の性格などの理由が考えられる。 |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 事業成果は養殖関係者に広く裨益するため国が実施すべき事業であり、委託費として実施している。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 前年度から単位当たりのコストが増加しているが、事業内容の変更等により単純比較できず、必要な経費を精査した妥当なコストである。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 団体等は経由せず、直接支出している。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 毎年、事業の精査を行い、事業目的に即し真に必要なものに限定している。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 不用率は3%に満たなかった。 |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 海産物の共同増養殖プロジェクトに関する日露間の合意が遅れているため。 | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 執行状況を管理し効率的な事業運営を行うよう事業検討会等で委託先に指導を行っており、必要に応じた改善を行っている。 | |

| | | | |
|--|--|------|---|
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 海面養殖生産量、魚類養殖生産コスト削減率、クロマグロ稚魚の生残率及び国内真珠生産額の成果目標の達成率は90%以上となっており、目標に見合ったものとなっている。のり類養殖生産量の達成率は90%を下回ったが、海水温上昇による漁期の短縮が要因であり、引き続き養殖による水産物の安定供給に資する事業を進める。なお、国内真珠生産額については、平成29年実績で評価を行った。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 年度計画や執行状況を管理し、最も効率的・効果的に事業を実施している。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 年度計画や執行状況を管理し、必要があれば指導することで、見込みどおりの活動実績となった。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 事業の成果については、年度末に開催した協議会において報告したほか、HP等で公表する等、事業成果の普及を図ったところ。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | 本事業は、養殖業をより一層推進し、水産物の安定的な生産を図るものであり、かつ、消費者の安全や品質への要求に的確に応えていくものであることから、国民の広いニーズがあり、優先度の高い事業である。 |
| | 改善の方向性 | | ①、②、⑤の支出先の選定にあたっては、公募期間の延長や事業結果を積極的に公表することにより周知を図る等、競争性・透明性の一層の向上に努めて参りたい。 |
| 外部有識者の所見 | | | |
| 養殖に関する技術開発等を国が支援するのは理解できるが、例えばのりの養殖量増加は本事業の直接的な成果と言えるのか。それは養殖コストの低減も同様である。難しいとは思いますがより適切な指標を検討して欲しい。 | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | |
| 事業内容の一部改善の | <ul style="list-style-type: none"> ・成果目標について年度ごとに設定されておらず、事業の効果を検証することができない。 ・成果実績について、目標値を下回ったものがある。 ・資金の流れ①及び②について、一者応札(一者応募)となっている。 ・外部有識者から、成果目標について事業の成果を直接的に測れるものになっていないとの指摘があった。 以上のことから、「年度ごとに目標値の設定」、「支援方策の見直し」、「支出先の選定における競争性・透明性の改善」及び「適切な成果目標の設定」を行うべきであり、本事業は「事業内容の一部改善」とする。 | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | |
| 縮減 | 一者応札になった事業については、高度な専門性が必要とされることや、当該開発等分野における主要な機関が全て委託先である共同研究(実施)機関に加わっていることなどの理由により、1者応札となったが、引き続き、入札公告前の仕様書の意見の招請や十分な公示期間の確保、入札説明会で丁寧・わかりやすい説明を行う等、複数の者が入札に参加しやすい環境を作る。さらに、委託先である共同研究(実施)機関へ新規事業者が参加できる体制になっているか確認することにより、支出先の選定における競争性・透明性の一層の向上を図ることとしたい。あわせて、仕様書に研究成果は、後年度の委託先に引き継ぎよう明記し、来年度以降、新たな委託先であっても事業の継続性を確保しつつ、参画できるようにすることとしたい。 「のり類養殖生産量」が当初の目標を下回っているのは、予想以上に海水温が高めで推移し、ノリの生育に適した期間が短くなったことによると考えられる。本事業では、育種された高水温適応品種は実験室レベルで高水温による発育障害が軽減されることが確認されており、引き続き同品種の実用化に向けた取組に必要な予算を要求しているところ。 また、「魚類養殖生産コスト削減率」については、複数の技術開発により総合的に得られる成果であることから、必ずしも年度ごとに目標を設定することが適当ではない場合もあると考えられるが、レビュー推進チームの指摘を受け、年度ごとの目標値を設定した。なお、その他の目標においても、事業の効果をより直接的に測るための適切な指標となるよう、引き続き検討することとしたい。なお、養殖対策として事業全体の見直しを行い予算の縮減を行った。 | | |
| 備考 | | | |
| | | | |

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|------------|--------|------------|--------|----------------|
| 平成22年度 | 4, 240, 439 | 平成23年度 | 0300, 0314 | 平成24年度 | 0304, 0309 | 平成25年度 | 0238, 新26-0027 |
| 平成26年度 | 0233 | 平成27年度 | 0257 | 平成28年度 | 265 | 平成29年度 | 0264 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0266) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

農林水産省
234百万円

委託【総合評価入札】グループ提案(8/8)

① 環境変化に適応したノリ養殖技術の開発事業
【A】ノリ養殖技術開発共同研究機関 35.9百万円

ア (国研)水産研究・教育機構 (※代表機関) 11.7百万円

| | |
|-------|--------|
| イ 熊本県 | 7.6百万円 |
| ウ 佐賀県 | 6.8百万円 |
| エ 福岡県 | 4.5百万円 |
| オ 岡山県 | 1.8百万円 |
| カ 愛知県 | 1.5百万円 |
| キ 三重県 | 1.5百万円 |
| ク 長崎県 | 0.5百万円 |

- ・貝類養殖等を併用したノリの高品質化技術の開発。
- ・技術開発検討会の開催

【再委託】

→ [B]佐賀県有明海漁業協同組合 2.6百万円
〔 垂下式施設設置、点検、整備 〕

→ [C](株)西村商会 2.3百万円
〔 水質観測装置維持管理及び定期観測 〕

→ [D](公社)長崎県食品衛生協会 1.6百万円
〔 海水及び底泥間隙水の有機酸濃度の分析 〕

補助

⑤ 養殖飼料供給調達適合事業
【J】(株)水土舎 14.4百万円

〔 養殖飼料の供給・調達が最適化される仕組みを整備するための取組を支援。 〕

委託【総合評価入札】グループ提案(8/8)

② 養殖魚安定生産・供給技術開発事業
【E】養殖魚安定生産・供給技術開発委託事業共同研究機関 107.4百万円

ア (国研)水産研究・教育機構 (※代表機関) 68.9百万円

| | |
|------------|---------|
| イ 愛媛県 | 11.0百万円 |
| ウ 東町漁業協同組合 | 11.0百万円 |
| エ 長崎県 | 4.0百万円 |
| オ 東京海洋大学 | 4.0百万円 |
| カ 香川県 | 3.5百万円 |
| キ 東京大学 | 3.0百万円 |
| ク 長野県 | 2.0百万円 |

- 〔 低魚粉飼料等によるブリ養殖のコスト低減技術の開発、新たな魚種の養殖技術の開発を実施。 〕

補助

④ 真珠養殖業等連携強化・成長展開事業
【G】(一社) 日本真珠振興会 20.1百万円

〔 真珠養殖業等の関係機関の連携強化の枠組み構築のための支援等を実施。 〕

→ [H]三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株)10.0百万円
〔 事業主体が必要なデータ収集・分析や事業評価等。 〕

→ [I]協議会が認定するグループ 6.6百万円 (7グループ)
〔 協議会が認定する真珠の生産・加工・流通の振興に関する取組み。 〕

補助

⑥ 海産物の共同増養殖プロジェクトに関する調査事業
【K】北海道 4.8百万円

〔 海産物の共同増養殖プロジェクトの事業化に向けた取組に対する支援。 〕

委託【随意契約】グループ提案 (8/8)

③ クロマグロ養殖用の高機能、高効率飼料の開発事業費
【F】クロマグロ養殖用の高機能、高効率飼料の開発事業共同実施機関 51.9百万円

ア (国研)水産研究・教育機構 (※代表機関) 23.9百万円

| | |
|---------------------|---------|
| イ 理化学研究所 | 14.8百万円 |
| ウ 長崎大学 | 4.0百万円 |
| エ 林兼産業(株) | 4.0百万円 |
| オ 鹿児島大学 | 2.5百万円 |
| カ 長崎県 | 2.0百万円 |
| キ 近畿大学 | 0.6百万円 |
| ク (株)JEOL RESONANCE | 0.1百万円 |

- ・検討委員会の設置・運営
- ・クロマグロ等の初期飼料に適した大型かつ高栄養ワムシ品種の作出技術の開発
- ・メタボローム・メタゲノム解析による消化

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

| A.(国研)水産研究・教育機構 | | | B.佐賀県有明海漁業協同組合 | | |
|-----------------|---------------------------------|-------------|---------------------------|--------------------------------|-------------|
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 賃金 | 研究・調査取りまとめ | 2.6 | 再委託 | 垂下式施設設置、点検、整備 | 2.6 |
| 消耗品費 | 資材等 | 2.3 | | | |
| 旅費 | 業務に係る旅費 | 2.3 | | | |
| 再委託費 | 業務に係る再委託費 | 1.6 | | | |
| 雑役務費 | 賃借料等 | 1.4 | | | |
| その他 | 謝金、燃料費、通信運搬費等 | 1.3 | | | |
| 消費税 | 消費税 | 0.2 | | | |
| 計 | | 11.7 | 計 | | 2.6 |
| C.(株)西村商会 | | | D.公益社団法人 長崎県食品衛生協会 | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 再委託 | リアルタイムテレメータ水質観測システム水質データ処理等業務委託 | 2.3 | 再委託 | 海水及び底泥間隙水の有機酸濃度の分析業務 | 1.6 |
| 計 | | 2.3 | 計 | | 1.6 |
| E.(国研)水産研究・教育機構 | | | F.(国研)水産研究・教育機構 | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 消耗品費 | 飼料・餌料費、試薬費等 | 43.6 | 人件費 | 直接人件費 | 10 |
| 雑役務費 | 賃借料等 | 9.7 | 雑役務費 | 雑役務、設置工事等 | 0.5 |
| 賃金 | 飼育従事者、実験補助者、データ集計・とりまとめ補助者 | 7 | 備品・消耗品 | 機械装置、資材、備品、消耗品等 | 4.6 |
| 備品費 | 業務に係る備品費 | 4 | その他 | 会議費、委員謝金、旅費、印刷費、通信費、事務所経費、電気代等 | 4.4 |
| 旅費 | 業務に係る旅費等 | 2.3 | 旅費 | 業務に係る旅費 | 4.4 |
| その他 | 謝金、通信運搬費等 | 1.8 | | | |
| 消費税 | 消費税 | 0.5 | | | |
| 計 | | 68.9 | 計 | | 23.9 |
| G.(一社)日本真珠振興会 | | | H.三菱UFJリサーチ & コンサルティング(株) | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 補助金 | 補助事業に要する経費 | 20.1 | 再委託 | データ収集・分析や事業評価等に要する経費 | 10 |
| 計 | | 20.1 | 計 | | 10 |

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A. ノリ養殖技術開発共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|---------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 11.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 熊本県 | 7000020430005 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 7.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 佐賀県 | 1000020410004 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 6.8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 福岡県 | 6000020400009 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 4.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | 岡山県 | 4000020330001 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 1.8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | 愛知県 | 1000020230006 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 1.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 7 | 三重県 | 5000020240001 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 1.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 8 | 長崎県 | 4000020420000 | 環境変化に適応したノリの養殖技術の開発 | 0.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

B. 佐賀県有明海漁業協同組合

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 佐賀県有明海漁業協同組合 | 7300005003028 | 垂下式施設設置、点検、整備 | 2.6 | 随意契約 (その他) | 1 | 98% | |

C. (株)西村商会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------|---------------|--------------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | (株)西村商会 | 1310001001650 | 水質観測装置維持管理及び定期観測業務 | 2.3 | 随意契約 (その他) | 1 | 93% | |

D. (公社)長崎県食品衛生協会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|--------------------|--------------|------------------|----------------|-----|---|
| 1 | (公社)長崎県食品衛生協会 | 1310005001969 | 海水及び底泥間隙水の有機酸濃度の分析 | 1.6 | 一般競争契約 (最低価格) | 1 | 89% | |

E. 養殖魚安定生産・供給技術開発委託事業共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|---------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 68.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 東町漁業協同組合 | 5340005005179 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 11 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 愛媛県 | 1000020380008 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 11 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 長崎県 | 4000020420000 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | 東京海洋大学 | 5010405003971 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | 香川県 | 8000020370002 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 3.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 7 | 東京大学 | 5010005007398 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 8 | 長野県 | 1000020200000 | 生産コストの抑制、新たな養殖手法の開発 | 2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

F. クロマグロ養殖用の高機能、高効率餌料の開発事業共同実施機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|--|--------------|--------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 23.9 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 2 | (国研)理化学研究所 | 1030005007111 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 14.8 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 3 | 長崎大学 | 3310005001777 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 4 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 4 | 林兼産業(株) | 8250001006179 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 4 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 5 | 鹿児島大学 | 6340005001879 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 2.5 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 6 | 長崎県 | 4000020420000 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 2 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 7 | 近畿大学 | 2122005000036 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 0.6 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |
| 8 | (株)JEOL RESONANCE | 8012801009095 | ・クロマグロ等仔稚魚の飼育試験及びサンプルの採取 ・メタボローム解析手法の開発 | 0.1 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |

G. (一社)日本真珠振興会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------|---------------|----------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一社)日本真珠振興会 | 3010005004059 | 真珠養殖業等の関係機関の連携強化の枠組み構築の支援等 | 20.1 | 補助金等交付 | 1 | - | |

H. 三菱UFJ&リサーチコンサルティング(株)

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|--|-----------------------|---------------|----------------|--------------|--------|----------------|------|---|
| 1 | 三菱UFJ&リサーチコンサルティング(株) | 3010401011971 | データ収集・分析や事業評価等 | 10 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 | | | | | | | チェック | <input checked="" type="checkbox"/> |

| I.協議会が認定するグループ | | | J.水土舎 | | |
|----------------|------------------------------------|--------------|-------|-----------|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 中核的人材育成事業費 | 協議会が認定する真珠産業の中核的人材育成グループが行う活動に係る経費 | 6.6 | 賃金 | 業務に係る賃金 | 10.5 |
| | | | 旅費 | 業務に係る旅費 | 3.5 |
| | | | 謝金 | 業務に係る謝金 | 0.2 |
| | | | その他 | 会場借上料、通賃費 | 0.2 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 6.6 | 計 | | 14.4 |
| K.北海道 | | | L. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 旅費 | 業務に係る旅費 | 3.3 | | | |
| 賃金 | 業務に係る賃金 | 0.8 | | | |
| 消耗品費 | 業務に係る消耗品費 | 0.6 | | | |
| 役務費 | 業務に係る役務費 | 0.1 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 4.8 | 計 | | 0 |

費目・使途
 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

別紙3

I. 協議会が認定するグループ

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------------|------|-------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 下灘漁協 青年漁業者協議会 | - | 真珠の品質向上のための取組み | 1.4 | 補助金等交付 | 7 | - | |
| 2 | 愛媛あこや真珠交流会 | - | 真珠の品質向上のための取組み | 1.4 | 補助金等交付 | 7 | - | |
| 3 | 長崎県真珠養殖漁協真珠研究会 | - | 真珠の品質向上のための試験的取組み | 1.1 | 補助金等交付 | 7 | - | |
| 4 | 三重真珠婚普及促進グループ | - | 真珠文化振興のための取組み | 0.9 | 補助金等交付 | 7 | - | |
| 5 | 三重県神明地区真珠養殖研究グループ | - | 真珠の品質向上のための試験的取組み | 0.8 | 補助金等交付 | 7 | - | |
| 6 | 片田真珠養殖漁協片田真珠研究グループ | - | 真珠養殖技術継承のための取組み | 0.6 | 補助金等交付 | 7 | - | |
| 7 | 真珠品質規格検討会 | - | 真珠のブランド化のための取組み | 0.4 | 補助金等交付 | 7 | - | |

J.(株)水土舎

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------|---------------|-----------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (株)水土舎 | 9020001064273 | 養殖飼料の供給・調達が最適化される仕組みを整備する取組 | 14.4 | 補助金等交付 | 1 | - | |

K. 北海道

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----|---------------|---------------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 北海道 | 7000020010006 | 海産物の共同増養殖プロジェクトの事業化に向けた取組に対する支援 | 4.8 | 補助金等交付 | 1 | - | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0259

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|----------------------------|--------|------------|------------------------|-----------------|------|------------|----------------|
| 事業名 | 増殖対策 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | 作成責任者 | | | |
| 事業開始年度 | 平成23年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成30年度 | 担当課室 | 増殖推進部栽培養殖課 | 栽培養殖課長 藤田 仁司 | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | 水産基本法(平成13年法律第89号)第16条 | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策、科学技術・イノベーション | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 本事業の最終目的は効果的な資源回復を通して栽培漁業対象種を安定的に供給することであるが、これを実現するためには複数の都道府県で利用されている広域種は資源造成・回復効果の高い手法や対象魚種の重点化が必要なことや、さけ・ますは近年、極端な回帰率の低下が見られる等の様々な課題があるため、これらを解決するための事業を実施する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | (1)栽培漁業総合推進事業 ・資源管理と連携した種苗放流や広域プランに基づく資源造成の取組に支援。[補助率 定額・1/2][委託] (2)さけ・ます種苗放流手法改良調査事業 ・より効果的なサケの放流手法への移行を図るため、回帰率の向上に向けた放流時期・サイズの比較検証、放流手法の改良に支援。 ・高品質なサケが放流された地域を明らかにする取組に支援。[補助率 定額・1/2] (3)さけ・ますふ化放流技術対策事業 ・健康性の高いさけ・ます種苗を育成するための増殖技術の高度化や放流後の河川や沿岸での減耗を回避するための技術開発等を実施。[委託] (4)二枚貝資源緊急増殖対策事業 ・減少している二枚貝資源の増殖に向けた緊急的な対策を行い、二枚貝資源を増大させる手法の実証試験に支援。[補助率 1/2][委託] | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負、補助 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 435 | 489 | 507 | - | - | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 435 | 489 | 507 | 0 | 0 | | |
| | 執行額 | 421 | 484 | 498 | - | - | | | |
| | 執行率(%) | 97% | 99% | 98% | - | - | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | 97% | 99% | 98% | - | - | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 水産資源回復対策調査等委託費 | - | - | | | | | | |
| | 水産資源回復対策事業費補助金 | - | - | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | - | - | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 34年度 |
| | 主な栽培漁業対象種の生産量を平成34年度に29千トンにする。(ホタテを除く) | (1)(4)主な栽培漁業対象種の生産量 | 成果実績 | 千トン | 26 | 25 | 26 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 28 | 29 | 29 | - | 29 |
| | | | 達成度 | % | 92.9 | 86.2 | 89.7 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 漁業・養殖業生産統計年報 | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 34年度 |
| | さけ・ます類(流し網を除く)の漁業生産量を平成34年度に181千トンにする。 | (2)(3)さけ・ます類(流し網を除く)の漁業生産量 | 成果実績 | 千トン | 112 | 70 | 95 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 176 | 177 | 178 | - | 181 |
| | | | 達成度 | % | 63.6 | 39.5 | 53.4 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 漁業・養殖業生産統計年報 | | | | | | | | |

| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
|------------------------|------------------------------------|--------------|------------|------------|-------------|------------|--------------|--------------|
| | (1)放流効果の高い手法及び対象種の重点化の取組 海域数 | 活動実績 | 個所 | 個所 | - | 6 | 6 | - |
| | 当初見込み | 個所 | 個所 | - | 6 | 6 | - | - |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 |
| | (2)標識を施したさけ・ます種苗の放流個所数 | 活動実績 | 個所 | 36 | 36 | 36 | - | - |
| | 当初見込み | 個所 | 34 | 36 | 36 | - | - | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | (1)種苗1尾当たりコスト= 実績額(放流費)÷(放流尾数) | 単位当たり コスト | 円 | 40 | 43 | 41 | - | |
| | | 計算式 | 百万円 /千尾 | 116/2,865 | 95/2,234 | 94/2,283 | - | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | (2)種苗1尾当たりコスト= 実績額(種苗購入費)÷(放流数) | 単位当たり コスト | 円 | 1.6 | 1.6 | 1.6 | - | |
| | | 計算式 | 百万円 /千尾 | 144/90,306 | 188/115,256 | 142/87,308 | - | |

| | | | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|----------------------|-----|-------------|-------------|-------|------------|--------------|---------------|
| 政策評価、 新経済・ 財政再生 計画との 関係 | 政策 | 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑳水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 34 年度 |
| | | 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量 | 実績値 | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | 1,739 |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | 水産資源や漁獲量が減少する中、消費者ニーズの高い水産動植物を安定的に供給している漁業者等の生産を増大させることが、水産資源の回復・管理に繋がる。資源の減少が著しい二枚貝や主要魚種の種苗生産技術の開発及び増殖の取組の支援、サケの生き残り状況等の調査及びサケの回帰率を向上させるために放流手法を改良する取組の支援並びに資源管理と連携した集中的な種苗放流や県域を越えた適地放流、親魚養成の拠点化など効果的かつ効率的な種苗放流の実証を支援することにより、主な栽培漁業対象種の生産量の確保に寄与する。 | | | | | | | | |
| | 取組 事項 (第一階層) | 分野: | - | | | | | | |
| | | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 |
| | | 成果実績 | | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | |
| 達成度 | | % | | | | | | | |
| KPI (第二階層) | | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| 成果実績 | | | | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | |
| 達成度 | % | | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |

| 事業所管部局による点検・改善 | | |
|---|----|---|
| 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
| 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 本事業は適地放流手法の開発等により将来の漁獲量を確保し、水産物の安定供給に資するものであるため、国民や社会のニーズは高い。 |
| 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 広域に移動する種等を対象とした実証事業や調査等なので、地方公共団体等に委ねることはできない。 |
| 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 漁業者が、漁獲により将来の安定収入を得るためには、種苗放流による資源造成に資する取組は必要不可欠であり、優先度は高い。 |
| 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | × | 補助事業については、(1)Aで3団体、(1)Cで4団体からなる共同研究機関、(2)で10団体、(4)で8団体から応募があった。 |
| 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | (1)(3)(4)の委託事業については、高度な専門性を有する事業であることから結果として一者応札となった。 |
| 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |

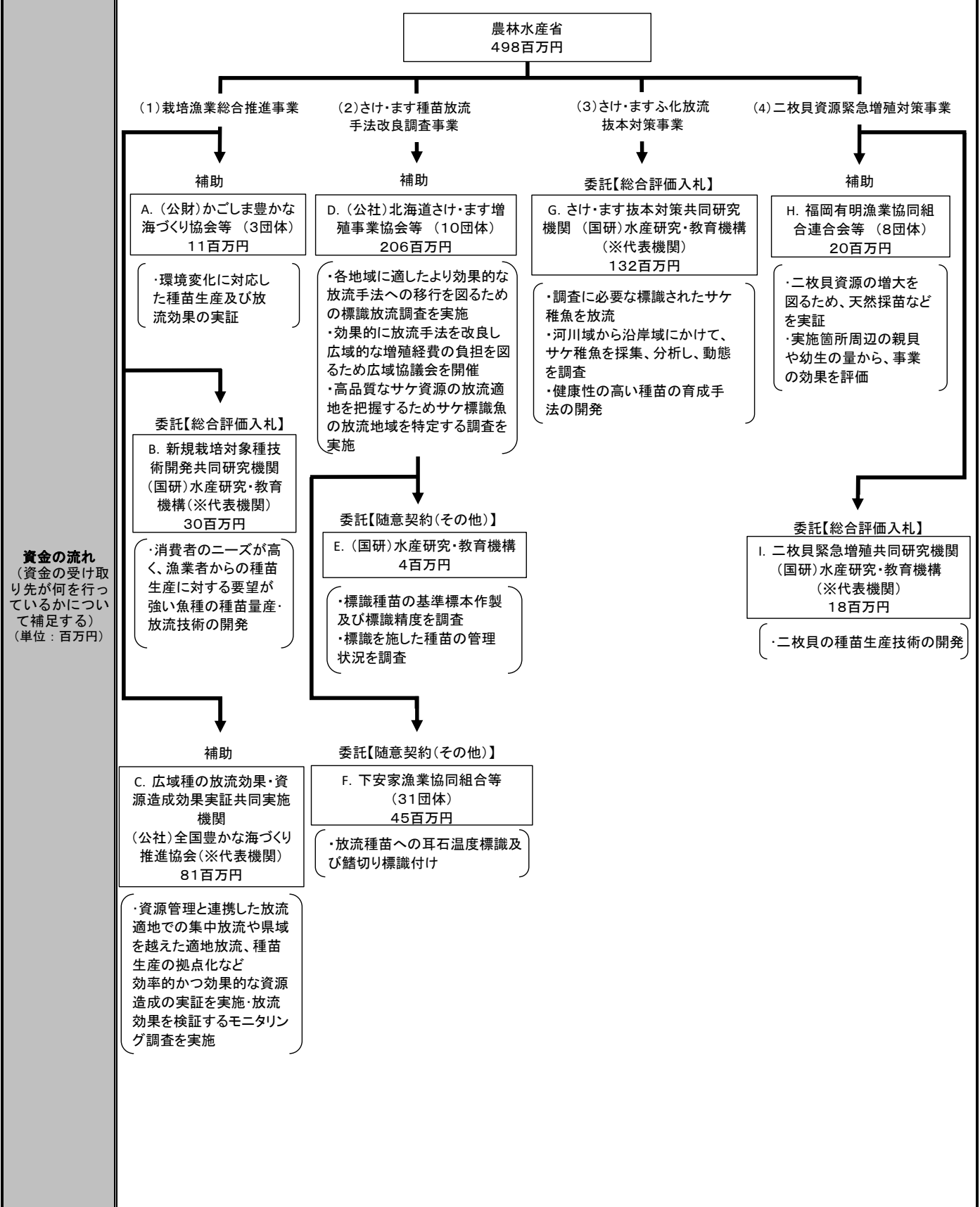
| | | | |
|--|--|------|--|
| 事業の効率性 | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 実施主体は受益者としての側面もあることから、種苗生産に係る事業費は1/2補助としており、負担関係は妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | (1)主要放流魚種の種苗販売単価はヒラメ36円、マツカワ126円、トラフグ45円、(2)全国のサケ稚魚生産単価は3.2円であり、本事業の種苗費であるそれぞれ41円、1.6円は妥当な水準。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | 要綱要領と照らして中間段階での支出は適切と判断している。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 要綱要領と照らして費目・使途は適切と判断している。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 不要率は少なく適切に執行している。 |
| | 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 該当なし。 |
| | その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 事業を実施している各県が協力して種苗生産及び放流を行っており、効率的に事業を実施している。 |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | △ | 成果実績の目標に対する達成率は、「主な栽培漁業対象種の生産量」は90%となった。「さけ・ます類(流し網を除く)の漁業生産量」は53%となったが、近年、海洋環境の変化等による影響により、サケの回帰率が急激に低下し、さけ・ます類の生産量が減少したためと考えられる。30年度は前年度よりも漁獲量は回復しており、引き続き漁獲量を回復するための事業を進める。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 他の手段・方法は考えられない。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 活動実績は当初の見込みどおりであり、事業の成果として、放流された種苗は再生産に寄与するほか、漁獲物としても回収されている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 調査事業によって得られた成果は次年度の調査で活用している。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | <ul style="list-style-type: none"> ・(1)の委託事業については、広く研究機関が応募しやすい環境を整備するよう努めたものの、高度な専門性が求められる事業であることから一者応札となった。 ・(2)の補助事業については、事業の継続により資源回復に向けた取組が進む中、海洋環境の変化等により資源が減少しているため、成果目標には達しなかった。 ・(3)の委託事業については、高度な専門性が必要とされることや、当該研究分野における主な機関が委託先である共同研究(実施)機関に加わっているなどの理由により、次年度以降も他の研究機関が応募してくる可能性は低いと考えられる。 ・(4)の委託事業については、広く研究機関が応募しやすい環境を整備するよう努めたものの、高度な専門性が求められる事業であることから一者応札となった。 |
| | 改善の方向性 | | <ul style="list-style-type: none"> ・(1)の補助事業及び(1)、(3)、(4)の委託事業については、今後は事業を幅広く周知することと併せ、公募する際には過去の成果物やデータの貸し出しを可能とし、求められる成果や調査方法等の事業内容の明確化、更には公示期間を延長すること等により、広く研究機関が応募しやすい環境を整備するよう努めることとする。 ・(2)の補助事業については、海洋環境の変化も視野に入れた事業となるよう、補助事業者に助言や指導を行った。 |
| 外部有識者の所見 | | | |
| 当該事業の成果を測るには大きすぎる指標となっていると考えられ、事業実施から成果の発現に至る過程を段階的に設定する必要がある。 | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | |
| 終了予定 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・成果実績について、目標値を下回ったものがある。 ・資金の流れB、G及びIについて、前年度に引き続き一者応札(一者応募)となっている。 ・外部有識者から、成果目標について事業の成果を直接的に測れるものになっていないとの指摘があった。 <p>以上のことから、「支援策の見直し」、「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」及び「適切な成果目標の設定」を行うべきである。本事業は、平成30年度に終了した事業である。事業から得られた成果と課題を今後の施策の企画や推進に反映すること。</p> |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | |
| 予定通り終了 | | | <p>栽培漁業総合推進事業(資金の流れB)、さけ・ますふ化放流抜本対策事業(資金の流れG)及び二枚貝資源緊急増殖対策事業(資金の流れI)の受託者は、それぞれ我が国の栽培漁業資源、サケ資源及び二枚貝資源の研究に携わる主要関係者が参画した共同研究機関であり、本事業においては高度な専門性及び継続性が求められるため一者応札となった。今後は関連事業において一者応札にならないよう、これまで以上に事業のPR活動や事業成果の公表を行い、広く研究機関が応募しやすい環境づくりを行う。</p> <p>目標の達成率を下回っている「さけ・ます類の漁業生産量」については、4～5年前の時代の予想以上の海洋環境の変化等により放流後の稚魚の生残率が急激に低下したためと考えられる。その後、生産量の回復に向けて、放流時期・サイズの検証といった対策に取り組んできたほか、昨年度からふ化場の適正な種苗生産能力に応じた放流体制への転換を図る取組の支援、回帰効果の高い技術を広く普及する取組を支援しているところであり、今後、これらの結果を踏まえ、関連事業において成果指標・活動指標が適切なものとなるよう検討していきたい。</p> |

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|--------------|--------|------------|--------|------|
| 平成22年度 | | 平成23年度 | 新0059, 新0063 | 平成24年度 | 0329, 0330 | 平成25年度 | 0252 |
| 平成26年度 | 0236 | 平成27年度 | 0260 | 平成28年度 | 0266 | 平成29年度 | 0265 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0267) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。



資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)
(単位:百万円)

| A.(公財)かごしま豊かな海づくり協会 | | | B.富山県 | | |
|---------------------|------------------------------|--------------|----------------------|-------------------------|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費 目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 備品購入費 | 種苗生産に係る備品 | 4.6 | 備品購入費 | 調査に係る備品 | 1.5 |
| 消耗品費 | 種苗生産に係る消耗品 | 0.8 | 需用費 | 調査に係る消耗品費 | 4 |
| 賃金 | 飼育技術者 | 0.3 | 賃金 | 調査に係る賃金 | 1.4 |
| 種苗生産費 | シラヒゲウニ種苗生産費 | 0.1 | 旅費 | 調査に係る旅費 | 0.1 |
| その他 | 光熱水費、旅費等 | 0.1 | その他 | 調査に係る雑役務費、諸経費等 | 0.8 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 6 | 計 | | 7.8 |
| C.(公社)全国豊かな海づくり推進協会 | | | D.(公社)北海道さけ・ます増殖事業協会 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費 目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 種苗生産費等 | 種苗生産、中間育成及び親魚養成 | 45.1 | 放流用種苗購入費 | サケの放流用種苗を購入 | 55.4 |
| 旅費 | 調査、会議出席旅費 | 9.5 | 外部委託 | 発眼卵への耳石温度標識の施標を委託 | 13.2 |
| 賃金 | 賃金 | 8.6 | 親魚購入費 | 高品質なサケの耳石を調べるためのサンプル購入費 | 3.7 |
| 調査費 | 放流効果モニタリング費 | 6.4 | 旅費 | 広域協議会等の旅費 | 1.6 |
| 賃貸料 | 賃貸料、借上料 | 0.8 | 消耗品費 | 調査に係る消耗品等 | 0.6 |
| 会議費 | 会場使用料等 | 0.7 | その他 | その他経費 | 0.8 |
| 消耗品費 | 調査消耗品等 | 0.3 | | | |
| 役務費 | 役務費等 | 0.1 | | | |
| その他 | 通信運搬費等 | 0.2 | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 71.7 | 計 | | 75.3 |
| E.(国研)水産研究・教育機構 | | | F.下安家漁業協同組合 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費 目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 調査費 | 種苗の管理状況の調査、耳石温度標識の分析及び基準標本作製 | 3.7 | 機器借料 | 耳石温度標識装置借料 | 7 |
| | | | 光熱費 | 耳石温度標識装置稼働のための光熱費 | 0.3 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 3.7 | 計 | | 7.3 |
| G.(国研)水産研究・教育機構 | | | H.福岡有明海漁業協同組合連合会 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費 目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 消耗品費 | サンプル解析用品 | 7.8 | 賃金 | 作業、管理、モニタリング調査 | 4.6 |
| 旅費 | 調査旅費 | 6.2 | 資材費 | 採苗用資材 | 2.2 |
| 賃金 | 賃金、謝金 | 6.1 | 賃借料 | 船舶の借り上げ | 1.4 |
| 雑役務費 | 役務費等 | 5.4 | 需用費、その他 | 消耗品費、印刷製本、通信運搬、会議費等 | 0.1 |
| 用船料等 | 調査用船、燃油費 | 2.6 | | | |
| 再委託費 | プランクトン分析 | 1 | | | |
| その他諸経費 | 消費税他 | 5 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 34.1 | 計 | | 8.3 |

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (公財)かごしま豊かな海づくり協会 | 1340005007187 | 環境変化に対応した種苗生産及び放流手法の実証 | 6 | 補助金等交付 | 3 | - | |
| 2 | (公財)海洋生物環境研究所 | 4011105005400 | 環境変化に対応した種苗生産及び放流手法の実証 | 3 | 補助金等交付 | 3 | - | |
| 3 | (公社)北海道栽培漁業振興公社 | 2430005000999 | 環境変化に対応した種苗生産及び放流手法の実証 | 1 | 補助金等交付 | 3 | - | |

B

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|-------------------|---------------|-----------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 富山県 | 7000020160008 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | (一財)宮崎県水産振興協会 | 7350005002966 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | (公社)山口県栽培漁業公社 | 3250005007450 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 4 | 山口県 | 2000020350001 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 5 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 6 | 島根県 | 1000020320005 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 7 | 宮崎県 | 4000020450006 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 8 | (公社)全国豊かな海づくり推進協会 | 8010005003106 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 9 | (公財)海洋生物環境研究所 | 4011105005400 | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 0.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 10 | 新潟市水族館マリニアピア日本海 | - | ニーズの高い魚種の種苗量産・放流技術の開発 | 0.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

C

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|---------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (公社)全国豊かな海づくり推進協会 | 8010005003106 | 種苗生産、市場モニタリング調査及び検討会開催等 | 72 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 2 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | DNA分析による種苗の親、子、孫の遺伝的関係を検証 | 5 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 3 | 東北大学 | 7370005002147 | DNA分析による種苗の親、子、孫の遺伝的関係を検証 | 2 | 補助金等交付 | 1 | - | |
| 4 | (株)フジシステムズ | 7020001015864 | DNA分析による種苗の親、子、孫の遺伝的関係を検証 | 2 | 補助金等交付 | 1 | - | |

D

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|--------------------|---------------|-----------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (公社)北海道さけ・ます増殖事業協会 | 3430005001006 | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 75 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 2 | (一社)岩手県さけ・ます増殖協会 | 5400005000108 | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 62 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 3 | 青森県鮭鱒増殖協会 | - | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 20 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 4 | (一社)新潟県さけ・ます増殖協会 | 3110005014907 | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 10 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 5 | 秋田県鮭鱒増殖協会 | - | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 9 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 6 | 富山県鮭鱒部会 | - | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 8 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 7 | 宮城県さけ・ます増殖協会 | - | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 7 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 8 | (一社)全国さけ・ます増殖振興会 | 7010405000802 | 高品質親魚回帰効果調査及び広域協議会の開催 | 7 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 9 | 山形県鮭人工孵化放流事業連合会 | - | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 7 | 補助金等交付 | 1 | -- | |
| 10 | 茨城県鮭鱒部会 | - | 放流手法改良調査の実施及び地域協議会の開催 | 2 | 補助金等交付 | 1 | -- | |

E

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|-----------------------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 施標状況の確認調査、耳石温度標識の分析及び基準標本作製 | 4 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |

F

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|---------------------|---------------|----------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 下安家漁業協同組合 | 7400005004809 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 7 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 2 | 盛川漁業協同組合 | 3402705000025 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 3 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 3 | (一社)渡島管内さけ・ます増殖事業協会 | 3440005000989 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 2 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 4 | 田野畑村漁業協同 | 6400005004215 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 2 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 5 | 宮古漁業協同組合 | 3400005004069 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 2 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 6 | 北上川漁業協同組合 | 8370405000121 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 2 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 7 | 富山漁業協同組合 | 5230005000463 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 2 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 8 | 庄川沿岸漁業協同組合連合会 | 9230005007661 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 1 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 9 | 追良瀬内水面漁業協同組合 | 1420005004077 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 1 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |
| 10 | (一社)根室管内さけ・ます増殖事業協会 | 6462505000002 | 発眼卵への耳石温度標識の施標 | 1 | 随意契約 (その他) | 1 | -- | |

G

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|-----------------------|---------------|----------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 河川・沿岸調査、検討会主催、報告書作成等 | 34 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | (地独)北海道立総合研究機構 | 6430005006258 | 河川・沿岸調査、報告書分担作成等 | 13 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | (一社)十勝釧路管内さけ・ます増殖事業協会 | 9460105000485 | 耳石温度標識サケ稚魚の生産、河川調査 | 13 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 4 | (一社)渡島管内さけ・ます増殖事業協会 | 3440005000989 | 耳石温度標識サケ稚魚の生産、河川調査 | 12 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 5 | (一社)根室管内さけ・ます増殖事業協会 | 6462505000002 | 耳石温度標識サケ稚魚の生産、河川調査 | 12 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 6 | (一社)日高管内さけ・ます増殖事業協会 | 6430005009376 | 耳石温度標識サケ稚魚の生産、河川調査 | 11 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 7 | (一社)日本海さけ・ます増殖事業協会 | 8430005006173 | 耳石温度標識サケ稚魚の生産、河川調査 | 10 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 8 | (一社)全国さけ・ます増殖振興会 | 7010405000802 | ふ化場実態調査、普及部会開催 | 8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 9 | 山形県 | 5000020060003 | 沿岸調査、報告書作成等 | 8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 10 | 北里大学 | | 健苗育成技術開発 | 8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

H

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|--|---------------|---------------|------------|--------------|--------|----------------|------|---|
| 1 | 福岡有明漁業協同組合連合会 | 4290005013873 | 二枚貝資源増殖の実証 | 8 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 2 | (株)ジェイ・ワイ・カーゴ | 6250001007303 | 二枚貝資源増殖の実証 | 5 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 3 | 浜名漁業協同組合 | 8080405001438 | 二枚貝資源増殖の実証 | 2 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 4 | (公財)滋賀県水産振興協会 | 4160005009471 | 二枚貝資源増殖の実証 | 1 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 5 | 川口漁業協同組合 | 3330005000802 | 二枚貝資源増殖の実証 | 0.9 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 6 | 佐賀県有明海漁業協同組合 | 7300005003028 | 二枚貝資源増殖の実証 | 0.8 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 7 | 斜里第一漁業協同組合 | 5460305001510 | 二枚貝資源増殖の実証 | 0.6 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 8 | 兵庫漁業協同組合 | 6140005002583 | 二枚貝資源増殖の実証 | 0.4 | 補助金等交付 | 8 | - | |
| 支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 | | | | | | | チェック | <input checked="" type="checkbox"/> |

別紙3

1

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|-----------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 二枚貝の人工種苗生産技術の開発 | 15.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 2 | (株)うみの | - | 二枚貝の人工種苗生産技術の開発 | 1.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 3 | 長崎県 | 4000020420000 | 二枚貝の人工種苗生産技術の開発 | 0.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 4 | 福岡県 | 6000020400009 | 二枚貝の人工種苗生産技術の開発 | 0.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 5 | 佐賀県 | 1000020410004 | 二枚貝の人工種苗生産技術の開発 | 0.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |
| 6 | 熊本県 | 7000020430005 | 二枚貝の人工種苗生産技術の開発 | 0.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | - |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0260

平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省)

| | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|------------------------|--------|-------------------|------------------------|---------------|------|------------|----------------|
| 事業名 | 国際漁業資源持続的利用連携強化促進事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | 作成責任者 | | | |
| 事業開始年度 | 平成23年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成31年度 | 担当課室 | 資源管理部国際課 | 国際課長 山里 直志 | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | - | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 本事業の最終目標は、①我が国周辺水域における操業秩序を確立し、我が国漁船の安定的な操業を確保すること、②外国漁船が急激に漁獲を増大させている北太平洋等において、適切な保存管理措置を通じた水産資源の持続的な利用を確保することである。一方で、①については、現在、当該水域において、我が国漁船は周辺諸国等の漁船と輻輳して操業せざるを得ない中、それらの漁船との間で事故・紛争が発生していることに伴い、操業機会が制限されている現状にある。また、②については、北太平洋公海等公海漁場では、外国のIUU(違法・無報告・無規制)漁船による操業等が問題になっており、水産資源の持続的な利用が危ぶまれている。これらの課題解決に向け、本事業を実施する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | ①周辺諸国等(韓国・中国・台湾をいう。以下、同じ。)の漁業実態、国内法制度等の各種情報収集・分析、周辺諸国等の漁業者と我が国漁業者との間における事故・紛争防止等に係る協議、漁業者への指導及び解決のための折衝 ②主要国の漁業政策、各地域漁業管理機関に対して実施しようとする措置の動向等について把握するための情報収集・分析、国際会議等における各国漁業者やNGO等への働きかけ及び情報発信等 (補助率:定額) | | | | | | | | |
| 実施方法 | 補助 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 37 | 52 | 41 | 41 | - | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 37 | 52 | 41 | 41 | 0 | | |
| | | 執行額 | 37 | 52 | 41 | - | | | |
| | | 執行率(%) | 100% | 100% | 100% | - | | | |
| | | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | 100% | 100% | 100% | - | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 漁業協定等実施費補助金 | 41 | - | 事業終了のため | | | | | |
| | 計 | 41 | - | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 31年度 |
| | ①我が国周辺水域の操業の安全及び操業秩序の維持のため、近隣諸国等との事故発生件数を直近10年平均以内とする。(31年度は直近5年平均以内) | ①近隣諸国等との事故発生件数 | 成果実績 | 事故発生件数 | 1 | 0 | 2 | - | - |
| | | | 目標値 | 事故発生件数(直近10年平均) | 2.8 | 2.6 | 2.4 | - | 1.2 |
| | | | 達成度 | % | 100 | 100 | 100 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 「日韓漁業要覧」※、「日中漁業要覧」※、「日台漁業要覧」※における事故発生件数 ※東アジア協議会又は大日本水産会作成 | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 | | | |
|---|---|------------------------------|-------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|----------|------|---------|--------|
| | | | | | | | 年度 | 31 | 年度 | | |
| | ②NPFC(北太平洋漁業委員会)において保存管理措置を導入する。 (目標値は対前年増又は同数とする。) | ②NPFC(北太平洋漁業委員会)における保存管理措置の数 | 成果実績 | 本 | 7 | 8 | 9 | - | - | | |
| | | | 目標値 | 本 | 2 | 7 | 8 | - | 9 | | |
| | | | 達成度 | % | 350 | 114 | 113 | - | - | | |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | NPFC委員会合会議事録 | | | | | | | | | | |
| 活動指標及び活動実績(アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | 32年度活動見込 | | | |
| | ①我が国周辺水域の操業の安全及び操業秩序の維持のため、近隣諸国等との間で民間協議を開催する回数 | 活動実績 | | | | | | | | 回 | 7 |
| | | 当初見込み | 回 | 10 | 12 | 12 | 11 | - | | | |
| 活動指標及び活動実績(アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | 32年度活動見込 | | | |
| | ②規制強化のために実施する情報収集・分析の対象国・国際機関等の数 | 活動実績 | | | | | | | | 国・機関 | 7 |
| | | 当初見込み | 国・機関 | 7 | 7 | 5 | 5 | - | | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | | |
| | ①民間協議等費(84,270円/参加者) 総事業費(21,236千円)をのべ会議参加人数(252人)で除した。 | 単位当たりコスト | | | | | 円/参加者 | 69,488 | | 118,400 | 84,270 |
| | | 計算式 | 事業費(千円)/延べ活動日数 | 15,079/217 | 23,088/195 | 21,236/252 | 18,330/218 | | | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | | |
| | ②情報収集等活動(12,493円/1人・1日) 総事業費(22,800千円)をのべ活動日数(1,825日(=5人×365日))で除した。 | 単位当たりコスト | | | | | 円/1人・1日 | 8,438 | | 11,250 | 12,493 |
| | | 計算式 | 事業費(千円)/延べ活動日数 | 21,558/2,555 | 28,744/2,555 | 22,800/1,825 | 22,814/1,825 | | | | |
| 政策評価、新経済・財政再生 | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産物の健全な発展 | | | | | | | | | |
| | 施策 | ⑳水産資源の回復 | | | | | | | | | |
| | 政策評価 | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標年度 | |
| | | | | | | | | | - | 年度 | 31 |
| | | | 漁業協定数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | - | - | |
| | | | | 目標値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | - | 53 | |
| | | | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標年度 | |
| | | | | | | | | | - | 年度 | 31 |
| | 国際機関による資源管理対象魚種数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 魚種 | 92 | 93 | 96 | - | - | | | |
| | | 目標値 | 魚種 | 90 | 92 | 93 | - | 96 | | | |
| 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | | | |
| 東シナ海及び北太平洋等における中国、台湾漁船等の漁獲の急激な拡大に対し、水産資源の持続的な利用及び我が国漁船の操業を確保するため、規制強化に必要な情報収集、働きかけを行うとともに、事故・トラブル防止等の取組を実施するものであり、測定指標である国際機関による資源管理対象魚種及び漁業協定数の維持増大、及び上位施策である国際的な資源管理の推進に寄与する。 | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | |
|--------|-------------------------|---------------------|------------|---|--------------------|----|-------------|------|------|------------|--------------|--|
| 計画との関係 | 新経済・財政再生計画改革工程表 2018 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | | |
| | | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 成果実績 目標値 達成度 | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 成果実績 目標値 達成度 | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | | |
| | | 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | |
| | | - | | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|---|--------------------------------------|---|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 水産資源の持続的な利用及び我が国漁船の操業を確保することは、我が国の食料安全保障の確立に資するものであり、国民のニーズを的確に反映している。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 本事業による民間協定に係る交渉の結果等は、政府間交渉等にも連動し、相互に補完するものであり、地方自治体等に委ねることはできない。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 本事業を実施することにより、国際機関等による資源管理対象魚種及び漁業協定数の維持等を補完することから、優先度が高い事業となっている。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | × | 本事業は実施主体の選定にあたって公募を実施しており、ホームページに公募情報を掲載するなど、民間団体等から広く実施主体を募集したが、情報の取扱の特殊性等により1者の応募であった。 |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 無 | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 周辺諸国等との民間協議の実施等により、我が国周辺水域の漁業者の安全操業や操業秩序の維持が図られるとともに、漁業に関する国際的な情報の収集・分析・提供等により、我が国漁船の操業を確保することが可能となることから、負担関係は妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 民間協議費等においては、協議会参加者が事前の想定を上回ったため、前年比の単位当たりコストが減少しており、協議会開催実績数についても前年度実績を上回っているため、妥当な水準である。また、情報収集等においては、国際会議数が事前の想定を上回ったため、単位当たりコストが前年度より上昇しているが、対象国・国際機関等の数は前年と同水準であり、妥当な水準である。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 中間段階での支出は無い。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 費目・使途は公募要領等の規定を遵守しており、妥当である。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 不用率は大きくない。 |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越は無い。 | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 旅費等について常にコスト削減に取り組む等、必要最低限の予算となっている。 | |

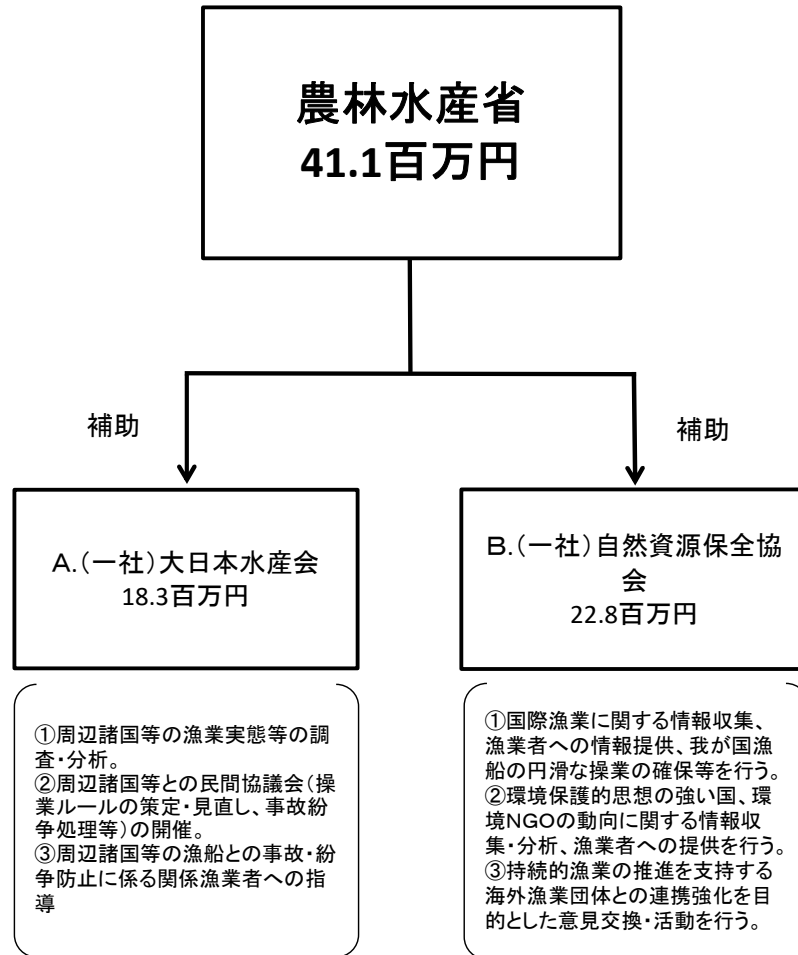
| | | | | |
|--|--|---|-----|---|
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | | ○ | 成果実績は目標を達成している。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | | ○ | 事業実施に当たって現在の手段が最適であるとともに、必要最低限の予算となっており、低コストでの実施となっている。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | | △ | 活動実績について、周辺諸国等との民間協議開催数は見込みと同程度であるため、概ね見込みに見合ったものとなっている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | | ○ | 事故防止現地協議会における関係漁業者への指導及び解決のための折衝等、国際漁業・環境保護団体等の動向に関する情報収集等により、我が国漁業者による円滑な操業が確保できていることから、成果は十分に活用されている。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | | - |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・本事業を通じ、東シナ海、北太平洋等における水産資源の持続的な利用及び我が国漁船の操業を確保することは、我が国の食料安全保障の確立に資するもので、広く国民のニーズがあり、優先度が高い。 ・事業実施主体の選定に当たっては、公募期間中、本事業により受益する関係漁業団体へ広く周知する等の改善を行っている。 ・事業の目的に見合った成果目標及び活動指標を設定している。 ・事業実績については、一部で見込みを若干下回った。 | | |
| | 改善の方向性 | 本事業の狙いが担保されるような事業者選定の方法について引き続き検討するとともに、公募を行う場合はPRを幅広く行うなど一層の競争性・透明性に努める。また、コスト削減については、為替の影響を考慮しつつも効率化を行い適切な事業執行に努め、引き続き活動見込みを達成できるよう事業を実施する。 | | |
| 外部有識者の所見 | | | | |
| 周辺国や主要国の情報収集など、公的な資金で行うことが適当である事業である。事故・紛争防止等に係る協議が民間団体によって行われているとのことだが、これで十分か。適切な事業執行に努めること。 また、事前協議によって事故などを未然に防止するための事業である。アウトカム指標①の事故発生件数は良いと思うが、10年間の平均ではなく直近年の数値を含む3年から5年程度の平均値で比較するなど、近年の動向と比較するべきではないか。 | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | |
| 終了予定 | <ul style="list-style-type: none"> ・資金の流れA及びBについて、前年度に引き続き一者応札(一者応募)となっている。 ・外部有識者から、成果目標について事業の成果を直接的に測れるものになっていないとの指摘があった。また、協議が民間団体によって行われていることの妥当性等についても指摘があった。 以上のことから、「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」、「適切な成果目標の設定」及び外部有識者所見を踏まえた検討を行うべきである。本事業は、平成31年度に終了予定の事業である。事業から得られた成果と課題を今後の施策の企画や推進に反映すること。 | | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | | |
| 予定通り終了 | (民間団体による実施の妥当性) 事故・紛争は民事案件のため、協議が民間団体により行われるのが妥当であり、それに対して国が助成をするものである。 (適切な指標の設定) アウトカムの①事故発生件数を近年の動向と比較するように見直しを行うこととし、平成31年度は直近5年平均との比較に変更する。 (支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善) 事業実施主体の選定における競争性・透明性の一層の向上のため、公募を行う場合はより幅広くPRを行い、公募要領をより分かりやすく記載する等の工夫を行ったものの、1者応札となった。本事業は平成31年度で終了予定であるが、今後同様の事業を行う場合は更なるPRに努めたい。 | | | |
| 備考 | | | | |
| | | | | |

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|--------|-------|--------|------|--------|------|
| 平成22年度 | - | 平成23年度 | 新0056 | 平成24年度 | 0333 | 平成25年度 | 0255 |
| 平成26年度 | 0238 | 平成27年度 | 0262 | 平成28年度 | 0269 | 平成29年度 | 0268 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0270) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位: 百万円)



| 費目・使途 （「資金の流れ」 においてブロック ごとに最大の金額 が支出されている者 について記載する。 費目と使途の双方で 実情が分かるように 記載） | A. (一社)大日本水産会 | | | B. (一社)自然資源保全協会 | | |
|--|---------------|--|-------------|-----------------|--------------------------------|-------------|
| | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | 外国旅費 | 周辺諸国等の漁業実態等の調査や国外で開催される民間協議出席に要する旅費 | 8.2 | 調査費 | 主要漁業国・国際機関等の漁業に関する情報を収集するための経費 | 20.5 |
| | 賃金 | 周辺諸国等の漁業実態等の情報収集・分析や民間協議開催に向けた調整等を行う職員(4名)への賃金 | 4 | 旅費 | 他国との協議や国内調整等のための外国、国内協議会等参加旅費 | 2 |
| | 役員費 | 翻訳費、通訳費 | 2.3 | その他 | 資料印刷費、海外・国内送金手数料、消耗品等 | 0.3 |
| | 国内旅費 | 事故防止等のための会合や国内で開催される民間協議出席に要する旅費 | 2 | | | |
| | 会議費 | 会場借料 | 0.4 | | | |
| | その他 | 通信運搬費、資料印刷費、送金手数料等 | 1.5 | | | |
| | | | | | | |
| | 計 | | 18.3 | 計 | | 22.8 |

支出先上位10者リスト

A. (一社)大日本水産会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------|---------------|---|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一社)大日本水産会 | 6010405000489 | 周辺諸国等の漁業実態等の調査・分析、周辺諸国等との民間協議会(操業ルールの策定・見直し、事故紛争処理等)の開催、周辺諸国等の漁船との事故・紛争防止に係る関係漁業者への指導 | 18.3 | 補助金等交付 | 1 | -- | |

B. (一社)自然資源保全協会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|---|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | (一社)自然保護資源保全協会 | 5010005014163 | 現地専門家とコンサルタント契約を締結し、主要漁業国・国際機関における水産資源管理、漁業に影響を及ぼす環境NGOの動向等について、情報収集・調査分析し、漁業者等への情報提供を実施。また、持続的漁業の推進を支持する海外漁業団体との連携強化を目的とした意見交換及び活動の実施。 | 22.8 | 補助金等交付 | 1 | -- | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0261

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|----------------|----------|------------|-------------------------|-------|--------|-------------|----------------|
| 事業名 | 包括的な国際資源管理体制構築事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成27年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成31年度 | 担当課室 | 資源管理部国際課 | | | 国際課長 山里直志 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | - | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日 閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | かつお・まぐろ類やさんま、底魚等の水産資源は、海域ごと等に設置される地域漁業管理機関による資源管理が行われている。本事業の最終目的はこれらの水産資源を持続的に利用し、国民に安定供給することにあるが、一部で資源管理の効果を損なうIUU(違法、無報告、無規制)漁業等が問題となっている。このため、我が国は、責任ある漁業国・市場国として資源管理措置を着実に実施するとともに、輸入管理を適切に行うことで、資源の持続的利用の確保及びIUU対策の強化を主導するため、本事業を実施する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 以下を内容とする委託事業を実施する。 ①資源評価の基礎となる漁獲情報の収集のため、指定漁業の許可及び取締り等に関する省令に基づき提出される漁獲成績報告書の迅速かつ確実な集計・分析を実施する。 ②地域漁業管理機関の保存管理措置を国内担保するため、指定漁業の許可及び取締り等に関する省令に基づくVMS(衛星船位測定送信システム)による漁船位置情報の報告に加え、VMSを活用したリアルタイムの漁獲情報の集計を実施する。 ③地域漁業管理機関の保存管理措置に基づき、適切な能力を有する科学オブザーバーを育成・乗船させ、漁業対象魚種及びサメ等混獲生物に関する科学データの収集及び分析等を行う。 ④地域漁業管理機関のルールを遵守していない水産物の輸入を未然に防ぐため、漁獲証明書及び統計証明書の管理・集計・分析を実施するとともに、各地域漁業管理機関に提出する輸入データの基礎資料とする。 ⑤漁獲証明制度等による輸入管理を補完するため、DNA分析、国内市場流通調査等による製品のトレースを行う。 ⑥我が国が大西洋くろまぐろに装着を義務付けているタグについて、これを電子化した新たな大西洋くろまぐろの漁獲管理手法を構築するための実証実験を実施する。 | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 402 | 451 | 447 | 474 | - | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | 計 | | 402 | 451 | 447 | 474 | 0 | | |
| | 執行額 | | 402 | 450 | 443 | - | | | |
| | 執行率(%) | | 100% | 100% | 99% | - | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | | 100% | 100% | 99% | - | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | |
| | 漁業資源調査等委託費 | | 474 | - | 事業終了のため | | | | |
| | 計 | | 474 | - | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 -年度 | 目標最終年度 31年度 |
| | 地域漁業管理機関の資源管理措置遵守による漁獲枠確保(ICCAT(大西洋クロマグロ))(目標値は前年の成果実績と同数を確保) | 大西洋クロマグロ漁獲枠確保量 | 成果実績 | t | 1,954 | 2,277 | 2,544 | - | - |
| | | | 目標値 | t | 1,691 | 1,954 | 2,277 | - | 2,544 |
| | | | 達成度 | % | 115 | 117 | 112 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | ICCAT公表資料 | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 成果実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 | |
|----------------------------|---|--------------|----------|--------------|---------------|---------------|----------------|-------------|------------|------|
| | | | | | | | | 年度 | 31年度 | 32年度 |
| | 地域漁業管理機関の資源管理措置遵守による漁獲枠確保(CCSBT(ミナミマグロ))(目標値は前年の成果実績と同数を確保) | ミナミマグロ漁獲枠確保量 | 成果実績 | t | 4,786 | 4,737 | 6,117 | - | - | |
| | | | 目標値 | t | 4,888 | 4,786 | 4,737 | - | 6,117 | |
| | | | 達成度 | % | 98 | 99 | 129 | - | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | CCSBT公表資料 | | | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | |
| | | | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | |
| | ①漁獲成績報告書集計数 | | 件、隻 | 95,000、1,069 | 146,000、1,018 | 111,245、989 | - | - | | |
| | ②許可船隻数 | | 当初見込み | 件、隻 | 113,000、1,095 | 102,000、1,069 | 102,000、1,018 | 102,000、989 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | |
| | | | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | |
| | ③科学オブザーバーの派遣人数 | | 人 | 124 | 104 | 138 | - | - | | |
| | | | 当初見込み | 人 | 90 | 103 | 96 | 96 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | |
| | | | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | |
| | ④輸入関連データの確認数 | | 件 | 26,504 | 26,005 | 26,504 | - | - | | |
| | | | 当初見込み | 件 | 27,000 | 28,000 | 28,000 | 28,000 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | |
| | | | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | |
| | ⑤DNA分析数及び市場流通調査確認件数 | | 件 | 7,509 | 9,940 | 10,401 | - | - | | |
| | | | 当初見込み | 件 | 6,800 | 9,750 | 9,750 | 9,750 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 | |
| | | | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | |
| | ⑥電子タグ装着件数 | | 個 | 900 | 1,050 | 1,600 | - | - | | |
| | | | 当初見込み | 個 | 1,100 | 900 | 1,200 | 1,700 | - | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位当たりコスト | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | | | | | | | | ①円、②円 | 334、61,392 | |
| | ①事業費/漁獲成績報告書集計数 | | 計算式 | 金額/件 | 41,372,820 | 43,683,000 | 37,739,462 | 34,092,653 | | |
| | ②事業費/許可船隻数 | | | 金額/隻 | /95,000 | /146,000 | /111,245 | /102,000 | | |
| | | | | 58,618,000 | 62,982,914 | 60,099,548 | 60,717,000/989 | | | |
| | | | | /1,069 | /1,018 | /989 | | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位当たりコスト | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | | | | | | | | 円 | 2,740,646 | |
| | ③事業費/オブザーバー派遣人数 | | 計算式 | 金額/人 | 217,383,808 | 231,042,248 | 248,499,760 | 263,102,052 | | |
| | | | | /124 | /104 | /138 | /96 | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位当たりコスト | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | | | | | | | | 円 | 2,805 | |
| | ④事業費/輸入関連データの確認数 | | 計算式 | 金額/件 | 62,128,000 | 70,008,752 | 72,023,640 | 78,545,454 | | |
| | | | | /26,504 | /26,005 | /26,504 | /28000 | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位当たりコスト | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | | | | | | | | 円 | 2,430 | |
| | ⑤事業費/DNA分析数及び市場流通調査確認件数 | | 計算式 | 金額/件 | 15,494,259 | 26,511,275 | 22,096,939 | 23,694,217 | | |
| | | | | /7,509 | /9,940 | /10,401 | /9,750 | | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位当たりコスト | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | | | | | | | | 円 | 3,534 | |
| | ⑥事業費/電子タグ装着数 | | 計算式 | 金額/個 | 6,593,328 | 6,378,028 | 6,084,277 | 6,007,500 | | |
| | | | | /900 | /1,050 | /1,600 | /1,700 | | | |

| | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|----------------------|-----|----|-------------|------|------|------------|--------------|--|--|
| 政策評価 | 政策 | 5.水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | | | |
| | 施策 | ⑳ 水産資源の回復 | | | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 年度 | | |
| | | 国際機関による資源管理対象魚種 | 実績値 | 魚種 | 92 | 93 | 96 | - | | | |
| | | | 目標値 | 魚種 | 90 | 92 | 93 | - | | | |
| | | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 目標年度 年度 | | |
| | | 国際機関による漁業協定数 | 実績値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | - | | | |
| | | | 目標値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | - | | | |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | | |
| | <p>本事業の実施により、国際的な資源管理への対応を包括的に実施する体制を構築し、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際機関による資源管理対象であるかつお・まぐろ・さんま等資源の持続的な利用 ・国際機関による漁業協定への参加を通じた我が国漁業者の操業機会の確保を図り、国民への水産物の安定供給及び我が国水産業の発展を確保する。 | | | | | | | | | | |
| 新経済・財政再生計画との関係 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | | |
| | | 成果実績 | | | | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | | | | | |
| | (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | | |
| | | 成果実績 | | | | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | | | |

政策評価、新経済・財政再生計画との関係

新経済・財政再生計画改革工程表 2018

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|----------|--|----|--|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | かつお・まぐろ・さんま等の適確な資源管理措置を実施し、我が国の漁獲枠を確保・維持することは、国民に対する水産物の安定供給を確保するものであり、国民のニーズに応えるものである。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 地域漁業管理機関の国際条約に基づく操業であるため、国の事業として実施すべきである。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 当事業は、適確な資源管理によるかつお・まぐろ・さんま等資源の持続的利用を図ることで、水産基本計画に定められた国民への安定供給とかつお・まぐろ漁業の健全な発展に貢献する重要な事業である。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | × | 当事業はかつお・まぐろ・さんま等の地域漁業管理機関の保存管理措置の確実な実施が目的のため、かつお・まぐろ類の高度な知見を要する業務となっていること等から一者応札になった。 |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 地域漁業管理機関の国際条約に基づく操業であるため、国の事業として実施すべき適確な資源管理を通じた、かつお・まぐろ・さんま等の資源の持続的な利用に寄与するのは政府の責任であることから、負担関係は妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | ・単位当たり事業コストは、 ①漁獲成績報告書集計数は、漁業者からの報告状況により年変動が生じるものの、妥当であった。 ②指定漁業許可隻数は漁船の操業状況により変動が生じるものの、妥当であった。 ③オブザーバーの派遣人数は、漁船の操業状況や地域漁業管理機関が定めるカバー率により変動が生じるものの、妥当であった。 ④輸入関連データの確認数は、市場の状況により年変動が生じるものの、妥当であった。 ⑤DNA分析数及び市場流通調査確認件数は、サンプル数確保の関係から年変動が生じるものの、妥当であった。 ⑥電子タグ装着数は、漁獲状況により年変動が生じるものの、妥当であった。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | 不必要な資金の流れはないため、合理的なものとなっている。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 事業実施に必要な費目・使途のみに支出されている。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 執行率は90%を超えている。 |
| | 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越額は発生していない。 |
| | その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 費目・使途は真に必要なものに限定して支出しており、会議費も最小限に抑えるなど効率化をはかっている。 |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 地域漁業管理機関の保存管理措置を確実に履行することで、かつお・まぐろ・さんま等の資源を持続的に利用し、国民に対して安定供給をすることができた。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 地域漁業管理機関により資源管理措置方法が定められていることから、他の実行手段はない。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | △ | 一部活動実績は見込みを下回ったものの、市場状況等により変動が生じるものであり、妥当であった。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 当事業により得られた調査結果は地域漁業管理機関に報告、資源管理措置の検討等に活用されるとともに、水産行政においても活用されている。 |

| | | | |
|--|---|--|-----|
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。 (役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | | - |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の実施により、適正な資源管理措置を実施し、我が国の漁獲枠を確保・維持することは、国民に対する水産物の安定供給を確保するものであり、国民のニーズに応えるものである。 ・適切な事業運営を進めるため、定期的に事業の進捗状況について、打合せを行った。 ・当事業はかつお・まぐろ類の高度な知見を要する業務となっていることから一者応札になった。 ・活動実績について、輸入関連データの確認数が見込みを下回ったものの、為替や市場状況等の影響により見込みよりも輸入申請数が少なかったことによるものであり、問題はない。 ・各地域漁業管理機関に調査結果を報告し、資源管理措置の検討等に使用していることから成果物は十分に活用されている。 | |
| | 改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き適正なコスト意識の下、適切な事業の執行に努める。 ・引き続き得られた輸入関連データの分析を進め、輸入管理を厳格かつ適切に行う。 ・詳細な仕様書の作成や過去の成果物の閲覧等の措置を講じるほか、十分な公告期間の確保等により競争性・透明性の向上に努め、一者応札の改善に努める。 | |
| 外部有識者の所見 | | | |
| 一者応札が改善されるよう、一者応札となった原因分析と現在の改善方針が一貫するものであるか再度検討する必要がある。 | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | |
| 終了予定 | <ul style="list-style-type: none"> ・活動実績について、当初の見込みを下回ったものがある。 ・資金の流れAからFまでについて、前年度に引き続き一者応札(一者応募)となっている。 ・外部有識者から、一者応札の改善方針を再度検討するよう指摘があった。 <p>以上のことから、「支援方策の見直し」、「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」及び外部有識者所見を踏まえた検討を行うべきである。本事業は、平成31年度に終了予定の事業である。事業から得られた成果と課題を今後の施策の企画や推進に反映すること。</p> | | |
| 所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況 | | | |
| 予定通り終了 | <p>「支出先の選定における競争性・透明性の抜本的な改善」について、詳細な仕様書の作成や過年度の報告書の閲覧の実施により事業の内容を分かりやすく伝えるとともに、公示期間の拡大等により、競争性・透明性の向上に努めていく。</p> <p>「支援方策の見直し」について、活動実績のうち「許可船隻数」及び「輸入関連データの確認数」が当初の見込みを下回っている。「許可船隻数」については前年の実績を基に設定したものであり、燃油高騰や魚価低迷等による経営状況の変化、高船齢化の進行の影響を受け当初の見込みを下回る結果となった。また、「輸入関連データの確認数」についてはその時点での輸入状況や地域漁業管理機関(RFMO)が求める措置に基づいて設定したものであり、その年の需給状況やRFMOの措置の内容によって変動する性質をもっているため、当初の見込みを下回る結果となった。しかしながら、これら2点については事業の目的であるVMSによる許可船の操業監視及びRFMOの求めに応じたデータ提出及び違法漁獲物の輸入監視について適切に行われており、成果目標を達成していることから、引き続き適切な事業の実施に努めていく。</p> | | |

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記載)

| A-1.国立研究開発法人 水産研究・教育機構 | | | A-2.みずほ情報総研株式会社 | | |
|-------------------------|----------------------------|-------------|-------------------------|----------------------------------|-------------|
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 漁獲成績報告書のデータ整理・分析費 | 6.6 | 人件費 | 漁獲成績報告書等のシステム開発、データ入力、エラーチェック、集計 | 26.7 |
| その他 | 旅費、消耗品費、雑役務費等 | 0.1 | その他 | 材料費、交通費等 | 3.9 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 6.7 | 計 | | 30.6 |
| B-1.一般社団法人 漁業情報サービスセンター | | | B-2.株式会社 キュービック・アイ | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | VMSの情報解析、システム運用費、ソフトウェア保守費 | 20.5 | 人件費 | VMSの情報解析、システム運用費、ソフトウェア保守費 | 22.8 |
| 通信費 | VMSの回線使用料、プロバイダ費 | 3.1 | その他 | パソコンレンタル費、回線使用料、消耗品費 | 0.5 |
| 管理経費 | 事務費、光熱費、通信運搬費等 | 4.4 | | | |
| コンピュータ借料 | システム管理を行うためのコンピュータ借料 | 5.4 | | | |
| その他 | 旅費、事務費等 | 0.6 | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 34 | 計 | | 23.3 |
| B-3.株式会社 マイトベーシックサービス | | | C-1.公益財団法人 海外漁業協力財団 | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 入力・集計システム保守・改修 | 2.7 | 人件費 | 科学オブザーバーの育成費・管理費 | 87.1 |
| | | | オブザーバー派遣費 | オブザーバー手当、機材費等 | 72.3 |
| | | | 外部委託(再委託承認) | 科学データの入力・管理・分析費、サンプリング作業費等 | 9.2 |
| | | | その他 | 旅費、消耗品費、管理費等 | 10.1 |
| | | | | | |
| 計 | | 2.7 | 計 | | 178.7 |
| C-2.株式会社 日本エヌ・ユー・エス | | | D-1.一般社団法人 漁業情報サービスセンター | | |
| 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | データ入力、データ管理 | 56.7 | 人件費 | 申請情報のデジタル化・蓄積管理 | 5.9 |
| 旅費 | データ収集に係る旅費 | 5.7 | 借用費 | コンピュータ借用 | 2.4 |
| 消耗品 | 混獲回避漁具費等 | 4.3 | 再委託費 | 輸入まぐろ情報制度向上作業費 | 0.8 |
| その他 | 謝金、翻訳料等 | 0.5 | 管理経費 | 事務所借料、光熱水料等 | 0.2 |
| | | | その他 | 事務費等 | 0.3 |
| | | | | | |
| 計 | | 67.2 | 計 | | 9.6 |

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|------------------------------|--------------|----------------|----------------|------|---|
| 1 | みずほ情報総研株式会社 | 9010001027685 | 漁獲成績報告書の集計・管理及び混獲生物情報の集計を行う。 | 30.6 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |
| 2 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 事業全体の管理及び分析を行う。 | 6.7 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |

B

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------------|---------------|---------------------------|--------------|----------------|----------------|------|---|
| 1 | 一般社団法人 漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | VMSシステムの操業実態の把握及び通報の有無の確認 | 34 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |
| 2 | 株式会社 キュービック・アイ | 7010701002675 | VMSシステムの構築、保守管理及びシステム改修 | 23.3 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |
| 3 | 株式会社 マイトベーシックサービス | 2011101026261 | 入力・集計システム保守・改修 | 2.7 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |

C

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------------|---------------|-----------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 公益財団法人 海外漁業協力財団 | 6010405010447 | 科学オブザーバーの配乗、科学データの分析等 | 178.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 株式会社日本エヌ・ユー・エス | 8011101057185 | オブザーバーデータの入力・管理等 | 67.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

D

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------------|---------------|--------------|--------------|----------------|----------------|------|---|
| 1 | 一般社団法人 漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | 情報の蓄積及びデジタル化 | 9.6 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |
| 2 | 株式会社マイトベーシックサービス | 2011101026261 | データ管理・システム改修 | 62.5 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |

E

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------------|---------------|---------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1020005004051 | DNA塩基配列分析及び市場調査結果分析 | 11 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 一般社団法人 日本海事検定協会 | 9010005016718 | DNA検体採取 | 4.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 一般社団法人 責任あるまぐろ漁業推進機構 | 4010405002743 | 輸入予定データ及び市場調査結果入力 | 3.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 学校法人 東海大学 | 1011005000371 | DNA分析高度化 | 3.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

F

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------------|---------------|--------------------|--------------|----------------|----------------|------|---|
| 1 | 一般社団法人 責任あるまぐろ漁業推進機構 | 4010405002743 | 作業コーディネーター事業管理 | 0.9 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |
| 2 | 株式会社 富藤製作所 | 4011501007933 | ソフト改修、データ管理、システム運用 | 4.1 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |
| 3 | 田中船用品株式会社 | 8010601004572 | タグの検品管理 | 1 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |

G

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|-----------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 調査指導、調査データ解析、結果の取りまとめ | 2.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

H

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|--|-------------|---------------|--------------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | マリノリサーチ株式会社 | 2190001012577 | 耳石の輪紋分析による輪紋数の計測及び輪紋間の測定 | 1.8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 | | | | | | | チェック | <input checked="" type="checkbox"/> |

| D-2.株式会社 マイトベーシックサービス | | | E-1.国立研究開発法人 水産研究・教育機構 | | |
|-----------------------|------------------------|--------------|------------------------|----------------|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 人件費 | 既存システム改修、システム開発、データ入力費 | 62.4 | 消耗品 | DNA分析試験試薬等 | 4.2 |
| その他 | 通信費、資料運搬費 | 0.1 | 賃金 | DNA分析費 | 6.1 |
| | | | 職員旅費 | サンプリング作業 | 0.2 |
| | | | その他 | 運送料、資料校閲等 | 0.5 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 62.5 | 計 | | 11 |
| E-2一般社団法人日本海事検定協会 | | | E-3一般社団法人責任あるまぐろ漁業推進機構 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 賃金 | DNA検査に係る人件費 | 4.1 | 賃金 | DNA検査に係る人件費 | 3 |
| その他 | レンタカー等 | 0.1 | 職員旅費 | サンプリング旅費 | 0.4 |
| | | | その他 | 検討委員会謝金、会場借料等 | 0.2 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 4.2 | 計 | | 3.6 |
| E-4学校法人東海大学 | | | F-1一般社団法人責任あるまぐろ漁業推進機構 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 消耗品費 | 試験試薬・保管収集容器 | 3.1 | 賃金 | データ分析費 | 0.6 |
| 賃金 | DNA分析手法開発に係る人件費 | 0.2 | 職員旅費 | データ収集に係る旅費 | 0.2 |
| その他 | 旅費等 | 0 | その他 | パソコン借用費、会場借用料等 | 0.1 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 3.3 | 計 | | 0.9 |
| F-2株式会社富藤製作所 | | | F-3田中船用品株式会社 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 雑役務費 | ソフト改修、データ管理費等 | 2.3 | 雑役務費 | タグ検品管理費、IC番号検査 | 0.9 |
| 再委託費 | ICチップ製造費等 | 0.9 | その他 | 賃金、職員旅費 | 0.1 |
| 備品 | 電子タグリーダー | 0.8 | | | |
| 職員旅費 | 現地打合せ | 0.1 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 4.1 | 計 | | 1 |

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロック
 ごとに最大の金
 額が支出されて
 いる者について
 記載する。費目
 と使途の双方で
 実情が分かるよ
 うに記載)

| 費目・使途 （「資金の流れ」 においてブロック ごとに最大の金 額が支出されて いる者について 記載する。費目 と使途の双方で 実情が分かるよ うに記載） | G. 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 | | | H. マリノリサーチ株式会社 | | |
|--|-----------------------|--------------|-------------|----------------|-----------|-------------|
| | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | 人件費 | 科学データの入力・管理費 | 1.9 | 人件費 | 科学データの分析費 | 1.8 |
| | その他 | 旅費、間接費等 | 1 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 計 | | 2.9 | 計 | | 1.8 |
| | I. 有限会社綿間瀬船舶 | | | J. 山川漁業協同組合 | | |
| | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | 人件費 | サンプリング作業費 | 2 | 人件費 | 測定・調査費 | 1.6 |
| | その他 | 旅費等 | 0.9 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 計 | | 2.9 | 計 | | 1.6 |

別紙3

I

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------|---------------|------------------------------------|--------------|--------------|----------------|------|---|
| 1 | 有限会社綿間瀬船舶 | 5080002018235 | 海外まき網漁船の水揚げ物について、混獲魚種等の測定や組成調査を行う。 | 2.9 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |

J

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------|---------------|---------------|--------------|--------------|----------------|------|---|
| 1 | 山川漁業協同組合 | 1340005004077 | 混獲魚種等の測定や組成調査 | 1.6 | 随意契約 (公募) | 1 | 100% | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0262

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|---|--|--------|----------------|------------------------|------|--------|-------------------|-----------------|
| 事業名 | ICTを利用した漁業技術開発事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成29年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成30年度 | 担当課室 | 増殖推進部研究指導課 | | | 研究指導課課長 高瀬 美和子 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な 条項も記載) | - | | | 関係する 計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | - | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | <p>本事業は、沿岸漁業・海面養殖業における課題であるICT技術の活用により以下のとおり取り組むことで、沿岸漁業・海面養殖業の収益向上を図り、若手漁業者の育成、「養殖業の成長産業化」、「持続的な養殖」の推進を目指すものである。</p> <p>①ICTを活用した支援技術の効果を実証し、その成果を普及することによる沿岸漁業のスマート化</p> <p>②ICT技術や先端フォトニクス技術を活用した高効率、高品質かつ漁場環境の悪化にも適応した新たな海面養殖マネジメントシステムの開発</p> | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。 別添可) | <p>1)スマート沿岸漁業推進事業(委託)</p> <p>沿岸の漁船漁業者が、スマートフォン等と連動してリアルタイムで出漁した海域の測定ができる小型機器を開発し、これを使用する漁業者が参加する観測網構築を行い、その普及を図る。さらに、観測網から得られたデータを用いて、沿岸域における漁場形成を予測するモデルを開発し、漁業者等への配信を行い、適切な操業判断と漁場の共同利用の促進、新規漁業者への漁業技術の継承とスキルアップを図る。</p> <p>2)ICT養殖推進事業(委託)</p> <p>養殖事業者がICT技術や先端フォトニクス技術を活用し、養殖魚のサイズ、肥満度や健康状態を水中画像データ、ソナー情報から分析する技術、最適な温度帯で養殖が可能となる遠隔操作で制御できる浮沈式生け簀の開発を行う。また、その成果を漁業者に紹介し、当該技術の普及を図ることで「養殖業の成長産業化」「持続的な養殖」を推進する。</p> | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負 | | | | | | | | |
| 予算額・ 執行額 (単位:百万円) | 予算 の 状 況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 0 | 72 | 124 | 0 | 0 | | |
| | 執行額 | 0 | 72 | 124 | | | | | |
| | 執行率(%) | - | 100% | 100% | | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | - | 100% | 100% | | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | - | - | - | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | - | - | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 31 年度 |
| | 1)スマート沿岸漁業推進事業 平成31年度までに操業実証試験参加者において、単位漁獲量あたりの燃油使用量の10%節減 | 操業実証試験参加者の単位漁獲量あたりの燃油使用節減率 (計算式:(基準1-実証後燃費/実証前燃費)×100%) | 成果実績 | % | - | - | - | - | - |
| | | | 目標値 | % | - | - | - | - | 10 |
| | | | 達成度 | % | - | - | - | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ(集計中) | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 |
|---|--|---------|----|----------|----------|------|----------|--------|
| | | | | | | | - 年度 | 30 年度 |
| 2)ICT養殖推進事業 平成30年度までにITを導入した養殖施設の燃油使用量の10%節減 | 養殖施設の燃油使用節減率 (計算式:(基準1-実証後燃費/実証前燃費×100%)) | 成果実績 | % | - | - | 500 | - | 500 |
| | | 目標値 | % | - | - | 100 | - | 100 |
| | | 達成度 | % | - | - | 500 | - | 500 |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 |
| | | | | | | | - 年度 | 30 年度 |
| 2)ICT養殖推進事業 平成30年度までに、ギンザケを対象に、浮沈生簀を適水温帯に沈下させることで高水温期の海面養殖を12日程度継続。 | 高水温期の海面養殖継続率 (計算式:(1-沈下日数/計画日数×100%)) | 成果実績 | % | - | - | 100 | - | 100 |
| | | 目標値 | % | - | - | 100 | - | 100 |
| | | 達成度 | % | - | - | 100 | - | 100 |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 |
| | | | | | | | 活動見込 | 活動見込 |
| 1)スマート沿岸漁業推進事業 漁業者個人の勤や経験に頼ることの多かった漁場探索の勤どころ等を、ICT技術を利用して「見える化」を図り、沿岸漁業の効率化及び若手世代への漁業技術の継承を促進する。 ①安価で簡易な計測機器の開発 ②沿岸海域環境モデル・アプリの開発 ③漁協等と連携した操業実証 | 活動実績 | 課題 | - | 1 | 1 | - | - | |
| | 当初見込み | 課題 | - | 3 | 3 | - | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度 |
| | | | | | | | 活動見込 | 活動見込 |
| 2)ICT養殖推進事業 環境ICT技術等を活用した、ブランド力など「強み」のある養殖水産物を生産・管理する技術を実用化・普及する。 ①水中画像データを分析する技術開発 ②光環境を制御する技術の開発 ③漁場モニタリングシステムの開発 | 活動実績 | 課題 | - | 0 | 3 | - | - | |
| | 当初見込み | 課題 | - | 3 | 3 | - | - | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | | | | | | | | |
| 1)スマート沿岸漁業推進事業 予算額/技術開発および観測網構築のための課題数 | 単位当たりコスト | 千円 | - | 23,760 | 27,747 | - | | |
| | 計算式 | 予算額/課題数 | - | 71,280/3 | 83,241/3 | - | | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | |
| | | | | | | | | |
| 2)ICT養殖推進事業 予算額/技術開発および観測網構築のための課題数 | 単位当たりコスト | 千円 | - | 17,827 | 13,504 | - | | |
| | 計算式 | 予算額/課題数 | - | 53,483/3 | 40,511/3 | - | | |

| | | | | | | | | | |
|---------------------|--|--|-----|---------------|-------|-------|--------------|----------------|--------------|
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5. 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑩水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 - 年度 |
| | | 1)スマート沿岸漁業推進事業 資源管理対象魚種のうち中位又は高位水準の魚種の占める割合 | 実績値 | % | 53.8 | 56.3 | 53.8 | - | - |
| | | | 目標値 | % | 53.8 | 53.3 | 53.8 | - | - |
| | | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 - 年度 |
| | 2)ICT養殖推進事業 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業の等の生産量 | 実績値 | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - | |
| | | 目標値 | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | - | |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | |
| | <p>1)スマート沿岸漁業推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 漁業者個人の勤や経験に頼ることの多かった沿岸漁業において、ICT技術を利用して、漁場探索の勤どころ等の「見える化」を図ることで、沿岸漁業における適切な操業判断と漁場の共同利用の促進による経営効率化および若手世代への漁業技術の継承促進が図られることによって、水産資源の安定的な供給および漁村の発展に資するものである。また、本事業により資源状況を踏まえた操業を実施することで、水産資源の管理・回復への取り組みの推進に寄与する。 <p>2)ICT養殖推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 養殖技術、収入の増加や抜本的なコストの抑制を実現する新たな養殖手法の実現に必要なICT技術を活用した新たな養殖技術の開発を実施することにより、養殖業の生産量の確保に寄与する。 | | | | | | | | |
| 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | |
| (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | |
| | 成果実績 | - | - | - | - | - | - | | |
| | 目標値 | - | - | - | - | - | - | | |
| (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | |
| | 成果実績 | - | - | - | - | - | - | | |
| | 目標値 | - | - | - | - | - | - | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|--|----|---|
| 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 漁業者個人の勤や経験に頼ることの多かった沿岸漁業において、ICT技術を利用して、漁場探索の勤どころ等の「見える化」を図り、沿岸漁業の効率化及び若手世代への漁業技術の継承促進を目指す事業であり、漁村地域の発展に資するとともに、食糧の安定供給の観点からも国民のニーズに沿った事業である。 |
| 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 本事業は、様々な漁業種類が混在する沿岸漁船漁業に関し、これまでになかった技術を導入して、漁業者自身も参加した実証型で行うこととしているが、このような技術開発はリスクも高く、国が主導的に実施する必要がある。 |
| 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 漁業者個人の勤や経験に頼ることの多かった沿岸漁業において、ICT技術を利用して、沿岸漁業の効率化及び若手世代への漁業技術の継承促進を図ることとしており、漁業経営の安定および担い手の確保、ひいては水産物の安定供給に寄与する優先度の高い事業である。 |

政策評価、新経済・財政再生計画との関係

新経済・財政再生計画改革工程表
2018

国費投入の必要性

| | | | | |
|---|---|--|--|-----|
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | △ | 公募で広く技術提案の募集を行い、最も優れた技術提案を行った民間団体等に委託する総合評価落札方式を採用しているが、平成30年度の応募者は1者のみであった。 | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 委託事業として必要な経費を受託者に支出しており、妥当である。 | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 課題毎に必要な経費を精査の上、計上している。 | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | 委託事業であり、団体等は経由せず、委託先に直接支出している。 | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 費目・使途については、精査したところ事業実施に必要な使途に限定されている。 | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 平成30年度事業の執行率は100%である。 | |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越はない。 | | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 定期的(月に約1回)に工程会議を開催し、事業の進捗管理を的確に行うとともに、事業費の消化状況についても定期的に把握し、情報共有を行うことによって、効率化を図っている。 | | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | - | H30年度では、前年度で設計した機器の開発途中のため。 | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 本事業で、開発した機器及び漁業者の漁船や漁具等を活用し、状況に合うよう改善・開発し、普及を図ることがもっとも効果的で低コストな方法である。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | × | H30年度では、前年度で設計した機器の開発途中のため。 | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 用途毎に機器の開発を行い実証に向けている。 | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | | 事業名 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | 本事業については、公募期間を広く取り技術提案の募集を行った結果、委託先の選定にあたっては、最も優れた提案を行った者に委託することとした。 なお、当該条件を満たす者がほかにいなかったことが1社応札になったと考えられ、過年度の事業結果の公表、公示期間の延長などの対応をこれまでと同様に確保しつつ、引き続き選定の競争性・透明性を図っていきたい。 | | |
| | 改善の方向性 | 本事業で、1年目では、機器等の設計・制作。2年目については1年目で制作した試作機器等で実際に養殖魚の飼育試験を実施した。結果、餌の運搬回数では、燃油使用節減ができ、このことから、本事業で、開発した機器及び技術を漁業者が活用、普及することで効果的で低コストが可能となる。 | | |
| 外部有識者の所見 | | | | |
| スマート漁業、ICTの活用は省力化や精度の向上を目指すものである。効率的な操業が新規業者も含めて出来るように、ということで燃油使用節減量の指標が出ているものと思われるが、他の指標は無い。たとえば、操業時間の短縮や時間当たり漁獲量の増加など、何か他に無理なく利用可能な指標があれば良いが、もし難しい場合には、この指標を使うこともやむをえないだろう。また、養殖事業についても労働時間短縮などの指標が使えないか。 | | | | |
| 行政事業レビュー推進チームの所見 | | | | |
| 終了予定 | <ul style="list-style-type: none"> 成果目標について年度ごとに設定されておらず、事業の効果を検証することができない。 活動実績について、当初の見込みを大幅に下回ったものがある。 資金の流れA及びFについて、一者応札(一者応募)となっている。 以上のことから、「年度ごとに目標値の設定」、「支援方策の抜本的な見直し」及び「支出先の選定における競争性・透明性の改善」を行うべきである。本事業は、平成30年度に終了した事業である。事業から得られた成果と課題を今後の施策の企画や推進に反映すること。 | | | |

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

予定通り終了

・本事業の指標について、本事業により操業の効率化が促進することが期待されているが、沿岸漁業者・養殖業者とも、小規模な人員での操業・活動している場合が多く、詳細な操業の状況の提出は、困難な場合が多い。また、燃油関係の支出は、漁業・養殖経営にしめる影響が大きい。これらの理由から、事業指標として、記録が漁業者の負担をかけることなくデータを収集し、客観的に評価できる燃油節減を目標として掲げている。今後、スマート化が進み、詳細な操業記録等が容易に得られるようになれば、ご指摘のような操業時間にかかる分析・評価も可能になると思われる。

・スマート沿岸漁業推進事業の成果目標については、事業目標の達成に向け、必要な機器・ソフトの開発から行っている事業であるため、これらの要素が整備されて初めて成果について評価できる状況にあり、3年目(R元年度)については、これまでに開発された機器等を用いて評価を行うべくデータ収集している。

・スマート沿岸漁業推進事業の活動実績については、3課題のうち、主に計測機器の開発を主体に行っていたが、H30年度でほぼ試作が終了した。これを踏まえ、令和元年度で残りの課題も含めた全課題について取り組んでいる。

・スマート沿岸漁業推進事業及びICT養殖推進事業の両事業は、ICT技術を活用し沿岸漁業・海面養殖のための技術開発で、専門的な知見及び技術が必要とすることから、企業1社での事業実施が難しいことから、スマート沿岸漁業推進事業については、共同提案、ICT養殖推進事業については、グループ提案と両事業共に1者応札となったと考えられる。

以上のように、ご指摘を踏まえ、本事業から得られた成果と課題について今後の事業等に反映させて参りたい。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | |
|-----------------------|----------|-----------------|-----------------|
| 平成22年度 - | 平成23年度 - | 平成24年度 - | 平成25年度 - |
| 平成26年度 - | 平成27年度 - | 平成28年度 新29-0016 | 平成29年度 新29-0021 |
| 平成30年度 農林水産省 (0274) | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

農林水産省
124百万円

ICTを利用した漁業技術開発事業 124百万円

スマート沿岸漁業推進事業 83.2百万円

ICT養殖推進事業 40.5百万円

委託【総合評価入札】共同提案

委託【総合評価入札】グループ提案

【A】スマート沿岸漁業推進事業共同提案

【F】ICT養殖推進事業共同実施機関

| | | | | | | | | |
|-----------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------------------|---------------------|--------------------------------------|-------------------------|
| ア 九州大学 13百万円 | イ 長崎大学 2.1百万円 | ウ 福岡県 9.7百万円 | エ 佐賀県 9.7百万円 | オ 長崎県 7.4百万円 | カ JFE7ドバン テック(株) 10百万円 | キ いであ(株) 17.1百万円 | ク (一社)漁業 情報サービス センター 4.5百万円 | ケ 古野電気 (株) 9.7百万円 |
|-----------------|------------------|-----------------|-----------------|-----------------|------------------------------|---------------------|--------------------------------------|-------------------------|

| | | | | | |
|--------------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------------|--------------------------------|------------------|
| ア マリノ フォーラム 21 7.0百万円 | イ 広和(株) 10.6百万 円 | ウ 水口電装 (株) 8.3百万円 | エ ニチモウ (株) 10.5百万 円 | オ 西日本ニ チモウ (株) 3.6百万円 | カ 東京大学 0.5百万円 |
|--------------------------------|------------------------|-------------------------|------------------------------|--------------------------------|------------------|

漁業者自身が手軽に扱うことができ、リアルタイムで出漁海域の情報を得ることの出来る安価で簡易な小型計測機器およびこの観測データを用いた沿岸域の漁場形成予測とその配信を行うモデルを開発し、沿岸漁業者が参加した海域観測網による操業実証を行う。

- ・検討委員会の開催。
- ・魚体長等把握技術の開発・実証
- ・漁場環境モニタリング技術の開発・実証
- ・可変深度型生簀の試作・実証

【再委託】

【再委託】

【再委託】

【再委託】

【B】
(株)海洋総合研究所
0.5百万円

【C】
環境シミュレーション研究所
7.7百万円

【D】
(株)パスコ
1.6百万円

【E】
(株)フルノソフテック
3百万円

海況予報HPのHTTPS化

操業日誌データの取り扱いプログラム開発

GISシステムの開発

潮流データ解析プログラム開発

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

| 費目・使途 （「資金の流れ」に おいてブロックご とに最大の金額 が支出されている 者について記載 する。費目と使途 の双方で実情が 分かるように記 載） | A.いであ(株) | | | B.(株)海洋総合研究所 | | |
|--|---------------------|--------------|--------------|--------------|---------------|-------------|
| | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使途 | 金額 (百万円) |
| | 人件費 | 開発等に係る経費 | 15.1 | 委託費 | 海況予報HPのHTTPS化 | 0.5 |
| | 借損料 | 備船料等 | 0.1 | | | |
| | 旅費 | 検討会及び業務に係る旅費 | 0.7 | | | |
| | 消耗品費 | 開発等に係る消耗品等 | 0.6 | | | |
| | 備品費 | CTD機器購入 | 0.6 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 計 | | 17.1 | 計 | | 0.5 |
| | C.環境シミュレーション研究所 | | | D.(株)パスコ | | |
| 再委託 | 操業日誌データの取り扱いプログラム開発 | 7.7 | 再委託 | GISシステムの開発 | 1.6 | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 計 | | 7.7 | 計 | | 1.6 | |
| | E.(株)フルノフティック | | | F. 広和(株) | | |
| 委託費 | 潮流データ解析プログラム開発 | 3 | 人件費 | 直接人件費 | 3.7 | |
| | | | 旅費 | 業務に係る旅費 | 1.2 | |
| | | | 雑役務費・借 損料 | 試験作業費、備船料等 | 0.3 | |
| | | | その他 | 計測資材費、事務諸経費等 | 5.4 | |
| | | | | | | |
| 計 | | 3 | 計 | | 10.6 | |

支出先上位10者リスト

A.スマート沿岸漁業推進事業共同提案

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------------|---------------|--|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | いであ(株) | 7010901005494 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 17.1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 国立大学法人九州 大学 | 3290005003743 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 13 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | JFEアドバンテック(株) | 9140001068394 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 10 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 福岡県 | 6000020400009 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 9.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | 佐賀県 | 1000020410004 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 9.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | 古野電気(株) | 5140001070263 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 9.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 7 | 長崎県 | 4000020420000 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 7.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 8 | (一社)漁業情報 サービスセンター | 4010005005675 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 4.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 9 | 国立大学法人長崎 大学 | 3310005001777 | ICTを利用した漁業技術開 発事業のうちスマート沿岸 漁業推進事業の技術開発 | 2.1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

B.(株)海洋総合研究所

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------|---------------|---------------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | (株)海洋総合研究所 | 7020001057064 | 海況予報HPのHTTPS化 | 0.5 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

C.環境シミュレーション研究所

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|---------------------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | 環境シミュレーション研究所 | 5030001054566 | 操業日誌データの取り扱いプログラム開発 | 7.7 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

D.(株)パスコ

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------|---------------|------------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | (株)パスコ | 5013201004656 | GISシステムの開発 | 1.6 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

E.(株)フルノソフティック

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------|---------------|----------------|--------------|---------------|----------------|------|---|
| 1 | (株)フルノソフティック | 6140001070262 | 潮流データ解析プログラム開発 | 3 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |

FICT養殖推進事業共同実施機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|----------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 広和(株) | 6120001026316 | ICT養殖推進事業の技術開発 | 10.6 | 随意契約 (その他) | 1 | 100% | |
| 2 | ニチモウ(株) | 7010701011833 | ICT養殖推進事業の技術開発 | 10.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 水口電装(株) | 4250001006406 | ICT養殖推進事業の技術開発 | 8.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | (一社)マリノフォーラム21 | 6010505002105 | ICT養殖推進事業の技術開発 | 7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | 西日本ニチモウ(株) | 8250001006105 | ICT養殖推進事業の技術開発 | 3.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | 東京大学 | 5010005007398 | ICT養殖推進事業の技術開発 | 0.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0263

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-----------------------------|---|------------|----------|--|------------------------|-------|---------|-------------|--------------|
| 事業名 | EEZ内資源・漁獲管理体制強化事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成30年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成35年度 | 担当課室 | 管理調整課資源管理推進室 | | | 管理調整課長 廣野 淳 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令(具体的な条項も記載) | - | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 本事業は、数量管理等による資源管理の充実及び資源管理指針・計画体制に基づく自主的資源管理の高度化等を行うことによって、課題となっている我が国における水産資源の維持・増大を図り、最終的な目標である漁業者の安定した収益の達成を目指すものである。 | | | | | | | | |
| 事業概要(5行程度以内。別添可) | (1)クロマグロについて、①定置網における漁獲抑制に係る技術開発を支援(補助率:定額)、②公平性のある厳格な数量管理を実現するための管理体制の点検・指導等の取組を支援(補助率:定額)、③漁業者が行うIQ方式の試験的な導入を行う実証調査に必要な経費を支援(補助率:定額)。 (2)TAC魚種等の漁獲情報の収集、協定に基づき我が国EEZに入漁する外国漁船の入出域報告や日別漁獲量等の報告情報の収集・分析等に関するシステムの維持管理・改修等を行う(委託事業)。 (3)資源管理計画等の評価・検証及び高度化の推進等を行う都道府県資源管理協議会の運営に必要な経費と、大臣管理漁業等における漁業者協議会等の開催や、資源管理計画等の高度化に関する調査に必要な経費を支援(補助率:定額)。 (4)①トラフグ等の広域種の資源造成効果の検証等に係る取組への支援やキンメダイ等の種苗生産・放流に係る技術開発、②サケ稚魚の放流体制の転換を図る取組等を支援するとともに、放流後の減耗を回避するための技術開発等を実施(補助率:1/2、委託事業) | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負、補助 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額(単位:百万円) | 予算の状況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 0 | 0 | 589 | 1,205 | 1,338 | | |
| | 執行額 | 0 | 0 | 554 | | | | | |
| | 執行率(%) | - | - | 94% | | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | - | - | 94% | | | | | |
| | 平成31・32年度予算内訳(単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | |
| 水産資源回復対策事業費補助金 | | 812 | 867 | 「新しい日本のための優先課題推進枠」1,338 ・TAC対象魚種の拡大やIQ方式の導入等の新たな資源管理システムに対応するため、従来のTACシステムに、漁獲成績報告機能、漁船別に漁獲量情報を集積・管理するIQ管理機能、並びにTAC対象魚種の拡大と情報の細密化に対応できる機能を付加するシステム改修に係る経費を拡充。 | | | | | |
| 水産資源回復対策調査等委託費 | | 256 | 256 | ・水産改革に基づく新たな資源管理システム等の構築に向け、漁業者が行う自主的取り組みの高度化を図るため、実行可能性を含め資源管理計画の状況調査等に係る経費を拡充するとともに、都道府県が行う適切な漁場利用の確保を図るための沿岸漁場の管理に関する調査等を行う経費を拡充。 | | | | | |
| 漁業資源調査等委託費 | | 136 | 154 | ・県域を跨って回遊する広域種について、既存の種苗生産施設の有効利用とより効果的な放流を行うため、広域的に連携して、共同種苗生産・放流体制を構築する取組を支援する経費を拡充。 | | | | | |
| 水産資源回復対策地方公共団体事業費補助金 | | - | 61 | | | | | | |
| 計 | 1,205 | 1,338 | | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績(アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 35 年度 |
| | クロマグロの漁獲可能量の遵守 | クロマグロの漁獲量 | 成果実績 | トン | - | - | 6,046.2 | - | - |
| | | | 目標値 | トン | - | - | 8,013.3 | - | - |
| | | | 達成度 | % | - | - | - | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 太平洋クロマグロの漁獲状況について(水産庁調べ) (平成30年度の成果実績には、第4管理期間の漁獲量(沖合漁業は平成30年1月1日～平成30年12月31日、沿岸漁業は平成30年7月1日～平成31年3月31日)を記載) | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 |
|---|--|------|------|------|-------|--------------|--------------|--------|
| | | | | | | | -年度 | 35年度 |
| TAC対象魚種全ての漁獲 可能量の遵守 | TAC対象魚種全ての漁獲 量 | 成果実績 | トン | - | - | 1,286,207 | - | - |
| | | 目標値 | トン | - | - | 2,455,539 | - | - |
| | | 達成度 | % | - | - | - | - | - |
| 根拠として用いた 統計・データ名 (出典) | 第1種特定海洋生物資源の採捕数量(JAFFIC) (成果実績は、平成31年3月末までの暫定値) | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 |
| | | | | | | | -年度 | 35年度 |
| 資源管理計画における管理 措置の遵守 | 資源管理計画の管理措置 の履行率 | 成果実績 | % | - | - | 84.4 | - | - |
| | | 目標値 | % | - | - | 95 | - | 95 |
| | | 達成度 | % | - | - | 88.8 | - | - |
| 根拠として用いた 統計・データ名 (出典) | 資源管理協議会における調査結果を集計 | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 |
| | | | | | | | -年度 | 34年度 |
| 主な栽培漁業対象種の生 産量を平成34年度に29千ト ンにする。(ホタテを除く) | (4)①主な栽培漁業対象 種の生産量 | 成果実績 | 千トン | - | - | 26 | - | - |
| | | 目標値 | 千トン | - | - | 29 | - | 29 |
| | | 達成度 | % | - | - | 89.7 | - | - |
| 根拠として用いた 統計・データ名 (出典) | 漁業・養殖業生産統計年報 当該目標の関連事業は令和元年度から実施 | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 |
| | | | | | | | -年度 | 34年度 |
| さけ・ます類(流し網を除く) の漁業生産量を平成34年 度に181千トンにする。 | (4)②さけ・ます類(流し網 を除く)の漁業生産量 | 成果実績 | 千トン | - | - | 95 | - | - |
| | | 目標値 | 千トン | - | - | 178 | - | 181 |
| | | 達成度 | % | - | - | 53.4 | - | - |
| 根拠として用いた 統計・データ名 (出典) | 漁業・養殖業生産統計年報 当該目標の関連事業は令和元年度から実施 | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | | | | | | | | |
| 混獲回避のための漁具改良を行った 定置網数 | 活動実績 | 網数 | - | - | 3 | - | - | |
| | 当初見込み | 網数 | - | - | 1 | 2 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | | | | | | | | |
| クロマグロの資源管理に係る点検・指導等 を行った漁業者数 | 活動実績 | 漁業者数 | - | - | 3,148 | - | - | |
| | 当初見込み | 漁業者数 | - | - | 3,000 | 5,000 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | | | | | | | | |
| TAC対象魚種に対して、適切な漁獲管理 を実施するため、本事業により迅速かつ 的確なデータ収集体制を維持する(シス テム利用率=本システム(資源管理シス テム)による報告件数/TAC報告総件数) | 活動実績 | % | - | - | 100 | - | - | |
| | 当初見込み | % | - | - | 100 | 100 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | | | | | | | | |
| 資源管理計画の数 | 活動実績 | 件 | - | - | 2,031 | - | - | |
| | 当初見込み | 件 | - | - | 2,000 | 2,100 | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | | | | | | | | |
| ・放流効果の高い手法及び対象種の 重点化の取組海域数 ・標識を施したさけ・ます種苗の放 流箇所数 | 活動実績 | 箇所 | - | - | - | - | - | |
| | 当初見込み | 箇所 | - | - | - | 6海域、34箇所 | - | |

| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 |
|--------------|--|--------------|----|------|-----------------|-------------------------|----------|
| | 執行額(千円)／漁具改良を行った定置網数 | 単位当たり コスト | 千円 | - | - | 8,884.3 | 27,029.5 |
| 計算式 | | 千円/網数 | - | - | 26,653/3 | 54,059/2 | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 |
| | 執行額(千円)／クロマグロの資源管理に係る点検・指導等を行った漁業者数 | 単位当たり コスト | 千円 | - | - | 9.3 | 7.5 |
| 計算式 | | 千円/漁業者数 | - | - | 29,274/3,148 | 37,500/5,000 | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 |
| | 執行額(千円)／活動実績(TAC報告総件数) | 単位当たり コスト | 千円 | - | - | 1 | 1.3 |
| 計算式 | | 千円/件数 | - | - | 100,733/104,617 | 136,650/104,700 | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 |
| | 執行額(千円)／資源管理計画の数 | 単位当たり コスト | 千円 | - | - | 162.4 | 161.4 |
| 計算式 | | 千円/資源管理計画数 | - | - | 329,849/2,031 | 338,992/2,100 | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 |
| | 執行額(千円)／取組海域数 執行額(千円)／さけ・ます種苗の放流箇所数 | 単位当たり コスト | 円 | - | - | - | 41、1.7 |
| 計算式 | | 百万円/千尾 | - | - | - | 102/2,460 125/73,605 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---|-------------------------|-----------------------------------|-----|------|---------------|------|------------|--------------|----------------|------------|--|--|
| 政策評価 | 政策 | 5. 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | | | | |
| | 施策 | ⑩水産資源の回復 | | | | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 35 | 目標年度 年度 | | |
| | | 資源評価対象魚種のうち中位又は高位水準の魚種が占める割合 | 実績値 | % | 53.8 | 56.3 | 53.8 | | | | | |
| | | | 目標値 | % | 53.8 | 53.8 | 53.8 | | | | | |
| | | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 35 | 目標年度 年度 | | |
| | | 国際機関による資源管理対象魚種 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 魚種 | 92 | 93 | 96 | | | | | |
| | | | 目標値 | 魚種 | 90 | 92 | 93 | | | | | |
| | 定量的指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 年度 | 35 | 目標年度 年度 | | | |
| | 漁業協定数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 協定 | 53 | 53 | 53 | | | | | | |
| 目標値 | | 協定 | 53 | 53 | 53 | | | | | | | |
| 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | | | | |
| 国際合意に基づく太平洋クロマグロの漁獲枠の遵守に資するよう、魚種を選択して漁獲することが難しい定置網の漁具改良を支援しつつ、水産資源の回復に寄与している。また、本事業によって国内の漁業者による自主的資源管理の促進や漁獲可能量(TAC)制度による自主的資源管理の促進や漁獲可能量(TAC)制度による資源管理を推進し、結果として資源管理の強化が図られる。 | | | | | | | | | | | | |
| 新経済・財政再生計画改革工程表 2018 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | | | |
| | | 成果実績 | - | - | - | - | - | - | | | | |
| | | 目標値 | - | - | - | - | - | - | | | | |
| | 達成度 | % | - | - | - | - | - | - | | | | |
| | (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | | 単位 | 計画開始時 - 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 - 年度 | | | |
| 成果実績 | | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| 目標値 | | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| 達成度 | % | - | - | - | - | - | - | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | | | | |

政策評価、新経済・財政再生計画との関係

政策評価

新経済・財政再生計画改革工程表
2018

事業所管部局による点検・改善

| 項目 | | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|--|---|---|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 国際約束に基づくクロマグロの数量管理を行う上で、必要な事業であり、クロマグロを含め水産物の安定供給、水産資源の管理に対する国民のニーズは高い。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 国が推進するTAC制度等による資源の数量管理や、漁業収入安定対策事業の取組等が濃淡なく実施されるためには、国による支援が必要である。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 水産基本計画において、漁獲の数量管理(TAC・IQ)の強化を図るとともに、資源管理指針・計画に基づく資源管理を推進することが、基本的な方針として規定されており、優先度の高い事業である。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | △ | 委託事業(漁獲情報・集計管理等)については、随意契約(企画競争)を行った結果、一者応札となっている。 |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | 公募を行った補助事業のうち一部の事業(太平洋クロマグロ漁獲抑制対策)については、一者応札となっているが事業実施者はコンソーシアムである。 |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | また、公募によらない補助事業(クロマグロ数量管理体制強化事業、資源管理指針・計画体制高度化事業)については、事業実施要綱に定めた補助事業者に対して補助を行うこととしており、支出先の選定は妥当である。 |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 水産資源の保存・管理を図り、水産物の安定供給の確保を達成するため、我が国周辺水域の資源管理を行うことは国の責務であることから、国が実施すべき補助事業であり、受益者との負担関係は妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 当初見込みと比べて妥当な水準である。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 中間段階での支出はない。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 実施要綱等に定められている必要な費目・使途のみに支出されている。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 執行率は94%である。 |
| 緑越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 緑越はない。 | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 旅費、会議開催経費については、安価な航空券の使用や安価な会議室等を借り上げるなど、コスト削減に努めている。 | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | △ | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっている。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 水産資源の保存・管理を図り、水産物の安定供給の確保を達成することを目的とした本事業については、国からの補助・委託による事業実施が最も効率的であると想定している。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 活動実績は見込みに見合ったものとなっている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 本事業において運用されているTACシステムについては、漁獲枠の適切な管理に必須なものであるなど、成果物等は十分に活用されている。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | ○ | 「知」の集積と活用の場によるイノベーション創出推進事業は、クロマグロの来遊状況の解析や、夜間の魚群行動の解明を含むクロマグロの選別・放流に係る基礎的な研究開発事業となっている。一方、本事業のうち太平洋クロマグロ漁獲抑制対策事業においては、魚捕部に逃避口を設置するなどの技術開発の取組を支援することにより、現状の定置網で実行可能なクロマグロの漁獲抑制に係る実証事業である。 |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| | 農林水産省 | 0172 | 「知」の集積と活用の場によるイノベーション創出推進事業 |
| | 農林水産省 | 0277 | 漁業収入安定対策事業 |
| | | | |
| | | | 漁業収入安定対策事業は、漁業共済の仕組みを活用し、資源管理等の取り組みを行う漁業者を対象として、漁業者が拠出した積立金と国費による資金を全国漁業共済組合連合会に造成し、漁業者の収入額が減少した場合に減収補填を行う(基準収入の原則8割から9割までを積立ぶらずで補填)とともに、漁業者が支払う漁業共済掛金への補助を行う事業である。 |

| | | |
|---------|--------|---|
| 点検・改善結果 | 点検結果 | <ul style="list-style-type: none"> ・国際約束に基づくクロマグロの数量管理を行う上で必要な事業であり、クロマグロを含め水産物の安定供給、水産資源の管理に対する国民のニーズは高く、国が推進するTAC制度等による資源の数量管理や、漁業収入安定対策事業の取り組みが濃淡なく実施されるためには、国による支援が必要である。 ・水産基本計画において、漁獲の数量管理(TAC・IQ)の強化を図るとともに、資源管理指針・計画に基づく資源管理を推進することが基本的な方針として規定されており、優先度の高い事業である。 ・公募を行った一部の事業については、一者応札となっている。なお、事業実施者はコンソーシアムである。 |
| | 改善の方向性 | <ul style="list-style-type: none"> ・当初見込みの活動実績を達成するとともに、最終的な成果目標の達成に向けて、適切な事業執行に努める。 ・今年度は一者応札であったことから、引き続き多くの者に事業の公募を知らせる工夫をするとともに、事業報告書の公表等を含め、競争性・透明性の向上に努める。 |

外部有識者の所見

資源管理に必要性、重要性に異論はないであろう。そうであるなら30年度実績の分析を十分実施することが不可欠であり、また30年度から31年度に大きく予算が増加している理由を把握することも欠かせない。その上でないと本事業の適切な評価はできないと考える。また、本事業が漁業生産量の増加に寄与しているのはそうだと思うが、直接的成果として指標を置くのは疑問である。

行政事業レビュー推進チームの所見

| | |
|-----------|--|
| 事業内容の一部改善 | <ul style="list-style-type: none"> ・成果実績について、目標値を下回ったものがある。 ・資金の流れA、B及びDについて、一者応札(一者応募)となっている。 ・外部有識者から、成果目標について事業の成果を直接的に測れるものになっていないとの指摘があった。また、30年度実績の分析・予算増加の要因把握・翌年も点検を実施する必要性等について指摘があった。 <p>以上のことから、「支援方策の見直し」、「支出先の選定における競争性・透明性の改善」、「適切な成果目標の設定」及び外部有識者所見を踏まえた検討を行うべきであり、本事業は「事業内容の一部改善」とする。</p> |
|-----------|--|

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

| | |
|-------|--|
| 執行等改善 | <p>「漁獲情報・集計管理等」については、過年度の報告書の閲覧等の実施、及び期間の延長による長期間の公示などの対策を行ったものの、国内の資源管理措置及び中国・韓国・ロシア漁船の管理方法など高度な専門的知識が必要不可欠なこと等により、結果として応募は一者にとどまった。引き続き、応募者の増加が図られるよう対策を講じる。「太平洋クロマグロ漁獲抑制対策」については、一者応札となっているが事業実施者はコンソーシアムである。</p> <p>外部有識者から指摘があった「さけ・ます類の漁業生産量」については、4～5年前の時代の予想以上の海洋環境の変化等により放流後の稚魚の生残率が急激に低下したため、目標の達成率が下回ったと考えられる。その後、生産量の回復に向けて、放流時期・サイズの検証といった対策に取り組んできたほか、昨年度からふ化場の適正な種苗生産能力に応じた放流体制への転換を図る取組の支援、回帰効果の高い技術を広く普及する取組を支援しているところであり、今後、これらの結果を踏まえ、成果指標・活動指標が適切なものとなるよう検討していきたい。</p> <p>また、「資源管理計画の管理措置の履行率」、「栽培対象種の生産量(ホタテを除く)」については、目標値を下回ったものの、それぞれ88.8%、89.7%と目標に近い達成度であると考えており、目標最終年度には目標値を達成できるよう引き続き指導をしてまいります。</p> <p>また、本事業の予算額が平成30年度から平成31年度にかけて大幅に増加した理由としては、平成31年度にさけ・ます等栽培対象資源対策(平成30年度:5.7億)が統合されたことが主なものである。</p> |
|-------|--|

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------------|--------|---|--------|---|--------|---|
| 平成22年度 | - | 平成23年度 | - | 平成24年度 | - | 平成25年度 | - |
| 平成26年度 | - | 平成27年度 | - | 平成28年度 | - | 平成29年度 | - |
| 平成30年度 | 農林水産省 (新30 - 0029) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

国(農林水産省)
554百万円

A.【太平洋クロマグロ漁獲抑制対策支援事業】

【補助金等交付】

クロマグロ漁獲抑制対策グループ
(共同実施 10機関) 27百万円

| 【参画機関】 | | |
|---------------------|---------|--|
| 1 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1. 2百万円 | |
| 2 国立大学法人岩手大学 | 0. 4百万円 | |
| 3 国立大学法人東京海洋大学 | 0. 4百万円 | |
| 4 岩手県水産技術センター | 0. 2百万円 | |
| 5 京都府農林水産技術センター | 3. 9百万円 | |
| 6 石川県 | 3. 3百万円 | |
| 7 有限会社泉澤水産 | 0百万円 | |
| 8 伊根浦漁業株式会社 | 2. 0百万円 | |
| 9 日東製網株式会社 | 8. 4百万円 | |
| 10 ホクモウ株式会社 | 6. 9百万円 | |

(1) 漁具改良
分選網の開発、選別すくい網の開発等
(2) データ収集
改良漁具によるクロマグロ及び他魚種の
漁獲データ等の収集
(3) データ検証
収集したデータ等の分析・評価、残された
課題の取りまとめ等

B.【クロマグロ数量管理体制強化事業】

【補助金等交付】

クロマグロ資源管理体制強化推進協議会
29百万円(2者)

漁獲可能量(TAC)制度によるクロマグロの資源管理について、公平性のある厳格な数量管理を実現するための取組に対して支援を行う。

G. 委託随意契約【少額・公募】

漁協、水産試験場(31者)
13百万円

クロマグロの入網環境調査、漁獲抑制取組確認・管理計画周知指導等を実施。

C.【IQ方式実証調査】

【補助金等交付】

IQ方式実証調査事業共同研究機関
19百万円(1者)

| 【参画機関】 | | |
|---------------------|---------|--|
| 1 (一社) 漁業情報サービスセンター | 8. 1百万円 | |
| 2 (国研) 水産研究・教育機構 | 3. 7百万円 | |
| 3 宗像漁業共同組合 | 2. 2百万円 | |
| 4 長崎県資源管理協議会 | 1. 8百万円 | |
| 5 京都府漁業協同組合 | 1. 5百万円 | |
| 6 宮城県 | 1百万円 | |
| 7 福岡県資源管理協議会 | 0. 2百万円 | |
| 8 宮城県資源管理・漁場改善推進協議会 | 0. 1百万円 | |
| 9 京都府資源管理協議会 | 0. 1百万円 | |

IQ方式又はIQ方式と他の管理方式を組み合わせた管理措置に関し、大臣管理漁業等における導入事例等を対象に、管理措置の効果の検討や、導入に向けた課題の抽出と改善案を検証する。

D.【漁獲情報集計・管理】

委託【随意契約(企画競争)】

一般社団法人漁業情報サービスセンター
101百万円

漁獲可能量(TAC)制度の的確な運用を図るため、漁獲情報を収集・分析を行うためのシステムを構築し、運営・管理を実施する。また、協定に基づき、我が国EEZで操業する外国漁船に係る漁獲情報等を管理する。

【漁業者からの漁獲情報】
海洋生物資源の保存及び管理に関する法律に基づき、
○漁獲量報告(TAC対象魚種)
○漁獲努力量報告(TAE報告)

【外国漁船の漁獲情報】
日韓・日中・日ロ漁業協定に基づき、
○漁獲情報等の報告(日別、四半期別)
○入出域報告・漁船位置通報
(6時間ごと)

E.【沿岸漁業における自主的資源管理体制高度化事業】

【補助金等交付】

都道府県資源管理協議会(40協議会)
330百万円

・資源管理計画の作成指導
・資源管理計画等の評価・検証
・資源管理計画の高度化に資する科学的データの収集等
・漁業者が自主的に行う資源管理の取組(資源管理計画)に対する履行確認
・資源管理計画の見直しの検討
・広域・重要資源に係る計画作成の指導等
・改良漁具導入の実証調査・検討

H.【委託随意契約【企画競争・公募】】

都道府県・漁協・漁業者団体・
地方独立行政法人等(320者)
258百万円

資源状況等調査、漁獲データ収集、調査関連作業等

I.【委託随意契約【少額・公募】】

民間団体・漁協等
(97者)
18百万円

資源状況等調査、漁獲データ収集、調査関連作業等

F.【沖合・遠洋漁業における自主的資源管理体制高度化事業】

【補助金等交付】

民間団体等(8者)
48百万円

資源管理計画等の高度化に関する調査に要する経費
【事業内容】
より高度な資源管理計画等を検討するために必要な調査や、資源管理計画等の評価・検証を行う調査等に要する経費を支援する。
資源管理計画等の高度化・評価・検証に要する経費
【事業内容】
資源管理計画等の評価等を行う現地検討会の開催や、評価等の改善に向けた検討を行う漁業者協議会の開催等に要する経費を支援する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

| A.クロマグロ漁獲抑制対策グループ | | | B.北海道クロマグロ数量管理体制強化推進協議会 | | |
|-----------------------|--------------------------------|-------------|-------------------------|-------------------------------|-------------|
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 漁具改良費 | 漁具の改良に要した経費 | 12 | 委託費(1) | 漁獲数量・来遊状況調査、漁獲抑制取組確認・管理計画周知指導 | 12 |
| データ収集費 | データの収集に要した経費 | 13 | 使用料 | 会場、事務所、数量管理機器使用料 | 5 |
| データ収集費 | データの収集に要した経費 | 2 | 旅費 | 委員旅費、事務局旅費 | 3 |
| | | | 賃金 | 臨時職員賃金、社会保険料 | 3 |
| | | | 委託費(2) | クロマグロ入網環境調査 | 1 |
| | | | 通信運搬費、 消耗品費 | 電話、PC、コピー機、FAX、スキャナ等 | 1 |
| 計 | | 27 | 計 | | 25 |
| C.IQ方式実証調査事業共同研究機関 | | | D.一般社団法人漁業情報サービスセンター | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 賃金 | 資料の収集・整理等に係る事務を行う職員の雇用等に要した経費 | 9 | 整備改修保守費 | 機器整備・改修費用 | 72 |
| 委託費 | 用船調査の実施等、事業の一部分を第三者に委託した経費 | 5 | 管理運営費 | 賃借料、その他人件費 | 16 |
| 役務費 | 資料分析に係る役務に要した経費 | 2 | 運営支援費 | 都道府県運営支援費 | 7 |
| 旅費 | 各種調査や会議の出席に要した経費 | 1 | 事務費 | 運営事務費 | 3 |
| その他 | 上記以外で事業実施に要した経費 | 2 | 情報解析費 | 解析要員費 | 2 |
| | | | 旅費 | 管理調査費 | 1 |
| 計 | | 19 | 計 | | 101 |
| E.北海道資源管理協議会 | | | F.資源管理計画等高度化調査事業共同研究機関 | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 委託費(1) | 漁業生物資源・生態調査及び資源管理手法開発試験業務 | 15 | 消耗品費 | 調査資材、消耗器材、各種事務用品等の調達に要した経費 | 9 |
| 委託費(2) | 資源管理体制の推進等に関する業務 | 14 | 謝金 | 調査実施にあたり協力を得た人に対する謝礼に要した経費 | 6 |
| 委託費(3) | 資源管理計画の作成指導や履行確認資料とりまとめ等に係る業務 | 13 | 旅費 | 各種調査や会議の出席に要した経費 | 3 |
| 委託費(4) | 小型するめいか釣り漁業における漁獲可能量の管理、推進指導業務 | 8 | 賃金 | 資料の収集・整理等に係る事務を行う職員の雇用等に要した経費 | 1 |
| 委託費(5) | さけ資源の増殖と効率的な管理に関する調査業務委託 | 3 | その他 | 上記以外で事業実施に要した経費 | 0.8 |
| 消耗品費 | 資料の収集・整理等に係る消耗品の購入 | 1 | | | |
| 旅費 | 資源管理計画の作成指導及び履行確認に係る業務の指導等 | 1 | | | |
| 賃金、使用料 | 契約社員の賃金、通勤手当、事務担当者会議の会場等借り上げ等 | 1 | | | |
| 計 | | 56 | 計 | | 19.8 |
| G.地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 | | | H.地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 | | |
| 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金額 (百万円) |
| 消耗品費 | リチウム電池等 | 0.4 | 旅費 | 旅費 | 6 |
| 使用料 | 用船料 | 0.3 | 消耗品費 | 消耗品費、光熱費等 | 4 |
| 旅費 | 調査等に係る旅費 | 0.2 | 賃金 | 契約職員の賃金、通勤手当 | 3 |
| | | | 使用料 | 用船料、自動車賃借料等 | 2 |
| | | | 委託費 | プランクトン計数・選別作業業務 | 0.4 |
| | | | 謝金 | 外部委員謝金 | 0 |
| | | | 通信運搬費 | 電話料、郵便料 | 0 |
| 計 | | 0.9 | 計 | | 15.4 |

費目・使途
(「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

費目・使途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------------|------|---|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | クロマグロ漁獲抑制対策グループ | - | クロマグロ放流機構の開発、選別状況・放流状況に係る映像等データ・漁獲状況データの収集等 | 27 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

B

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------------------|------|-------------------------------------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | 北海道クロマグロ資源管理体制強化推進協議会 | - | クロマグロの管理に必要なマニュアルの検討・作成と管理体制の点検・指導等 | 25 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 2 | 北海道クロマグロ資源管理体制強化推進協議会 | - | クロマグロの管理に必要なマニュアルの検討・作成と管理体制の点検・指導等 | 4 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |

C

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------------|------|-----------------------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | IQ方式実証調査事業共同研究機関 | - | IQ方式の試験的な導入を行う実証調査を実施 | 19 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |

D

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------------------|---------------|------------------------|--------------|----------------|----------------|------|---|
| 1 | 一般社団法人漁業情報サービスセンター | 4010005005675 | 広域資源管理システムの運用、保守、管理、改修 | 100.7 | 随意契約 (企画競争) | 1 | 100% | |

E

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|------------|------|------------------------------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | 北海道資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 56 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 2 | 長崎県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 18 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 3 | 青森県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 17 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 4 | 山口県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 13 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 5 | 兵庫県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 11 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 6 | 島根県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 10 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 7 | 福岡県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 10 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 8 | 大分県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 9 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 9 | 岩手県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 9 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |
| 10 | 福島県資源管理協議会 | - | 資源管理指針の見直し検討、資源管理計画作成指導、履行確認 | 9 | 随意契約 (公募) | 1 | - | |

G

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|--------------|---------------|-------------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | 北海道立総合研究機構 | 6430005006258 | クロマグロ入網環境調査 | 0.9 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 2 | 余市郡漁業協同組合 | 9430005008094 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 3 | 東しやこたん漁業協同組合 | 7430005008121 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 4 | 古宇郡漁業協同組合 | 4430005008677 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 5 | 島牧漁業協同組合 | 3440005002201 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 6 | ひやま漁業協同組合 | 9440005001908 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 7 | 松前さくら漁業協同組合 | 1440005000710 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 8 | 福島吉岡漁業協同組合 | 8440005000919 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 9 | 戸井漁業協同組合 | 1440005000966 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 10 | えさん漁業協同組合 | 7440005001232 | 漁獲数量・現地調査業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |

H

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|--|-------------|---------------|---|--------------|--------------|----------------|------|---|
| 1 | 北海道立総合研究機構 | 6430005006258 | 漁業生物資源・生態調査及び資源管理手法開発試験調査業務 | 15.4 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 2 | 北海道 | 7000020010006 | 資源管理体制の推進等に関する業務 | 13.5 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 3 | 山口県 | 2000020350001 | 資源状況等の調査及び漁獲量の把握 | 9 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 4 | 青森県産業技術センター | 5420005005492 | 資源管理基礎調査 | 8.9 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 5 | 福島県 | 7000020070009 | 資源管理型漁業の推進に必要な科学的データ収集 | 8.8 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 6 | 岩手県 | 4000020030007 | 資源管理計画の作成指導、資源評価調査等の実施、漁業情報ネットワーク管理・運営等 | 7.4 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 7 | 福岡県 | 6000020400009 | 資源管理指針の検討、履行確認に関する検査業務等 | 7 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 8 | 宮城県 | 8000020040002 | 宮城県資源管理指針の見直し及び計画の評価・検証、改善の検討及び科学的データの収集等 | 5.1 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 9 | 沖縄県 | 1000020470007 | 資源状況等の調査及び漁獲量の把握等 | 4.7 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 10 | 三重県 | 5000020240001 | 資源管理協議会の推進、資源管理計画の作成指導、科学的データ等の収集 | 4.6 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 | | | | | | | チェック | <input checked="" type="checkbox"/> |

| I.株式会社アイシーエス | | | J. | | |
|--------------|-------------------|--------------|----|-----|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 漁獲量集計機器管理費用 | 漁獲管理情報処理システムの保守管理 | 3.2 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 3.2 | 計 | | 0 |
| K. | | | L. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| M. | | | N. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |
| O. | | | P. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0 | 計 | | 0 |

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

別紙3

1

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|-----------------|---------------|-----------------------|--------------|--------------|----------------|-----|---|
| 1 | 株式会社アイシーエス | 5400001000020 | 漁獲管理情報処理システムの保守管理 | 3.2 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 2 | 宮城県資源管理型漁業実践協議会 | - | 保護区への標識の設置に係る業務 | 0.8 | 随意契約 (公募) | 1 | | |
| 3 | 脇野沢村漁業協同組合 | 7420005006489 | マダラの資源量調査等に係る業務 | 0.6 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 4 | 琉球大学 | 6360005001332 | マテ類の集団解析に関する委託研究に係る業務 | 0.6 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 5 | 株式会社水土舎 | 9020001064273 | 漁獲日誌データ入力及び整理業務 | 0.5 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 6 | 九十九島漁業協同組合 | 3310005003939 | 漁獲・水揚げ等情報収集業務 | 0.5 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 7 | 長崎市みなと漁業協同組合 | 6310005002137 | 漁獲・水揚げ等情報収集業務 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 8 | 株式会社エコニクス | 2430001002289 | プランクトン計数・選別作業 | 0.4 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 9 | エス・ワールド株式会社 | 2110001027491 | 潜水業務に係る委託 | 0.3 | 随意契約 (少額) | 1 | | |
| 10 | マリノリサーチ株式会社 | 2190001012577 | アサリ分析業務 | 0.3 | 随意契約 (少額) | 1 | | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0264

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|--|--------|--|---|--------|------|-----------|--------------|
| 事業名 | 漁場環境改善推進事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | | |
| 事業開始年度 | 平成30年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成34年度 | 担当課室 | 増殖推進部漁場資源課 | | | | |
| 作成責任者 | 漁場資源課長 江口 静也 | | | | | | | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | 有明海及び八代海等を再生するための特別措置に関する法律 第18条及び第21条第2項(平成14年11月29日法律第120号) 瀬戸内海環境保全特別措置法 第18条及び附則(昭和48年10月2日法律第110号) | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月28日 閣議決定) 農林水産省生物多様性戦略(平成24年2月 農林水産省) 生物多様性国家戦略2012-2020(平成24年9月 閣議決定) 東京湾再生のための行動計画 第二期(平成25年5月) 海岸漂着物を総合的かつ効果的に推進するための基本的な方針(平成21年7月) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 本事業の最終目的は、漁場環境の保全及び水産資源の維持・回復を通じて国内の養殖業等の生産量の確保及び水産物の安定供給を行うことであり、その達成には、栄養塩の減少・偏在及び海洋プラスチックが生態系に及ぼす影響を解明すること、赤潮や貧酸素水塊について更に効果的な被害軽減対策を講じること及び漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみを削減することが課題であるため、本事業を実施する。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | ①栄養塩と水産資源の関係の解明し、適正な栄養塩管理モデルの構築のための基礎的データの収集(委託) ②赤潮被害対策技術の開発及び赤潮のモニタリング技術や迅速な情報提供技術の開発(委託) ③リモートセンシングを活用した有害赤潮の種判別手法の開発(委託) ④貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発(委託) ⑤海洋プラスチックを摂取した魚介類の生態的情報等の調査(委託) ⑥色落ちの被害が発生した海藻類への適切な栄養塩供給手法の開発を支援(補助:定額) ⑦赤潮及び貧酸素水塊の広域自動モニタリング技術の開発を支援(補助:定額) ⑧漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の実証・検討と普及を支援(補助:定額) | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負、補助 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | | |
| | 予算の状況 | 当初予算 | - | - | 185 | 178 | 180 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 0 | 0 | 185 | 178 | 180 | | |
| | 執行額 | 0 | 0 | 180 | - | - | | | |
| | 執行率(%) | - | - | 97% | - | - | | | |
| 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | - | - | 97% | - | - | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 水産資源回復対策調査等委託費 | 129 | 145 | 海洋プラスチックごみに関する事業(⑤プラスチックを摂取した魚介類の生態的情報等の調査、⑧漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の実証・検討と普及を支援)が別事業に統合され減となった。また、海洋生態系保全動向調査事業が本事業へ統合され増となった。以上の結果、全体で若干増となった。 | | | | | |
| | 水産資源回復対策事業費補助金 | 49 | 36 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | 178 | 180 | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 34 年度 |
| | 赤潮による漁業被害の抑制 (1件あたりの被害額を直近10箇年の1件あたりの平均被害額以下に抑制) | 当該年に発生した被害のうち、被害額が直近10箇年の平均被害額を下回った件数の割合 (計算式:(当該年に発生した被害のうち被害額が直近10箇年の平均被害額を下回った件数)÷(当該年に発生した被害件数)×100) | 成果実績 | % | - | - | 94 | - | - |
| | | 目標値 | % | - | - | 100 | - | 100 | |
| | | 達成度 | % | - | - | 94 | - | - | |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 「平成30年 瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所、令和元年5月) 「平成30年 九州海域の赤潮」(水産庁九州漁業調整事務所、平成31年3月) | | | | | | | | |

| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | | 目標最終年度 | |
|----------------------------|--|--|-------------|--------|------|------------|------|-------|----------|-------|
| | | | | | | | - 年度 | 32 年度 | - 年度 | 32 年度 |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 平成32年度までにリモートセンシングを活用し赤潮を5種判別する | 種判別した赤潮の数 | 成果実績 | 有害赤潮の数 | - | - | 0 | - | - | - |
| | | | 目標値 | 有害赤潮の数 | - | - | - | - | 5 | - |
| | | | 達成度 | % | - | - | 0 | - | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | | 目標最終年度 | |
| | | | | | | | - 年度 | 32 年度 | 34 年度 | 34 年度 |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 平成34年度までに栄養塩、赤潮及び貧酸素水塊に係る項目を測定できる自動観測装置を設置し、適正な栄養塩管理モデルの構築、赤潮被害対策技術の開発及び貧酸素水塊の被害軽減手法の開発等に必要データの収集・解析を20地点で実施する | 自動観測装置を設置し、データを収集・解析できた地点数 | 成果実績 | 地点数 | - | - | 4 | - | - | - |
| | | | 目標値 | 地点数 | - | - | 4 | 12 | 20 | - |
| | | | 達成度 | % | - | - | 100 | - | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | | 目標最終年度 | |
| | | | | | | | - 年度 | 32 年度 | 32 年度 | 32 年度 |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 検討会実施により得られたプラスチックごみ削減方策の実施率(平成32年度までに検討会で出された削減方策を確実に実行し、100%を目指す) | 検討会で出された削減方策のうち、検討会後に当該地域で実施された件数の割合(計算式:(検討会後に当該地域で実施された削減方策件数)/(検討会で出された削減方策件数)×100) | 成果実績 | % | - | - | 0 | - | - | - |
| | | | 目標値 | % | - | - | - | - | 100 | - |
| | | | 達成度 | % | - | - | 0 | - | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | | 32年度 | | |
| | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 栄養塩、赤潮及び貧酸素水塊に関する事業(①栄養塩と水産資源の関係の調査及び適正な栄養塩管理モデルの構築、②赤潮被害対策技術の開発及び赤潮のモニタリング技術や迅速な情報提供技術の開発、③リモートセンシングを活用した有害赤潮発生等の早期警戒システムの開発、④貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発、⑥色落ちの被害が発生した海藻類への適切な栄養塩供給手法の開発、⑦赤潮及び貧酸素水塊の広域自動モニタリング技術の開発)を実施した海域数 | 活動実績 | 調査海域数 | - | - | 37 | - | - | - | |
| | | 当初見込み | 調査海域数 | - | - | 37 | - | - | - | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | | 32年度 | | |
| | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | |
| 活動指標及び 活動実績 (アウトプット) | 海洋プラスチックごみに関する事業(⑤プラスチックを摂食した魚介類の生態的情報等の調査、⑧漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の実証・検討と普及を支援)を実施した地域数 | 活動実績 | 実施地域数 | - | - | 9 | - | - | - | |
| | | 当初見込み | 実施地域数 | - | - | 9 | 6 | - | - | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | | 32年度 | | |
| | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | |
| 単位当たり コスト | 執行額 / 栄養塩、赤潮及び貧酸素水塊に関する事業を実施した調査海域数 | 単位当たりコスト | 千円 | - | - | 4,381 | - | - | - | |
| | | 計算式 | 執行額 / 調査海域数 | - | - | 162,085/37 | - | - | - | |
| 単位当たり コスト | 算出根拠 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | | 32年度 | | |
| | | | | | | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | 活動見込 | |
| 単位当たり コスト | 執行額 / 海洋プラスチックごみに関する事業を実施した地域数 | 単位当たりコスト | 千円 | - | - | 2,015 | - | - | 3,074 | |
| | | 計算式 | 執行額 / 調査海域数 | - | - | 18,132/9 | - | - | 18,444/6 | |

| | | | | | | | | | | | | |
|---------------------|---|----------------------|------------|---|------|------|-------------|-------------|-------|--------------|---------------|--------------|
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 5 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | | | | | |
| | 施策 ⑳ 水産資源の回復 | | | | | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | | | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 34 年度 | |
| | | 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量 | | | 実績値 | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - | |
| | | | | | 目標値 | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | 1,739 | |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | | | |
| | <p>栄養塩と水産資源との関係を解明し、適切な栄養塩管理モデルを構築すること、赤潮・貧酸素水塊のモニタリング技術や防除技術を研究開発し、赤潮・貧酸素水塊による漁業被害を低減すること及び海洋プラスチックごみの削減方策の実証・検討と普及を行い、海洋環境、生態系及び漁業活動への影響を軽減することにより、漁場環境の保全及び水産資源の維持・回復を行い、養殖業等の生産量の確保に寄与する。</p> | | | | | | | | | | | |
| | 新経済・財政再生計画改革工程表 2018 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | | |
| | | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | | | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 |
| | | | | | | 成果実績 | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | | | | |
| 達成度 | | | | | | % | | | | | | |
| (第二階層) KPI | | KPI (第二階層) | | | | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | | | | | 成果実績 | | | | | | | |
| | 目標値 | | | | | | | | | | | |
| | 達成度 | | | | % | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 | |
|------------------------------|--|-------------------------------|--|-----|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 日本各地で漁場生産力の低下が懸念されており、栄養塩等の減少や偏在との関連が疑われている。本事業により漁場生産力と栄養塩の関係を解明することは、水産資源の維持・回復を通じ安定的な水産物の供給に寄与することから国民のニーズを反映したものである。赤潮や貧酸素水塊の発生は、養殖業等に大きな被害を与える場合があり、被害を軽減・防止する技術の開発が求められている。また、海洋プラスチックごみが海洋環境や生態系に及ぼす影響は、世界的な問題となっていることから、海洋プラスチックごみ削減対策は社会のニーズを反映したものである。 | |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 栄養塩、赤潮、貧酸素水塊及び海洋プラスチックごみ等の問題は全国的な課題であり、また、本事業を行う海域は複数県にまたがる海域も多く存在するため、国が主体的に事業を実施する必要がある。 | |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 栄養塩は漁場生産力の基礎となる要素であり、適切な管理は養殖業等の生産量の確保に必要である。また、赤潮や貧酸素水塊の発生は、養殖業等に大きな被害を与える場合があり、被害を防止・軽減する技術の開発は養殖業等の生産量の確保に寄与する。海洋プラスチックごみ削減対策は、海洋環境、生態系及び漁業活動への影響を軽減することから、水産物の安定供給に資する。 | |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | △ | 資料招請や過去の関連する事業報告書の閲覧を行ったが、事業内容の専門性が高く、一者応札となった。 | |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 受益の規模や技術レベルを考慮した補助率を設定しており、妥当である。 | |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | - | 事業の効率的な実施に努めている。 | |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | 事業実施自体は、分析業務に限定して必要な額のみを再委託しており、合理的である。 | |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 費目・使途は研究開発に必要なものとなっている。 | |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 不用率は2.8%であった。 | |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰越はない。 | | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 調査内容の検証・絞り込みを行い、コストの削減を図っている。 | | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 「平成32年度までにリモートセンシングを活用し有害赤潮を5種判別する」については、方策を検討中であり、令和2年度に目標達成見込み。 「検討会実施により得られたプラスチックごみ削減方策の実施率」については、令和2年度に令和元年度までの検討会で出された削減方策を実施予定。 | |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 調査や分析を主体とする専門的な内容となっているため、有効性・効率性の観点から適正な手法である。 | |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 見込み(予算)に沿った活動実績となっている。 | |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 事業成果はホームページ上で公表することにより、関連機関における調査研究等に広く活用できるようにしている。 | |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | | 事業名 |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | |
|---------|--------|--|
| 点検・改善結果 | 点検結果 | <p>本事業は、安定的な水産物の供給に寄与し、また世界的な問題に対応していることから、国民や社会のニーズを的確に把握したものである。また本事業の課題は全国的なものであることに加え、本事業を行う海域は複数県にまたがる海域も多く存在するため、国が主体的に事業を実施する必要がある。</p> <p>また、本事業で行う適切な栄養塩管理は養殖業等の生産量確保に必要であり、赤潮や貧酸素水塊の被害を防止・軽減する技術の開発は養殖業等の生産量の確保に寄与する。海洋プラスチックごみ削減対策は、海洋環境、生態系及び漁業活動への影響を軽減することから、水産物の安定供給に資する。</p> <p>資料招請や過去の関連する成果報告書等の閲覧を行ったが、事業内容の専門性が高く、一者応札となった。</p> |
| | 改善の方向性 | <p>一者応札の解消に向け、過去の関連する成果報告書等の閲覧を進めるとともに、新規参入者が十分な検討をできるよう公示期間や提案書の提出期限を従来より長く設定する等の検討を行う。</p> |

外部有識者の所見

漁場環境に関する調査研究は公的に行うことが適当である事業であり、特に⑧のプラスチックごみに関する研究は時宜にかなったものである。環境省などでも同様な研究が行われている場合もあり、省庁間での情報共有の上、効率的に事業を執行すること。アウトカム指標を改めて確認すること。2つ目の種判別した赤潮の数は、③の事業のアウトプット目標に近いと思われる。

行政事業レビュー推進チームの所見

| | |
|-------|--|
| 一部改善の | <ul style="list-style-type: none"> 資金の流れDからHまでについて、一者応札(一者応募)となっている。 外部有識者から、成果目標についてアウトプットと混同しているとの指摘があった。また、省庁間での情報共有及び効率的な事業執行・政策目標の文言等について指摘があった。 <p>以上のことから、「支出先の選定における競争性・透明性の改善」、「適切な成果目標の設定」及び外部有識者所見を踏まえた検討を行うべきであり、本事業は「事業内容の一部改善」とする。</p> |
|-------|--|

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

| | |
|------|---|
| 執行等改 | <p>1者応札を解消するため、改善方策として、公示期間をなるべく長く設定し、関連する過去の成果報告書の提供・閲覧により情報提供を行う。プラスチックごみ関連事業については、引き続き省庁間にて情報共有の上、効率的に業務を執行し、アウトカムを達成するように努める。成果指標がアウトプットと混同しているとの誤解を与えないよう、成果指標の設定について検討する。</p> |
|------|---|

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------|----------------------|------|--------|---------------|--------|---------------|
| 平成22年度 | 0451 | 平成23年度 | 0324 | 平成24年度 | 0313、新25-0064 | 平成25年度 | 0224 |
| 平成26年度 | 0227 | 平成27年度 | 0252 | 平成28年度 | 0261 | 平成29年度 | 0260、新30-0024 |
| 平成30年度 | 農林水産省 (0262) | 農林水産省 (新30 - 0030) | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

農林水産省

180百万円

【補助金等交付】【補助金等交付】【補助金等交付】委託 【総合評価入札】委託 【総合評価入札】委託 【総合評価入札】委託 【総合評価入札】

| | | | | | | | |
|--|---|--|--|--|---|--|---|
| A. 漁場生産力回復共同研究機関 13百万円 色落ちの被害が発生した海藻類への適切な栄養塩供給手法の開発 | B. 赤潮・貧酸素観測技術開発共同研究機関 21百万円 赤潮及び貧酸素水塊の広域自動モニタリング技術の開発 | C. 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構 13百万円 漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の実証・検討と普及 | D. 栄養塩影響調査共同研究機関 30百万円 栄養塩と水産資源の関係を解明し、適正な栄養塩管理モデルの構築のための基礎的データの収集 | E. 赤潮共同研究機関 68百万円 赤潮被害対策技術の開発、赤潮のモニタリング技術や迅速な情報提供技術の開発 | F. 貧酸素対策共同研究機関 16百万円 貧酸素水塊の予察技術、被害軽減手法の開発 | G. 有害赤潮の種判別手法の開発共同実施機関 14百万円 リモートセンシングを活用した有害赤潮の種判別手法の開発 | H. 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 5百万円 プラスチックを摂食した魚介類の生態的情報等の調査 |
|--|---|--|--|--|---|--|---|

再委託 【一般競争入札】再委託 【一般競争入札】再委託 【随意契約(その他)】再委託 【一般競争入札】再委託 【随意契約(その他)】

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| I. 株式会社 西村商会 3百万円 有明海における冬季の赤潮の連続観測及び水質の定期観測業務 | J. 株式会社 ジャパンジャスティス 3百万円 八代海における自動観測ブイの維持管理・水質の定期観測業務 | K. 有限会社 アクアラボ遊知 0.4百万円 水質の連続観測データのデータベース化及びデータベース管理業務 | L. 株式会社 西村商会 5百万円 有明海における夏季の赤潮・貧酸素の連続観測及び水質の定期観測業務 | M. 有限会社 アクアラボ遊知 0.2百万円 「沿岸海域水質鉛直データベース」の改良 |
|--|--|---|--|--|

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)

| A.香川県水産試験所 | | | B.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | |
|------------|---------------------|---------|---------------------|---|---------|
| 費目 | 用途 | 金額(百万円) | 費目 | 用途 | 金額(百万円) |
| 委託費 | 栄養塩添加試験(内海共同漁業組合) | 1.4 | 委託費 | 大型自動観測ブイの係留索撤収業務(株式会社ジャパンジャスティス)、赤潮カメラの設置業務(株式会社西村商会) | 5.4 |
| 消耗品費 | 調査資材等 | 1 | その他 | 印刷製本費等 | 1.5 |
| その他 | 印刷製本費等 | 0.5 | 旅費 | 事業実施に係る調査旅費及び会議出席旅費 | 0.5 |
| 用船費 | 用船料 | 0.1 | 設備備品費 | 自動水質監視テレメータシステム等 | 0.4 |
| 旅費 | 事業実施に係る調査旅費及び会議出席旅費 | 0.1 | 消耗品費 | 調査資材等 | 0.3 |
| | | | 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 0.3 |
| | | | 役務費 | 観測装置の実証試験等 | 0.1 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 3.1 | 計 | | 8.5 |

費目・用途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と用途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| C.公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構 | | | D.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | |
|-------------------------|---|-------------|----------------------|------------------------------|-------------|
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 調査研究職員4名(実態調査、実証試験、普及・啓発)、庶務・管理部門2名 | 7.1 | 雑役務費 | 用船料等 | 3.9 |
| 開発・試験費 | 生分解性プラスチック製養殖資材開発費、実証試験費 | 2.2 | 旅費 | 事業実施に係る調査旅費及び会議出席旅費 | 2.4 |
| 旅費 | 打ち合わせ旅費、実態調査旅費、現場施工・管理旅費 | 1.6 | 消耗品費 | 研究資材等 | 2.3 |
| その他 | 印刷製本費、雑費、通信運搬費等 | 2.1 | その他 | 備品費、諸経費、消費税等 | 5 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 13 | 計 | | 13.6 |
| E.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | | F.国立研究開発法人水産研究・教育機構 | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 6.5 | 委託費 | 観測機器設置・維持管理・定期観測業務(株式会社西村商会) | 4.5 |
| 委託費 | 観測機器設置・維持管理・定期観測業務(株式会社西村商会)、自動観測フイの維持管理・定期観測業務(株式会社ジャパンジャスティス) | 5.9 | 雑役務費 | 用船料、用車料等 | 1.2 |
| 消耗品費 | 研究資材等 | 5.8 | 印刷製本費 | 報告書、検討会資料の作成費 | 0.7 |
| 旅費 | 事業実施に係る調査旅費及び会議出席旅費 | 4 | 旅費 | 事業実施に係る調査旅費及び会議出席旅費 | 0.5 |
| 雑役務費 | 観測機器設置等 | 1.9 | 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 0.5 |
| その他 | 諸経費、借料・損料、消費税等 | 2.9 | その他 | 消耗品費、諸経費、消費税等 | 0.7 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 27 | 計 | | 8.1 |
| G.一般社団法人 漁業情報サービスセンター | | | H.国立研究開発法人 水産研究・教育機構 | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 4.2 | 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 2 |
| その他 | 役員費等 | 1.1 | 消耗品費 | 試薬類、ガラス器具類、分析器具類等 | 1.8 |
| 管理費 | 事務所借料、管理人件費等 | 0.9 | 備品費 | 微量送液ポンプ等 | 0.6 |
| 旅費 | 事業実施に係る会議出席旅費 | 0.4 | その他 | 諸経費、職員旅費、消費税等 | 0.7 |
| 印刷製本費 | 報告書、検討会資料の作成費 | 0.3 | | | |
| リース代 | パソコン等 | 0.2 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 7.1 | 計 | | 5.1 |

費目・用途欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙2】に記載

チェック

支出先上位10者リスト

A.漁場生産力回復共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|-------------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 香川県水産試験所 | 8000020370002 | ノリ養殖漁場における施肥による生産力回復手法の開発 | 3 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 2 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1020005004051 | ノリ養殖場における新技術を用いた監視手法の開発 | 3 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 3 | 愛媛県栽培資源研究所 | 1000020380008 | アオノリ養殖漁場における施肥による生産力回復手法の開発 | 2.1 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 4 | 徳島県水産研究課 | 4000020360007 | ノリ・ワカメ養殖漁場における施肥による生産力回復手法の開発 | 2.1 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 5 | 岡山県水産研究所 | 4000020330001 | ノリ養殖漁場における海底耕耘による生産力回復手法の開発 | 2.1 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 6 | 国立大学法人香川大学 | 7470005001659 | ノリ養殖漁場における施肥による生産力回復手法の開発 | 0.8 | 補助金等交付 | 1 | | |

B.赤潮・貧酸素観測技術開発共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|---------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 大型自動観測ブイの設計・改良・設置及び実証試験 | 8.6 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 2 | 東町漁業協同組合 | 5340005005179 | テレメーターシステムの設計・開発・設置及び実証試験 | 6.7 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 3 | 熊本県海水養殖漁業共同組合 | 5330005007390 | テレメーターシステムの設計・開発・設置及び実証試験 | 3 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 4 | 長崎県総合水産試験場 | 4000020420000 | テレメーターシステムの設計・開発・設置及び実証試験 | 1.9 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 5 | 熊本県水産研究センター | 7000020430005 | テレメーターシステムの設計・開発・設置及び実証試験 | 0.8 | 補助金等交付 | 1 | | |
| 6 | 天草市水産研究センター | 9000020432156 | テレメーターシステムの設計・開発・設置及び実証試験 | 0.3 | 補助金等交付 | 1 | | |

C.海と渚環境美化・油濁対策機構

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------------------|---------------|-------------------------------------|--------------|--------|----------------|-----|---|
| 1 | 公益財団法人 海と渚環境美化・油濁対策機構 | 5010005000139 | 漁業・養殖業に由来する海洋プラスチックごみの削減方策の実証・検討と普及 | 13 | 補助金等交付 | 1 | | |

D. 栄養塩影響調査共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------------|---------------|--|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 栄養塩等の水質環境が沿岸海域の漁業生産及び小型魚類の生産量に及ぼす影響の調査 | 13.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 国立大学法人愛媛大学 | 9500005001934 | 栄養塩等の水質環境が小型魚類の生産量に及ぼす影響の解明 | 10 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 和歌山県 | 4000020300004 | 栄養塩等の水質環境が沿岸海域の漁業生産に及ぼす影響の解明 | 2.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 国立大学法人香川大学 | 7470005001659 | 栄養塩等の水質環境が沿岸海域の漁業生産に及ぼす影響の解明 | 1.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | 一般社団法人全国水産技術者協会 | 4010405007817 | 栄養塩管理方針の検討 | 1.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | 兵庫県農林水産技術総合センター | 8000020280003 | 栄養塩等の水質環境が沿岸海域の漁業生産に及ぼす影響の解明 | 1.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

E. 赤潮共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|----|--------------------|---------------|--|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 国立研究開発法人水産研究・教育機構 | 1020005004051 | ①有害赤潮プランクトンの出現動態監視及び予察技術開発 ②赤潮の防除・被害軽減手法の開発 ③有害赤潮プランクトンのモニタリング技術の開発・実証及び普及並びにデータ利活用の促進 | 27 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 海洋エンジニアリング株式会社 | 1010501011824 | ② | 4.8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 大分県農林水産研究指導センター | 1000020440001 | ①、② | 2.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 兵庫県立農林水産技術総合センター | 8000020280003 | ① | 2.4 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | 鹿児島県水産技術開発センター | 8000020460001 | ①、② | 2.3 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | 三重県水産研究所 | 5000020240001 | ①、② | 2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 7 | 株式会社アイコック | 4310001008271 | ③ | 1.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 8 | 岡山県農林水産総合センター | 4000020330001 | ① | 1.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 9 | 愛媛県農林水産研究所水産研究センター | 1000020380008 | ① | 1.8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 10 | 香川県赤潮研究所 | 8000020370002 | ① | 1.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

F. 貧酸素対策共同研究機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-----------------------|---------------|--------------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 8.2 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 株式会社アイコック | 4310001008271 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 1.8 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 千葉県 | 4000020120006 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 1.5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 4 | 熊本県 | 7000020430005 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 0.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 5 | 神奈川県 | 1000020140007 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 0.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 6 | 長崎県 | 4000020420000 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 0.9 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 7 | 佐賀県 | 1000020410004 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 0.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 8 | 福岡県 | 6000020400009 | 貧酸素水塊の予察技術、 被害軽減手法の開発 | 0.6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

G. 有害赤潮の種判別手法の開発共同実施機関

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------------------|---------------|-------------------------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 一般社団法人漁業 情報サービスセン ター | 4010005005675 | リモートセンシングを活用し た有害赤潮の種判別手法 の開発 | 7.1 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 株式会社パスコ | 5013201004656 | リモートセンシングを活用し た有害赤潮の種判別手法 の開発 | 4.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 3 | 国立大学法人名古屋 大学 | 3180005006071 | リモートセンシングを活用し た有害赤潮の種判別手法 の開発 | 2.7 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |

H. 国立研究開発法人 水産研究・教育機構

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|--|-----------------------|---------------|----------------------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 | 1020005004051 | プラスチックを摂食した魚 介類の生態的情報等の調 査 | 5 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 支出先上位10者リスト欄についてさらに記載が必要な場合はチェックの上【別紙3】に記載 | | | | | | | チェック | <input checked="" type="checkbox"/> |

| I.株式会社西村商会 | | | J.株式会社ジャパンジャスティス | | |
|---------------|------------------|--------------|------------------|----------------|--------------|
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 1.4 | 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 1.6 |
| 借料・損料 | 用船料、用車料 | 0.7 | 借料・損料 | 用船料、用車料 | 0.5 |
| 通信運搬費 | サーバー管理費、試料送付料等 | 0.6 | その他 | 消耗品費、消費税等 | 0.6 |
| その他 | 消耗品費、消費税等 | 0.5 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 3.2 | 計 | | 2.7 |
| K.有限会社アクアラボ遊知 | | | L.株式会社西村商会 | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 設計開発費 | システム開発等のために必要な経費 | 0.4 | 人件費 | 事業を補助する者の賃金 | 2.4 |
| | | | 借料・損料 | 用船料、用車料 | 1 |
| | | | 通信運搬費 | サーバー管理費、試料送付料等 | 0.1 |
| | | | その他 | 消耗品費、消費税等 | 1 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0.4 | 計 | | 4.5 |
| M.有限会社アクアラボ遊知 | | | N. | | |
| 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) | 費目 | 使 途 | 金 額 (百万円) |
| 設計開発費 | システム開発等のために必要な経費 | 0.2 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 0.2 | 計 | | 0 |

費目・使途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と使途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

別紙3

I.株式会社西村商会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------|---------------|--------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | 株式会社西村商会 | 1310001001650 | 観測機器設置・維持管理・定期観測業務 | 3.2 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 98.6% | |

J.株式会社ジャパングラスティス

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------------|---------------|-------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | 株式会社ジャパングラスティス | 1180302015685 | 自動観測機の維持管理・定期観測業務 | 2.7 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 99.2% | |

K.有限会社アクアラボ遊知

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------|---------------|--------------------------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 有限会社アクアラボ遊知 | 6320002018168 | 水質の連続観測データのデータベース化及びデータベース管理業務 | 0.4 | 随意契約 (その他) | | | |

L.株式会社西村商会

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|----------|---------------|--------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | 株式会社西村商会 | 1310001001650 | 観測機器設置・維持管理・定期観測業務 | 4.5 | 一般競争契約 (最低価格) | 2 | 98.2% | |

M.有限会社アクアラボ遊知

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|-------------|---------------|---------------------|--------------|---------------|----------------|-----|---|
| 1 | 有限会社アクアラボ遊知 | 6320002018168 | 「沿岸海域水質鉛直データベース」の改良 | 0.2 | 随意契約 (その他) | | | |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0265

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-----------------------------|--|------------|--------|------------|--|------|--------|-----------|--------|
| 事業名 | 厳しい環境条件下におけるサンゴ礁の面的保全・回復技術開発実証委託事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成30年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成37年度 | 担当課室 | 漁港漁場整備部整備課 | | | 整備課長 浅川典敬 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令(具体的な条項も記載) | | | | 関係する計画、通知等 | 排他的経済水域及び大陸棚の保全及び利用促進のための低潮線保全及び拠点施設の整備等に関する基本計画(平成22年7月閣議決定)、水産基本計画(平成29年4月閣議決定)、漁港漁場整備長期計画(平成29年3月閣議決定)、海洋基本計画(平成30年5月閣議決定)、生物多様性国家戦略(平成24年9月閣議決定) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策、科学技術・イノベーション | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 近年顕在化している高水温によってサンゴ礁が大規模に衰退する場合、自力や移植による手法だけでは回復に長時間を要することが問題となっているため、本事業によりサンゴ礁の面的な保全・回復技術の開発・実証を行い、大規模に衰退したサンゴの効率的・効果的な保全・回復を図ることで漁場環境の保全に資することを目的とする。 | | | | | | | | |
| 事業概要(5行程度以内。別添可) | (1)サンゴ礁への幼生供給力を高める面的な保全・回復技術の開発 浮遊幼生の移動特性を踏まえた効果的な基盤の配置手法やサンゴ幼生供給基盤と供給規模を拡大する技術及びサンゴ幼生着床・育成基盤と着床率を向上させる技術の開発・実証を行う。また、移植サンゴの成長阻害要因対策手法の開発・実証やICT技術を活用したサンゴの被度・計測技術の開発を行う。 (2)海洋環境等変化に順応できるサンゴ開発 海洋環境等の変化に強いサンゴ種の増殖手法及び高温耐性型サンゴの種苗生産技術を開発する。 (委託事業) | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額(単位:百万円) | 予算の状況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 0 | 0 | 150 | 153 | 153 | | |
| | 執行額 | 0 | 0 | 147 | | | | | |
| | 執行率(%) | - | - | 98% | | | | | |
| 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | - | - | 98% | | | | | | |
| 平成31・32年度予算内訳(単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 水産資源回復対策調査等委託費 | 153 | 153 | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | 153 | 153 | | | | | | |
| 成果目標及び成果実績(アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | 成果実績 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 | 目標最終年度 |
| | | | | | | | 年度 | 37年度 | 年度 |
| | | | | 倍 | - | - | 293 | - | - |
| | | | | 倍 | - | - | 10 | - | 10 |
| 達成度 | % | - | - | 2,930 | - | - | | | |
| 根拠として用いた統計・データ名(出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |

| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
|---|---------------|----------------------|-----|-------------|--------------|--------------|--------------|---------------|-------|
| | 活動実績 | 当初見込み | | | | | | | |
| サンゴ礁の面的な保全・回復技術の開発・実証にかかる調査・実証項目 | 活動実績 | 調査・実証項目 | - | - | 7 | - | - | | |
| | 当初見込み | 調査・実証項目 | - | - | 7 | 7 | 6 | | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | |
| | 活動実績 | 当初見込み | | | | | | | |
| 種苗生産したサンゴ数 | 活動実績 | 群体 | - | - | 4,800 | - | - | | |
| | 当初見込み | 群体 | - | - | 3,000 | 3,000 | 10,000 | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | 単位当たりコスト | 計算式 | | | | | 百万円 | - | - |
| サンゴ礁の面的な保全・回復技術の開発・実証に係る執行額／調査・実証項目数 | 単位当たりコスト | 百万円/調査・実証項目数 | - | - | 147/7 | 152.6/7 | | | |
| | 計算式 | 千円/群体 | - | - | 146,880/4800 | 152,602/3000 | | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | |
| | 単位当たりコスト | 計算式 | | | | | 千円 | - | - |
| サンゴ礁の面的な保全・回復技術の開発・実証にかかる執行額／種苗生産したサンゴ数 | 単位当たりコスト | 千円/群体 | - | - | 146,880/4800 | 152,602/3000 | | | |
| | 計算式 | 千円/群体 | - | - | 146,880/4800 | 152,602/3000 | | | |
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | |
| | 施策 | ⑩水産資源の回復 | | | | | | | |
| | 測定指標 | 定量的指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標年度 34 年度 | |
| | | 主な栽培漁業対象魚種及び養殖業等の生産量 | 実績値 | 千トン | 1,568 | 1,524 | 1,490 | - | - |
| | | | 目標値 | 千トン | 1,726 | 1,728 | 1,730 | - | 1,739 |
| 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | |
| サンゴ礁の面的保全・回復技術の確立及び普及を図ることにより、多様な水産生物の生息場となるサンゴ礁の保全・再生を図り、水産資源の増殖環境を整え、もって、水産資源の維持・増大に寄与する。 | | | | | | | | | |
| 新経済・財政再生計画改革工程表 2018 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | |
| | KPI (第一階層) | KPI (第一階層) | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | | 成果実績 | | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | | | |
| | 達成度 | % | | | | | | | |
| | KPI (第一階層) | KPI (第一階層) | 単位 | 計画開始時 年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標 年度 | 目標最終年度 年度 | |
| | | 成果実績 | | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | |
| 達成度 | % | | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|------------------------------|--|---|---|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 国民への水産物の安定供給のため、多様な水産物の生息場となるサンゴ礁の保全・再生により漁場環境の改善を図る必要がある。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | サンゴ礁の面的保全・回復技術は漁場環境の持続的な改善に不可欠な技術であるものの、研究事例が少ないため現地実証レベルの技術の開発は容易でなく、地方自治体、民間等による実施は困難であり、国が行う必要がある。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 水産資源の回復のためには漁場環境の改善が必要である。特にサンゴ礁域の漁場環境を改善するためにはサンゴ礁の面的保全・回復技術の開発が不可欠であり、優先度の高い事業である。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | ○ | 当該事業は総合評価入札による公募を行っており、複数者の応札により委託先を選定しており、競争性が確保されている。 |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 無 | |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 確立されていない技術に関する技術開発であること、また、その技術は事業主体以外でも活用できることから、委託により実施している。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 種苗生産にかかる単位当たりコストは妥当である。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | ○ | 再委託は最小限となっているため、合理的である。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 業務完了後、各委託先の経費の内訳について検査を行い、使途が適切であることを確認した。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 執行率は98%であり、不用はほとんど出ていない。 |
| 繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | - | 繰り越しは発生していない。 | |
| その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。 | ○ | 既存資料を有効活用することにより、調査実証作業の効率化を図り、人件費の縮減等によりコストを削減できた。 | |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 10m×10mの限定的な範囲の実証において、加入量が天然の293倍(目標:10倍)を達成した。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 入札時の応札者から提案書や業務計画書を確認した上で、効果性と効率性から総合的に委託先を選定し事業を実施している。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | ○ | 当初見込んだ活動量を達成している。特に種苗生産したサンゴ数は見込みを大きく上回っている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 沖縄県において本事業で開発した技術を活用して、H31年度から単独事業に、R4年度から水産基盤整備事業を活用し、魚礁整備に着手予定である。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| | | | |
| | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | <p>・高水温によりサンゴ礁が大規模に衰退した翌年には、産卵可能な親サンゴが少なくなるため、サンゴの幼生供給が減少し、サンゴの再生力が低下する。また、周辺海域から幼生供給が期待できる海域では自立的な回復が可能であるが、絶海の孤島である沖ノ鳥島のように、周辺からの種苗の自然加入が見込めない厳しい環境条件下において、有性生殖技術を活用し、サンゴ礁を面的に保全・回復する技術を確立する本事業の意義は大きいものである。また、実証海域である沖ノ鳥島は、排他的経済水域として、40万km²を有する等漁業等の経済活動上、重要な島であると共に、サンゴ礁の有する消波機能やサンゴ砂礫の集積による島の保全が強く求められているところであり、サンゴ増殖による水産資源の維持増大を図るとともに、排他的経済水域の起点となる沖ノ鳥島の保全及び周辺海域での持続的漁業活動に資する本事業は国として積極的に取り組む必要性は高い。</p> <p>・平成30年度は、平成31年度からの本格的実証に先立って、必要な知見・データを取得するため、</p> <p>①10m×10mの小規模な幼生拡散試験</p> <p>②石垣島沿岸にて幼生収穫装置の耐減性、収集効率の検証</p> <p>③着床具と天然岩盤との着床・生存効果の比較検証</p> <p>を実施しており、①～③の実証において、概ね想定した有意性が確認でき、面的保全回復技術の実用可能性を確認した。</p> <p>また、海洋環境等の変化に対応できるサンゴ開発では、高温耐性の異なる群体間において、DNAを解析・比較し、塩基配列の変異部分を明らかにした。</p> <p>・総合評価落札方式により複数者の応札となり、競争性は確保されている。</p> |
| | 改善の方向性 | | 幼生拡散試験の範囲を段階的に拡大して、本格的実証を行う等、今後も有効に実施できるように検討していく。 |

外部有識者の所見

事業目的や事業内容が限定されていることから、より効率的な事業実施に努める必要がある。

行政事業レビュー推進チームの所見

現状通り

本事業は、外部有識者所見を踏まえた効率的な事業執行に努めること。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

現状通り

外部有識者所見を踏まえて効率的な事業執行に努める。

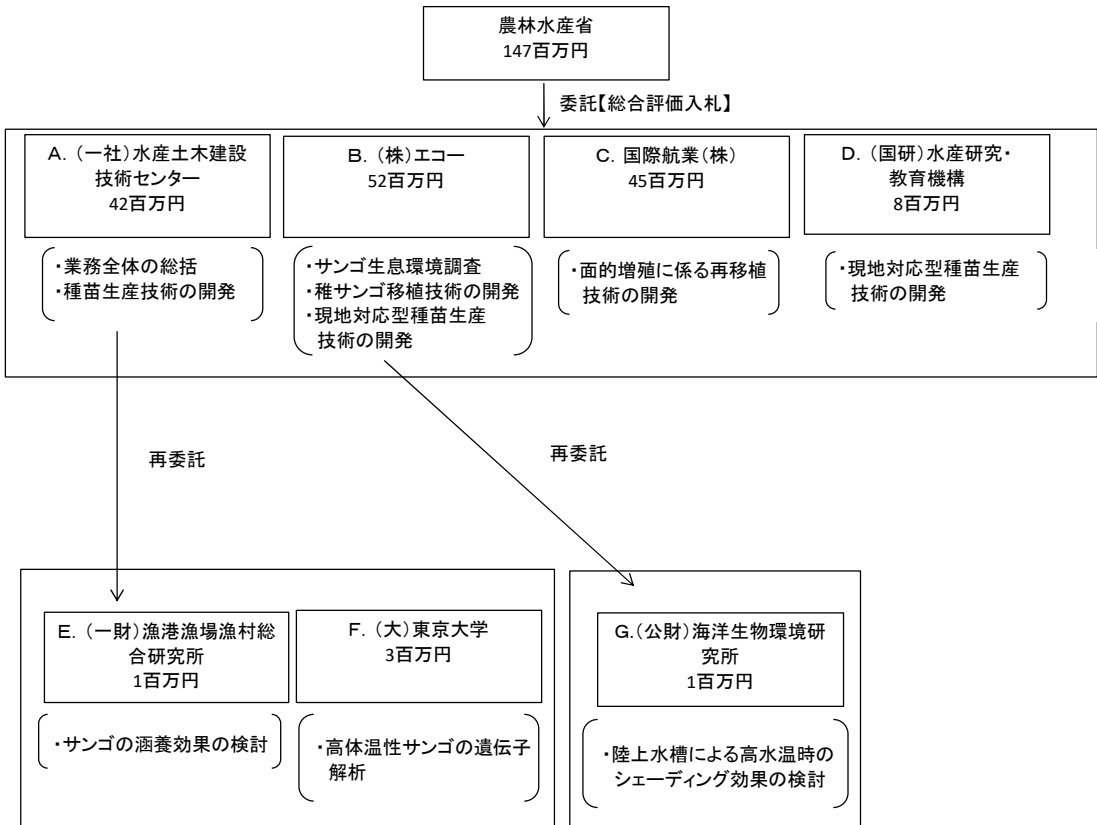
備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------------|--------|--|--------|--|--------|--|
| 平成22年度 | | 平成23年度 | | 平成24年度 | | 平成25年度 | |
| 平成26年度 | | 平成27年度 | | 平成28年度 | | 平成29年度 | |
| 平成30年度 | 農林水産省 (新30 - 0031) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
(単位: 百万円)



費目・用途
 (「資金の流れ」に
 おいてブロックご
 とに最大の金額
 が支出されている
 者について記載
 する。費目と用途
 の双方で実情が
 分かるように記
 載)

| A.(一社)水産土木建設技術センター | | | B.(株)エコー | | |
|--------------------|--------------------------|-------------|-----------------|-----------------|-------------|
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 技術者、研究者等 | 23 | 人件費 | 技術者、研究者等 | 12 |
| 消耗品費 | サンゴ種苗生産資材費等 | 3 | 旅費 | 現地調査 | 4 |
| 委託費 | 漁港漁場総合研究所、東京大学 | 4 | 消耗品費 | 水中ボンド、基盤補修剤 | 2 |
| 設備維持費 | サンゴ種苗生産施設維持費 | 3 | 船舶経費 | 調査補助船 | 20 |
| 旅費 | 現地調査 | 4 | その他 | 諸経費(事務所借料、光熱水費) | 13 |
| 委員会経費 | 会議費、旅費、謝金 | 1 | 委託費 | 海洋生物環境研究所 | 1 |
| その他 | 諸経費(事務所借料、光熱水費等) | 4 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 42 | 計 | | 52 |
| C.国際航業(株) | | | D.(国研)水産研究・教育機構 | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 人件費 | 技術者、研究者等 | 23 | 人件費 | 研究者等 | 3 |
| 旅費 | 現地調査 | 5 | 旅費 | 現地調査 | 1 |
| 船舶経費 | 調査補助船 | 1 | 調査費 | 船舶費、消耗品費 | 2 |
| 調査機材費 | 調査機器損料 | 1 | その他 | 諸経費(光熱水費) | 2 |
| 消耗品費 | 水中ボンド、食害防止剤 | 1 | | | |
| その他 | 諸経費(事務所借料、光熱水費等) | 14 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 45 | 計 | | 8 |
| E.(一財)漁港漁場総合研究所 | | | F.(大)東京大学 | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 調査費 | サンゴの涵養効果の検討 | 1 | 調査費 | 高温耐性サンゴの遺伝子解析 | 3 |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 1 | 計 | | 3 |
| G.(公財)海洋生物環境研究所 | | | H. | | |
| 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| 調査費 | 陸上水槽による高水温時のシェーディング効果の検討 | 1 | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 計 | | 1 | 計 | | 0 |

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------------|---------------|-------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | (一社)水産土木建設技術センター | 7010005003065 | 業務全体の総括、種苗生産技術の開発 | 42 | 指名競争契約 (総合評価) | 2 | 98.1% | - |

B

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|--------|---------------|--------------------------------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | (株)エコー | 2010501016723 | サンゴ生産環境調査、稚サンゴ移植技術の開発、現地対応型種苗生産技術の開発 | 52 | 指名競争契約 (総合評価) | 2 | 98.1% | - |

C

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------|---------------|-----------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | 国際航業(株) | 9010001008669 | 面的増殖に係る再移植技術の開発 | 45 | 指名競争契約 (総合評価) | 2 | 98.1% | - |

D

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|----------------|--------------|------------------|----------------|-------|---|
| 1 | (国研)水産研究・教育機構 | 1020005004051 | 現地対応型種苗生産技術の開発 | 8 | 指名競争契約 (総合評価) | 2 | 98.1% | - |

E

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|------------------|--------------|-------|----------------|-------|---|
| 1 | (一社)漁港漁場総合研究所 | 1010005000142 | サンゴの涵養効果の検討【再委託】 | 1 | その他 | - | 98.1% | - |

F

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|------------|---------------|--------------------|--------------|-------|----------------|-------|---|
| 1 | 国立大学法人東京大学 | 5010005007398 | 高温耐性サンゴの遺伝子解析【再委託】 | 3 | その他 | - | 98.1% | - |

G

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|-------------------------------|--------------|-------|----------------|-------|---|
| 1 | (公財)海洋生物環境研究所 | 4011105005400 | 陸上水槽による高水温時のシェーディング効果の検討【再委託】 | 1 | その他 | - | 98.1% | - |

※平成31年以降の表記は、新元号に読み替えることとする。

事業番号 0266

| 平成31年度行政事業レビューシート (農林水産省) | | | | | | | | | |
|-------------------------------|--|-----------------------------|--------|------------------|--|------|--------|--------------|-----------------|
| 事業名 | 海洋生態系保全動向調査事業 | | | 担当部局庁 | 水産庁 | | | 作成責任者 | |
| 事業開始年度 | 平成30年度 | 事業終了(予定)年度 | 平成32年度 | 担当課室 | 増殖推進部漁場資源課 | | | 漁場資源課長 江口静也 | |
| 会計区分 | 一般会計 | | | | | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | 水産資源保護法第29条 | | | 関係する計画、通知等 | 水産基本計画(平成29年4月 閣議決定)、 海洋基本計画(平成30年5月 閣議決定)、 生物多様性国家戦略2012-2020(平成24年9月 閣議決定)、 農林水産省生物多様性戦略(平成24年2月 農林水産省) | | | | |
| 主要政策・施策 | 海洋政策 | | | 主要経費 | 食料安定供給関係 | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 本事業は、海洋生態系を維持しつつ、持続的な漁業を実現することを最終目的としている。その実現に当たって、 ・海洋保護区の適切な設置と管理の充実を進めることが課題となっており、国内外の優良事例について調査・分析を行った上で、我が国における管理措置等の提言を行う。 ・また、必要以上に漁業の規制強化を図る動きへの適切な対応が必要となっており、国際的な議論等を調査・分析し、科学的根拠に基づいて主張していく。 | | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | ・海洋保護区の設定について、国内外の優良事例を選定し、具体的な管理措置や有効性及びその検証方法について情報収集及び分析を行った上で、我が国における海洋保護区の設定及び管理措置導入に向けた提言を行う。 ・また、我が国の水産業にとって重要なウナギやナマコ・サメ等について、ワシントン条約等の国際会議における議論の動向や、提案の背景・妥当性等について詳細に調査・分析し、それらが我が国の漁業活動へ与える影響等を評価するとともに、国際会議等で海洋生物の持続的利用についての我が国の考え方を情報発信する。 (委託事業) | | | | | | | | |
| 実施方法 | 委託・請負 | | | | | | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | 予算の状況 | 当初予算 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 | 32年度要求 | | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | - | | |
| | | 前年度から繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 翌年度へ繰越し | - | - | - | - | - | | |
| | | 予備費等 | - | - | - | - | - | | |
| | | 計 | 0 | 0 | 16 | 16 | 0 | | |
| | 執行額 | 0 | 0 | 16 | | | | | |
| | 執行率(%) | - | - | 100% | | | | | |
| | 当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%) | - | - | 100% | | | | | |
| 平成31・32年度 予算内訳 (単位:百万円) | 歳出予算目 | 31年度当初予算 | 32年度要求 | 主な増減理由 | | | | | |
| | 水産資源回復対策調査等委託費 | 16 | 0 | 平成32年度は別事業に統合予定。 | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | |
| | 計 | 16 | - | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 32 年度 |
| | 平成32年度までに我が国の海洋保護区の設定及び管理措置に関する提言を2つ以上行う。 | 我が国の海洋保護区設定及び管理措置に関する提言数 | 成果実績 | 提言数 | - | - | 0 | - | - |
| | | | 目標値 | 提言数 | - | - | 0 | - | 2 |
| | | | 達成度 | % | - | - | 0 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |
| 成果目標及び 成果実績 (アウトカム) | 定量的な成果目標 | 成果指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標 - 年度 | 目標最終年度 32 年度 |
| | ワシントン条約等の国際会議において、海洋生物の持続的利用に係る情報発信を、平成32年度までに12種以上について行う。 | 海洋生物の持続的利用に係る情報発信を行った水産対象種数 | 成果実績 | 種 | - | - | 4 | - | - |
| | | | 目標値 | 種 | - | - | 4 | - | 12 |
| | | | 達成度 | % | - | - | 100 | - | - |
| 根拠として用いた統計・データ名 (出典) | 水産庁調べ | | | | | | | | |

| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | | |
|---|---|----------------------|------------------------------------|---------|------|---------------|---------------|--------------|------|-------|
| | 活動実績 | 当見込み | | | | | | | | |
| 国内外における資源管理事例の調査・分析数 | 活動実績 | 箇所数 | - | - | 4 | - | - | | | |
| | 当見込み | 箇所数 | - | - | 4 | 4 | - | | | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度 活動見込 | 32年度 活動見込 | | |
| | 活動実績 | 当見込み | | | | | | | | |
| 環境関連条約等で議論されている水産対象種に関する調査・分析を行い、我が国漁業活動への影響や情報発信等について議論する検討会の開催数 | 活動実績 | 開催数 | - | - | 1 | - | - | | | |
| | 当見込み | 開催数 | - | - | 3 | 2 | - | | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | |
| | 単位当たりコスト | 関係予算額／調査・分析数 | | | | | 千円 | - | - | 1,824 |
| | | 計算式 | 関係予算額／調査・分析数 | - | - | 7,296(千円)／4箇所 | 5,550(千円)／4箇所 | | | |
| 単位当たりコスト | 算出根拠 | | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 31年度活動見込 | | | |
| | 単位当たりコスト | 関係予算額／検討会の開催数 | | | | | 千円 | - | - | 8,803 |
| | | 計算式 | 関係予算額／開催数 | - | - | 8,803(千円)／1回 | 10,550(千円)／2回 | | | |
| 政策評価、新経済・財政再生計画との関係 | 政策 | 5 水産物の安定供給と水産業の健全な発展 | | | | | | | | |
| | 施策 | ㊸ 水産資源の回復 | | | | | | | | |
| | 政策評価 | 測定指標 | 定量的指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標年度 | 目標年度 | |
| | | | 国際機関による資源管理対象魚種数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 魚種数 | 92 | 93 | 96 | | |
| | | | | 目標値 | 魚種数 | 90 | 92 | 93 | | |
| | | | 定量的指標 | 単位 | 28年度 | 29年度 | 30年度 | 中間目標年度 | 目標年度 | |
| | | | 漁業協定数 (目標値は対前年増又は同数) | 実績値 | 協定数 | 53 | 53 | 53 | | |
| | | | | 目標値 | 協定数 | 53 | 53 | 53 | | |
| | 本事業の成果と上位施策・測定指標との関係 | | | | | | | | | |
| | 海洋生態系に配慮した資源管理措置の導入に向けた調査・分析や環境関連の国際条約等で我が国の持続的利用の考え方について情報発信を行うことにより、水産資源の持続的利用、ひいては水産物の安定供給と水産業の健全な発展に寄与する。 | | | | | | | | | |
| 新経済・財政再生計画改革工程表 2018 | 取組事項 | 分野: | - | | | | | | | |
| | (第一階層) KPI | KPI (第一階層) | 単位 | 計画開始時年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標年度 | 目標最終年度 | | |
| | | 成果実績 | | | | | | | | |
| | | 目標値 | | | | | | | | |
| | 達成度 | % | | | | | | | | |
| | (第二階層) KPI | KPI (第二階層) | 単位 | 計画開始時年度 | 30年度 | 31年度 | 中間目標年度 | 目標最終年度 | | |
| 成果実績 | | | | | | | | | | |
| 目標値 | | | | | | | | | | |
| 達成度 | % | | | | | | | | | |
| 本事業の成果と取組事項・KPIとの関係 | | | | | | | | | | |
| - | | | | | | | | | | |

事業所管部局による点検・改善

| | 項目 | 評価 | 評価に関する説明 |
|----------|--|------|--|
| 国費投入の必要性 | 事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。 | ○ | 本事業は水産資源の持続的利用、ひいては水産物の安定供給と水産業の健全な発展に資するものであり、国民のニーズを反映している。 |
| | 地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。 | ○ | 本事業は、水産基本計画における「漁場環境の保全と生態系の維持」、海洋基本計画における「海洋環境の維持・保全」や、生物多様性条約締約国会議で合意された「愛知目標」の達成等に向けた「生物多様性国家戦略2012-2020」の実行のために必要な取組であり、国として行うべき事業である。 |
| | 政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。 | ○ | 上述のとおり水産基本計画や「生物多様性国家戦略2012-2020」の実行のために必要な取組であり、取り組むべき事業としての優先度は高い。 |
| 事業の効率性 | 競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。 | △ | 複数の事業者が入札に参加できるよう、競争性・透明性の一層の向上に向け、事業者への情報提供として過年度報告書の閲覧等の実施、公示期間の拡大を行う等の対策を行ったが、平成30年度は、一般競争入札(総合評価方式)の結果、一者応札となった。 |
| | 一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。 | 有 | 海洋保護区やワシントン条約等環境関連条約における国際議論の動向等に対する専門的な知識を有している者が少なく、これらの者が共同して効率的な事業提案をしているため、一者応札になりやすい状況である。 |
| | 競争性のない随意契約となったものはないか。 | 無 | |
| | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | ○ | 本事業は、漁業への不当な圧力等を排除し、我が国漁業の持続的な活動及び国民への水産資源供給の確保に資するものであり、負担関係は妥当である。 |
| | 単位当たりコスト等の水準は妥当か。 | ○ | 効率的な予算の執行に努めており、単位当たりのコストは増加していない。 |
| | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | - | 中間段階での支出はない。 |
| | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | ○ | 費目・使途については、事業目的に即し真に必要なものに限定されている。 |
| | 不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載) | ○ | 執行率は、ほぼ100%である。 |
| 事業の有効性 | 成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。 | ○ | 我が国の海洋保護区設定及び管理措置に関する提言については、平成30年度は目標・実績ともに0となっているが、平成32年度までに提言を行うことを目標としており、問題はない。海洋生物の持続的利用に係る情報発信については、成果実績は目標に見合ったものとなっている。 |
| | 事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 | ○ | 有識者が共同で事業を実施し、より効率的な予算の執行に努めている。 |
| | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | × | 国内外における資源管理事例の調査・分析については、活動実績は当初見込みに見合ったものとなっている。検討会の開催については、活動実績が当初見込みを下回り、数値上では「×」になるが、国際会議への出席等を通じた調査・分析を重点的に行った結果であり、また、実施した1回の検討会で効果的な議論が行われている。 |
| | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | ○ | 本事業の成果は、漁業における生物多様性に係る国際的な議論への我が国の対応等に有効に活用されている。 |
| 関連事業 | 関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載) | - | |
| | 所管府省名 | 事業番号 | 事業名 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| 点検・改善結果 | 点検結果 | | 本事業は水産資源の持続的利用、ひいては水産物の安定供給と水産業の健全な発展に資するものであり、国民のニーズを反映している。また、水産基本計画における「漁場環境の保全と生態系の維持」や、生物多様性条約締約国会議で合意された「愛知目標」の達成等に向けた生物多様性国家戦略2012-2020の実行のために必要な取組であり、国として優先して行うべき事業である。高い専門性が求められ、一者応札になりやすい状況ではあるが、実施が必要不可欠な事業であり、競争性・透明性の一層の向上を図りつつ実施され、成果は有効活用されている。 |
| | 改善の方向性 | | 高い専門性が求められ、一者応札になりやすい状況であるが、複数の事業者が入札に参加できるよう、競争性・透明性の一層の向上に向け、事業者への情報提供として過年度報告書の閲覧等の実施、公示期間の拡大を行う等の対策を行う。 |

外部有識者の所見

このような国際的観点も含む情報の収集分析に国費を投じるのは理解できる。したがって後は一者応札になりやすいとのことなので、その点に注意し効率的実施に努めて欲しい。

行政事業レビュー推進チームの所見

抜
事
本
業
善
的
全
な
体
改
の

・活動実績について、当初の見込みを大幅に下回ったものがある。
 ・資金の流れAについて、一者応札(一者応募)となっている。
 ・外部有識者から、適切な事業執行に努めるよう指摘があった。
 以上のことから、「支援方策の抜本的な見直し」及び「支出先の選定における競争性・透明性の改善」を行うべきであり、本事業は「事業全体の抜本的な改善」とする。

所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況

改
年
善
度
討
を
内
検
に

支出先の選定における競争性・透明性の一層の向上に向け、事業者への情報提供として過年度報告書の閲覧の実施、公示期間の拡大を行う等、応募者数の増加が図られるよう対策を講じて参りたい。また、効率的な事業運営に努め、予定している検討会を着実に実施することとしている。

備考

関連する過去のレビューシートの事業番号

| | | | | | | | |
|--------|----------------------|--------|---|--------|---|--------|---|
| 平成22年度 | - | 平成23年度 | - | 平成24年度 | - | 平成25年度 | - |
| 平成26年度 | - | 平成27年度 | - | 平成28年度 | - | 平成29年度 | - |
| 平成30年度 | 農林水産省 (新30 - 0032) | | | | | | |

※平成30年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

農林水産省

16百万円

委託【総合評価入札】

A.(一社)自然資源保全協会、日本エヌ・ユー・エス(株)共同企業体

(2機関)

16百万円

○ 海洋保護区の設定について、国内外の優良事例を選定し、具体的な管理措置や有効性及びその検証方法について情報収集及び分析を行う。

○ ワシントン条約等の国際会議における議論の動向や、提案の背景・妥当性等について詳細に調査・分析し、それらが我が国の漁業活動へ与える影響等を評価する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)
 (単位:百万円)

| 費目・用途 (「資金の流れ」においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と用途の双方で実情が分かるように記載) | A.一般社団法人 自然資源保全協会 | | | - | | |
|--|-------------------|--------------------------------------|-------------|----|----|-------------|
| | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) | 費目 | 用途 | 金額 (百万円) |
| | 人件費 | 海洋保護区や環境関連条約に関する国際議論の動向の調査・分析等に係る人件費 | 7.2 | | | |
| | 旅費 | 国内外の調査、国際会議への参加に係る旅費 | 0.8 | | | |
| | その他 | 印刷製本費、諸謝金、翻訳費、消費税等 | 2 | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | 計 | | 10 | 計 | | 0 |

支出先上位10者リスト

A.

| | 支出先 | 法人番号 | 業務概要 | 支出額 (百万円) | 契約方式等 | 入札者数 (応募者数) | 落札率 | 一者応札・一者応募又は競争性のない随意契約となった理由及び改善策 (支出額10億円以上) |
|---|---------------|---------------|------------------------------|--------------|------------------|----------------|------|---|
| 1 | (一社)自然資源保全協会 | 5010005014163 | 事業の取りまとめ、事業に関する調査の実施、調査結果の解析 | 10 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |
| 2 | 日本エヌ・ユー・エス(株) | 8011101057185 | 事業に関する調査の実施、調査結果の解析 | 6 | 一般競争契約 (総合評価) | 1 | 100% | |